# 2016年度　活動報告書

法政大学ボランティアセンター

# 2016年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書　目次

第１章　2016年度ボランティアセンター活動報告

巻頭言（全学ボランティアセンター長）・・・

# 第１章　2016 年度　法政大学ボランティアセンター活動報告

## 巻頭言

法政大学ボランティアセンター長　内山政春

法政大学は、市ヶ谷、多摩、小金井の３キャンパスにボランティアセンターを置いています。本学のボランティアセンターは、ボランティアの名にふさわしく、その活動を学生が中心になって行なっています。活動の多くはキャンパスの特性に合わせて各キャンパスで行なわれているので、ここでは市ヶ谷キャンパスの状況について簡単に申し上げることにいたします。

市ヶ谷ボランティアセンターには、職員のほかに多数の学生スタッフがいます。

学生スタッフには２つのチームがあり、そのひとつが東日本大震災を契機に「東北被災地のために私たちにできることを」という理念で発足した「チーム・オレンジ」です。毎年春と夏、私たちは、東北地方の沿岸被災地の状況を学び、被災者の方々と交流を深めるスタディーツアーを実施しています。ツアーの計画から始まり、協力をあおぐ「遠野山・里・暮らしネットワーク」との交渉、そして実際の進行まで、学生スタッフであるチーム・オレンジのメンバーが中心となって行ないます。

私は昨年度初めてボランティアセンター長として春と夏、岩手と宮城の被災地を学生に同行して回りましたが、彼らのリーダーシップ、行動力には驚嘆させられました。またチーム・オレンジのメンバーだけでなく、参加した学生たちの、被災地と真剣に向き合う姿勢には心を打たれるものがあります。私自身がこの職位にいるのはある種偶然のことで、恥ずかしながらボランティア活動とはほど遠い環境にいたのですが、学生に同行して（学生に引率されていると言うべきでしょう）被災地の状況を知る貴重な機会を得ることができました。マスコミによって伝えられた知識（それも一面だけで、しかも年々風化している）ではわからない状況を実体験できるこの活動は、参加した私自身にとっても、言い古されたことばながら、まさに「百聞は一見にしかず」で、大学という教育機関でのボランティア活動の存在意義とその重要性を改めて感じます。

東日本大震災関連では、ほかに福島へのスタディーツアーも実施しています。原発事故のため避難生活を余儀なくされていた楢葉町などを訪問します。またこのツアーとは別途に、復興庁のプロジェクトの一環として、楢葉町の休耕田に種を撒き、民泊をさせていただくなど、地元の方々との交流を深める活動を行なっています。いずれの活動も、継続して行なうということによって、たとえ参加者は順次入れ替わっても、被災者の方々の信頼を得るのに大きな役割を果たしていることが感じられます。

ほかにも、熊本地震の被災者支援も含めた震災復興のためのチャリティー活動としての物産展、学生食堂の協力を得ての復興支援メニュー実施、東日本大震災発生の３月１１日前後に行なわれる募金活動（附属高校の生徒と共同で実施）など、これらの震災を風化させないための取り組みが行なわれています。

チーム・オレンジの活動に対する話が長くなりましたが、日々の地道な活動がボラ

ンティアセンターのもう一つの中心であるのは言うまでもありません。それを支えるのが、もうひとつの学生スタッフである VSP（ボランティア支援プロジェクト）です。VSP は法政大学ボランティアセンターの開設以前から活動を継続している団体で、いうならばボランティアセンターの母体になったと言っても過言ではありません。

市ヶ谷ボランティアセンターの活動の中には VSP が企画から運営まで中心となって行なっているものも多数あります。彼らは忙しい学業の間を縫って毎週会議を開き、そこからは新しいアイデアが生まれ、新規に始まった企画が好評で年度を越えていわば「定番企画」になったものもあります。

ボランティアセンターが主催する活動であっても、企画の段階から当日の運営まで VSP のメンバーが中心になって行なうものも少なくありません。たとえば NPO「富士山クラブ」の協力を得て毎年春と秋に行なわれるツアーでは、春には外来植物駆除、秋には清掃活動を行ないます。昨年秋の活動は東洋大学の学生と合同で行ない、ボアンティア活動を通じて学生同士の交流を深めることもできました。

チーム・オレンジの企画、VSP の企画ともに、最近は外国人留学生の参加がみられます。ボランティアセンターの活動が、外国人留学生の日本理解に役立っているとすればとてもうれしいことです。外国人といえば、東京オリンピックに向けて東京都との協定のもと共催した「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」は新しい試みです。さいわい好評で、昨年度２回実施したほか、今年度以降も引き続き実施する計画です。

またより日常的な活動として、千代田区との協力のもと、町内会、商店街など地元の方々とともに行なう「九段靖国周辺清掃」や、富士見わんぱくひろば（児童館）、まちのわ（富士見グランブルーム）での催し物への参加も忘れることはできません。

これらの活動を振り返ってみると、大学近辺から遠く東北各地や熊本まで、地元の方々のご協力が私たちのボランティア活動の土台となっていることを改めて実感させられます。この場をお借りして心よりお礼を申し上げる次第です。

その他の活動、また多摩キャンパスや小金井キャンパスでの活動についてはこの報告書の当該ページをご覧いただければさいわいです。

繰り返しになりますが、法政大学のボランティア活動の中心になるのは、学生スタッフをはじめとする学生たちで、職員のみなさんが裏で実務を支えてくださっています。関係各位におかれましては法政大学ボランティアセンターへのご理解とご支援を改めてお願い申し上げる次第です。

## 2016年度　市ケ谷ボランティアセンター来室者数集計

| | 来室者総数（人） | 学生（人） | その他(人) | 相談数(件)※ | 開室日数(日) |
|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 331 | 312 | 19 | 48 | 21 |
| 5月 | 293 | 268 | 25 | 40 | 19 |
| 6月 | 244 | 192 | 52 | 27 | 22 |
| 7月 | 206 | 176 | 30 | 8 | 21 |
| 8月 | 49 | 39 | 10 | 1 | 17 |
| 9月 | 152 | 143 | 9 | 11 | 22 |
| 10月 | 344 | 324 | 20 | 19 | 21 |
| 11月 | 315 | 295 | 20 | 7 | 21 |
| 12月 | 257 | 242 | 15 | 19 | 16 |
| 1月 | 130 | 117 | 13 | 10 | 16 |
| 2月 | 85 | 63 | 22 | 6 | 20 |
| 3月 | 146 | 124 | 22 | 24 | 21 |
| 合計 | 2,552 | 2,295 | 257 | 220 | 237 |

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

## 2016年度　多摩ボランティアセンター来室者数集計

| | 来室者総数（人） | 学生（人） | その他(人) | 相談数(件)※ | 開室日数(日) |
|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 142 | 129 | 13 | 113 | 21 |
| 5月 | 47 | 30 | 17 | 30 | 18 |
| 6月 | 45 | 35 | 10 | 31 | 22 |
| 7月 | 56 | 49 | 7 | 48 | 21 |
| 8月 | 8 | 8 | 0 | 7 | 17 |
| 9月 | 22 | 19 | 3 | 22 | 22 |
| 10月 | 52 | 49 | 3 | 49 | 21 |
| 11月 | 70 | 60 | 10 | 60 | 21 |
| 12月 | 42 | 38 | 4 | 35 | 17 |
| 1月 | 20 | 18 | 2 | 18 | 16 |
| 2月 | 8 | 8 | 0 | 7 | 20 |
| 3月 | 7 | 6 | 1 | 6 | 22 |
| 合計 | 519 | 449 | 70 | 426 | 238 |

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

## 2016年度　法政大学ボランティアセンター全学運営委員会

| 回数 | 日程 | 議　　題 |
|---|---|---|
| 第1回 | 11月28日 | 各地区ボランティアセンター活動計画（報告）、全学ボランティアセンターの課題等。 |

## 2016年度　市ケ谷ボランティアセンター運営委員会

| 回数 | 日程 | 議　　題 |
|---|---|---|
| 第1回 | 4月28日 | ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（春ボラ・エコキャップDEキャンパスツアー、ブラインドサッカーから学ぶ、富士山外来種駆除ボランティアについて）、チームオレンジ（熊本・東北被災物産展、学食企画、避難所体験、復興庁　ボランティアキャンペーンイベントの応募について）、外国人おもてなし語学ボランティア育成講座の実施について、ボランティア総合講座：学生の被災地支援から知る被災地の「今」～法政大生＆東洋大生の取り組み～について。今後の予定。 |
| 第2回 | 5月25日 | ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（富士山外来種駆除ボランティアの実施報告、ボランティア総合講座　謎解き×疑似体験から考える発達障害について、ブラインドサッカーから学ぶチームビルディングについて）、チームオレンジ（熊本・東北被災物産展、避難所体験、復興庁　ボランティア促進キャンペーンイベントの採択について）、今後の予定。 |
| 第3回 | 6月30日 | ボランティア情報審査、ボランティアセンター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（ボランティア総合講座　謎解き×疑似体験から考える発達障害、三鷹反転住宅、えこぴょん×くまもんコラボグッズ、検討中の企画他）、チームオレンジ（熊本・東北被災地物産展、学食企画、避難所体験、復興庁　ボランティア促進キャンペーンイベント報告、電通×環境省×チームオレンジ合同プロジェクト、その他）、ボランティアセンター（遠野被災地ボランティアの日程、ピアネット合同研修について）今後の予定。 |
| 第4回 | 9月29日 | ボランティア情報審査、ボランティアセンター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（防災まちのわフェスタ、えこぴょん×くまもんコラボグッズ、検討中の企画：法政大学「学び場ガイド」、日本橋発！ボートで行く東京清掃ボランティア、その他）、チームオレンジ（防災まちのわフェスタ、学食企画、法政フェア、遠野被災地ボランティア、大学祭、福島スタツア、環境省×電通×法政「景観植物を活用した休耕田～、その他）、ボランティアセンター（学生ボランティア団体支援　助成金の選考について）、今後の予定。 |
| 第5回 | 10月27日 | ボランティア情報審査、ボランティアセンター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（えこぴょん×くまもんコラボグッズ常設販売について、富士山清掃の報告、検討中の企画：法政大学「学び場ガイド」、猫カフェ企画、その他）、チームオレンジ（学食企画、福島フェス実施報告、大学祭、福島スタツア、環境省×電通×法政「景観植物を活用した休耕田の活用プロジェクト」、3.11募金）、全学ボランティアセンター運営委員会、今後の予定。 |
| 第6回 | 11月24日 | ボランティア情報審査、ボランティアセンター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（えこぴょん×くまもんコラボグッズ常設販売について、CSR 講座、子供たちと学ぶシャボン玉の科学、学び場ガイド、伴走ボランティア、澤の屋･谷中見学ツアー、その他)、チームオレンジ（学食企画、景観植物を活用した休耕田の活用プロジェクト、大学祭の実施報告、岩手･宮城スタツア、3.11 募金)、その他（被災地の産業復興と NPO の活動についての今を知る講義） |
| 第7回 | 12月22日 | ボランティア情報審査、ボランティアセンター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（えこぴょん×くまもんコラボグッズ常設販売について、CSR講座、子供たちと学ぶシャボン玉の科学実施報告、法政大学「学び場ガイド」、伴走ボランティア講座、澤の屋・谷中見学ツアー、代表交代）、チームオレンジ（学食企画実施報告、景観植物を活用した休耕田の活用プロジェクト報告会実施報告、岩手・宮城スタツア、消防署見学ツアー、4大学合同福島県楢葉町スタディツアー、他）、その他（被災地の産業復興とNPOの活動についての今を知る実施報告、東北・熊本　震災復興支援募金、お知らせ配信の利用について）今後の予定。 |

【付記】

●運営委員会は市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。

●ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成）に照らし合わせて判断。

# 第２章　市ケ谷ボランティアセンター活動の概要

１．活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2016 年度）：

【市ヶ谷ボランティアセンター】

①被災地震災に伴う学生ボランティア活動の支援

②既存プロジェクトの活性化

③地域貢献ボランティアの開発、発展

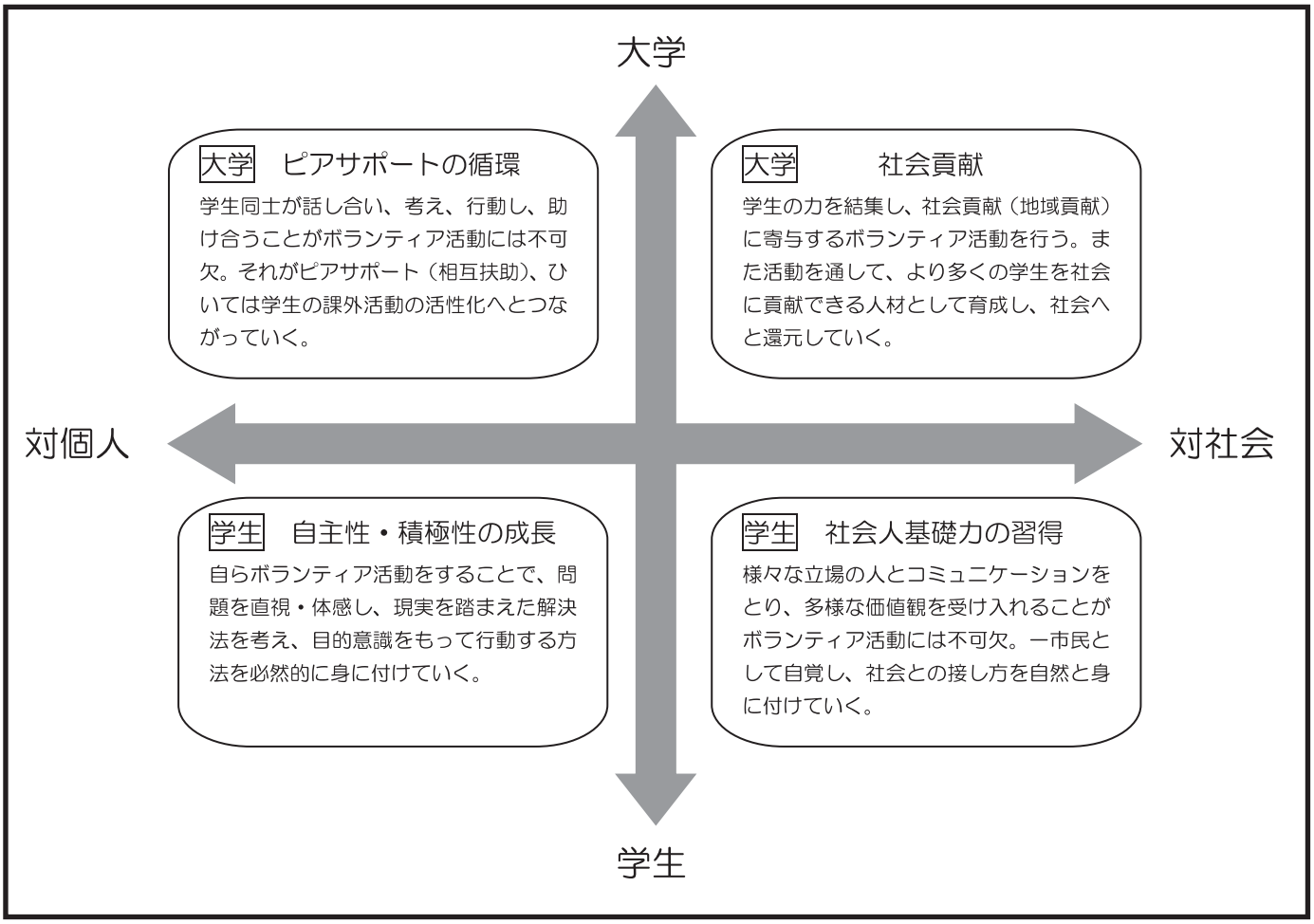
④ボランティアセンター学生スタッフの活性化

⑤学部生のボランティア促進を目的とした講座の実施、情報発信

【学生スタッフ】

●学生スタッフが主催するイベント・活動を通し、ピアサポートを念頭に置きながら、ボランティア活動の「きっかけ」や学生生活の「充実」を広く一般学生に対して提供する。

●自ら進んでボランティア活動を行い、地域貢献をすることで、経験を積み、視野を広げることを目指す。



## ２．2016 年度活動の特徴

市ケ谷ボランティアセンターでは、前出の「活動目標」を達成するために日々活動を行った。

①被災支援に伴う学生ボランティア活動の支援

●学内で可能な被災地・被災者サポート活動の活性化や震災関係啓蒙イベントの実施。

→「チーム・オレンジ」学生スタッフが、講師となり「避難所体験」を実施した。3 月 10 日には、付属校と合同で飯田橋・市ヶ谷駅前での募金活動を実施。また、学食と「チーム・オレンジ」学生スタッフのコラボ企画として、「学食で、東北・熊本名物を味わってみませんか？」と銘打ち、週替わりで東北３県・熊本県にちなんだメニューを提供した。
東北・熊本物産展を学内で開催し、利益を岩手、宮城、福島、熊本の義援金口座に寄付した。また、「チーム・オレンジ」学生スタッフと「VSP」学生スタッフが協力して、エコぴょん＆くまモンのコラボグッズを作製し物産展で販売した。

●環境省、楢葉町と連携して「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活用化事業」を実施した。

→環境省と楢葉町と「チーム・オレンジ」学生スタッフが連携して、休耕田を整備し、クリムゾンクローバーの種をまくボランティアと楢葉町住民宅への民泊を実施した。また六本木ヒルズ行われた福島フェスでは、楢葉米の掴みどり体験や、巨大太巻き作りなどのイベントを町民と協力して実施した。また本活動の報告会を法政大学で楢葉町住民を招き実施した。

●「チーム・オレンジ」学生スタッフが、福島スタディーツアー、岩手・宮城被災地スタディーツアーを実施。

→スタディーツアーは「チーム・オレンジ」学生スタッフが一般学生の被災地に対する理解を深めるために行っている企画であり、2016 年度の工夫点として、福島スタディーツアーでは、楢葉町を訪れ、放射能の被害について学ぶとともに、いわきワンダーファームを訪れ、新鮮な福島産の野菜を食べながら復興の状況を把握した。岩手・宮城スタディーツアーでは、避難所運営ゲームを「チーム・オレンジ」学生スタッフが一般参加者とともに、実施した。また、いかせんべい作り体験や、震災学習列車などに乗車するなどの様々な新しい取り組みを実施した。3 泊 4 日の行程で、往路は夜行バス、復路は新幹線利用とした。現地では貸切バスにて移動し、岩手県・宮城県を訪問の対象とし、被災地の現状について学ぶことができた。

●遠野被災地支援ボランティア（27～30 次隊）を実施した。

→今年度より、現地ＮＰＯ法人と「チーム・オレンジ」学生スタッフが連携し、プログラムの内容を検討した。プログラムの内容を検討するにあたり、「チーオレ新聞」を作成し被災者の方々に配布し、取材を実施した。「チーム・オレンジ」スタッフが中心となり 48 名の学生が被災地でボランティアを実施することができた。

②既存プロジェクトの活性化

●「富士山外来植物駆除ボランティア」「富士山清掃ボランティア」の実施。

→富士山清掃ボランティア、では今年度より富士山の美しさを体感してもらうため、清掃活動の前に「トレッキング」を実施しするとともに、東洋大学の学生と合同で実施し、学生間の交流を図った。

●「北海道夕張まちづくりボランティア」

→予算削減のため、2016 年度は実施しなかった。

③地域貢献ボランティアの開発、発展

●児童施設・富士見わんぱくひろばでの定期的なボランティアの実施。

→富士見わんぱく広場で開催されるイベントの手伝いをおこない、参加学生が地域の子供支援をすることができた。また手話サークルわたがし、児童文化研究会、アカデミー合唱団と連携し実施することができた。

●キャンパス周辺清掃ボランティアおよび富士見地区・九段地区町内会清掃ボランティアの継続、拡大

→参加者数は伸び悩んだが、計画通り定期的に実施することができた。

●「まちのわ」イベントを飯田橋グラン・ブルーム管理組合と共同実施。

→「まちのわ」イベントを飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと、2 回実施した。飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に開催された。本学の登録団体およぎ学生スタッフと連携し本イベントを盛りあげることができた。法政大学学生の取り組みについての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することができた。

④ボランティアセンター学生スタッフの活性化

●課外教養プログラムと VSP の合同企画を実施。

→2 団体の学生スタッフがコラボレーションして企画した「児童館訪問企画～子供たちと学ぶシャボン玉の科学」を実施した。また、これによって、地域貢献をすることもできた。

●新たなプロジェクトの立ち上げ。

→2016 年度は「チーム・オレンジ」のエコぴょん＆くまモンのコラボグッズ企画、「VSP」学生スタッフの謎解き×疑似体験から学ぶ発達障害企画などの数多くの新規のプログラムを実施することができた。

●ボランティアサークル活性化イベントやボランティアプログラム参加促進イベントの支援・実施サポート。

→ボランティアＷＥＥＫを実施。各ボランティアサークルに声をかけ、合同説明会を実施した。

⑤学部生のボランティア促進を目的とした講座の実施、情報発信

●東京都と協定を締結し、「外国人おもてなし語学育成ボランティア講座」を大学として初めて実施した。

→約 100 名程度のおもてなし語学ボランティアを育成でき、学生のボランティア促進に貢献することができた。

## 2016年度　市ヶ谷ボランティアセンター　イベントカレンダー

| 月　日 | 曜　日 | イベント・講座・訪問先 | 講師、協力先 |
|---|---|---|---|
| 4月11日～4月15日 | 月～金 | 春のボランティアWEEK | 学内9ボランティアサークル、VSP、チームオレンジ |
| 4月19日 | 火 | エコキャップDEキャンパスツアー | VSP |
| 4月20日 | 水 | 九段靖国周辺清掃(月1回) | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 4月21日 | 木 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 4月26日～7月8日 | ー | くまモン×えこぴょんコラボグッズプロジェクト | VSP、チームオレンジ |
| 4月27日 | 水 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 5月12日 | 木 | ボランティア総合講座1回　介助犬との「ふれあい」から学ぶ介助犬の一生について | 社会福祉法人　日本介助犬協会、VSP |
| 5月15日 | 日 | 富士山外来植物駆除ボランティアツアー | 認定特定非営利活動法人富士山クラブ、VSP |
| 5月20日 | 金 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区安全生活課、九段地区商店街、麹町警察署 |
| 5月24日 | 火 | エコキャップ回収ボランティア | VSP |
| 5月26日 | 木 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 5月28日 | 土 | ボランティア総合講座第3回　三鷹天命反転住宅　見学・体験ツアー ～死なないための家～ | 三鷹天命変転住宅、VSP |
| 6月8日 | 水 | ボランティア総合講座第2回　学生の被災地支援から知る被災地の「今」 | 認定NPO法人 遠野・山・里暮しネットワーク　田村隆雅氏、チームオレンジ |
| 6月11日 | 土 | 外国人おもてなし語学ボランティア講座 | 東京都 |
| 6月12日 | 日 | 復興庁「交流ミーティングin東京～新しい東北を創る人々～/若者DAY」 | 復興庁、チームオレンジ |
| 6月18日 | 土 | 災害救援ボランティア講座　第1回 | 災害救援ボランティア推進委員会 |
| 6月20日 | 月 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 6月21日 | 火 | エコキャップ回収ボランティア | VSP |
| 6月23日 | 木 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 6月25日 | 土 | 災害救援ボランティア講座　第2回 | 災害救援ボランティア推進委員会 |
| 6月27日 | 月 | ボランティア総合講座第4回　ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング | 特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会、VSP |
| 6月30日 | 木 | ボランティア総合講座第5回　謎解き×疑似体験から学ぶ発達障害 | 特定非営利活動法人ADDS、VSP |
| 7月2日 | 土 | 災害救援ボランティア講座　第3回 | 災害救援ボランティア推進委員会 |
| 7月3日 | 日 | ボランティア総合講座第6回　備えあれば憂いなし、今のうちに防災知識を養おう！～避難所体験 | 防災教育コンサルタント　宮崎賢哉氏 |
| 7月6日 | 水 | 東北・熊本物産展PRイベント@フォレストガーデン | HU・チームオレンジ・VSP |
| 7月7日・8日 | 木・金 | 東北・熊本物産展～何かできる範囲で被災地支援をしたいと考えている方へ～ | HU・チームオレンジ・VSP |
| 7月20日 | 水 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区安全生活課、九段地区商店街、麹町警察署 |
| 7月30日 | 土 | ピアネット学生スタッフ合同研修会 | ピアネット |
| 8月2日 | 火 | 子ども達と一緒に手話を学ぼう事前研修会 | 富士見わんぱく広場、わたがし、VSP |
| 8月2日・3日 | 火・水 | ～遠野市を拠点とした～東北被災地ボランティアツアー下見 | チームオレンジ |
| 8月4日 | 木 | 子ども達と一緒に手話を学ぼう | 富士見わんぱく広場、わたがし、VSP |
| 8月12日 | 金 | ～遠野市を拠点とした～東北被災地ボランティアツアー　事前説明会 | 遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ |
| 8月22日～26日 | 月～金 | ～遠野市を拠点とした～東北被災地ボランティアツアー（27次隊） | 遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ |
| 8月24日～28日 | 水～日 | ～遠野市を拠点とした～東北被災地ボランティアツアー（28次隊） | 遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ |
| 8月26日～30日 | 金～火 | ～遠野市を拠点とした～東北被災地ボランティアツアー（29次隊） | 遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ |
| 8月28日～9月1日 | 日～木 | ～遠野市を拠点とした～東北被災地ボランティアツアー（30次隊） | 遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ |
| 9月3日 | 土 | まちのわ防災フェスタ | 飯田橋グランブルーム、千代田区、麹町消防署、ＩＶＵＳＡ、荒川ゼミ、チーム・オレンジ、知能ロボット研究室、ＶＳＰ |
| 9月5日 | 月 | ～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活用化事業」キックオフミーティング | 環境省、電通、ならはみらい、都立農業高校、チームオレンジ |
| 9月14日 | 水 | ～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活用化事業」現地視察（楢葉町町長を表敬訪問） | 環境省、電通、楢葉町、ならはみらい、都立農業高校、チームオレンジ |
| 9月16日 | 金 | 東北被災地ボランティアツアー　報告会 | 遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ |
| 9月18日 | 日 | 東北・熊本物産展@法政フェア | VSP、チームオレンジ |
| 9月20日 | 火 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 9月20日 | 火 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 9月22日 | 木 | エコキャップ回収ボランティア | VSP |
| 9月27日 | 火 | ～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活用化事業」環境省による放射線講義 | 環境省・電通・楢葉町役場・ならはみらい・チームオレンジ |

| 概　要 | 参加者数 | （内）留学生数 |
|---|---|---|
| 学内ボランティアサークルの新入生勧誘（活動紹介展示＆説会） | 84 | 0 |
| 外濠校舎、富士見坂校舎のエコキャップを回収しながら学生目線で案内をするツアー | 13 | 1 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 4 | — |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 9 | — |
| 被災地支援のグッズの企画：熊本県ご当地キャラと法政のえこぴょんを起用 | 14 | — |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 11 | 0 |
| 介助犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生についてなどを学びながら、介助犬について理解を深める | 26 | 0 |
| 富士山クラブの指導のもと、生態系を崩す外来植物の駆除の作業と樹海のトレッキングを企画 | 44 | 7 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 4 | 0 |
| VSP学生スタッフが中心となって学内のエコキャップを回収 | 9 | 0 |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 8 | 0 |
| VSP学生スタッフが企画、荒川修作氏・マドリン・ギンズ氏設計の住宅。人の身体と感覚に秘められた可能性を引き出すという思いのもと設計された住宅での体験ツアー | 14 | 0 |
| 遠野・山・里暮しネットワーク　田村隆雅氏による、現在の被災地支援の在り方についての講義 | 25 | 0 |
| 東京都と共同でのおもてなし語学ボランティア講座 | 36 | 0 |
| 復興庁主催の「交流ミーティングin東京　～新しい東北を創る人々～」イベントへの参加 | 2 | 0 |
| 災害救援ボランティアの基礎知識について | 20 | 0 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動。（雨天は中止） | 4 | 0 |
| VSP学生スタッフが中心となって学内のエコキャップを回収する活動 | 5 | 0 |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動。（雨天は中止） | 雨天中止 | |
| 災害模擬体験と実技、チームビルディングとリーダーシップ | 19 | 0 |
| 視覚障害者が行うブラインドサッカーの基本について実技を交えて学ぶ | 14 | 1 |
| 学生企画、カルタや特殊な器具を使い疑似体験をしながら発達障害について学ぶ | 21 | 1 |
| 応急手当活動(上級救命技能講習)　全日程出席の参加者にはセーフティリーダー認定証と上級救命技術認定証が付与される | 18 | 0 |
| チームオレンジの災害救援講座、避難所の運営側の立場で考える | 41 | 0 |
| 東北・熊本物産展に向けてのPRイベント（えこぴょんを起用） | 82 | — |
| 東北・熊本の名産品（さるなしドリンク、桂花ラーメンなど）を一口坂校舎で販売。売上額 ：253,930円　利益：24,085円　（熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に全額寄付） | 312 | — |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 高温のため中止 | |
| ピアネットの学生スタッフの交流を兼ねての研修会 | 51 | 0 |
| 子どもたちと一緒に手話を学ぼうの参加者への事前説明会 | 22 | 0 |
| 遠野被災地ボランティアツアーの現地視察など | 3 | 0 |
| 富士見わんぱくこども広場での子供向け手話ボランティア | 22 | 0 |
| 遠野被災地ボランティアツアーの参加者への事前説明会 | 40 | 0 |
| 岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア | 12 | 0 |
| 岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア | 12 | 0 |
| 岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア | 12 | 0 |
| 岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア | 12 | 0 |
| サクラテラスでの防災をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」地域貢献イベント | 754 | 0 |
| 復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される学生のボランティア事業　事前説明会。チームオレンジが参加 | 26 | 0 |
| 復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される学生のボランティア事業　現地視察。チームオレンジメンバーが参加 | 2 | 0 |
| 岩手県遠野市をベースにした東北被災地ボランティアツアー報告会 | 32 | 0 |
| 被災地復興のために被災地の名産品などを販売。売上額：39,590円、利益5,300円を熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付 | 169 | 0 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 雨天中止 | |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 雨天中止 | |
| VSP学生スタッフが中心となって学内のエコキャップを回収 | 3 | 0 |
| 復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される学生のボランティア事業についての事前講義 | 23 | 0 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10月6日、13日、20日、25日、11月10日、17日、12月15日、22日 | 毎回木曜 | 手話講座（入門編） | ＮＨＫ手話ニュースキャスター中野佐世子氏 |
| 10月15日・16日 | 土・日 | 福島フェス@六本木ヒルズ | 環境省、電通、楢葉町、ならはみらい、神戸大学、都立農業高校、チームオレンジ |
| 10月20日 | 木 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 10月22日 | 土 | わんぱくこどもまつり2016 | 富士見わんぱく広場、アカデミー合唱団・児童文化研究会 |
| 10月23日 | 日 | ～法政大学×東洋大学～富士山清掃ボランティアツアー | 富士山クラブ、東洋大学、VSP |
| 10月25日 | 火 | エコキャップ回収ボランティア | VSP |
| 10月25日 | 火 | ボランティア総合講座第7回 ダイアログインザダーク | ダイアログ　インザダーク　ジャパン |
| 10月26日 | 水 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 10月30日 | 日 | 日本橋発！ボートで行く水の街　東京清掃ボランティア | ＮＰＯ遊んで学ぶ自然倶楽部、VSP |
| 11月12日・13日 | 土・日 | ～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活用化事業」ボランティア | 環境省、電通、楢葉町、ならはみらい、神戸大学、都立農業高校、チームオレンジ |
| 11月18日 | 金 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 11月19日 | 土 | 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座 | 東京都 |
| 11月21日 | 月 | エコキャップ回収ボランティア | VSP |
| 11月23日 | 水 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 11月25日 | 木 | ボランティア総合講座第8回 猫たちに会いに行こう！～保護ネコカフェで学ぶ動物愛護ツアー～ | ネコリパブリック東京池袋店、VSP |
| 11月28日～12月9日 | 月～金 | 学食で、東北・熊本名物を味わってみませんか？ ～ 復興支援メニュー ～ | 東京ケータリング、チームオレンジ |
| 12月3日 | 土 | ピアネットシンポジウム | KYOPRO、ライブラリーサポーター、学生サポーター、Gメン、学生FDスタッフ、サイエンスコミュニケーションスタッフ、オープンキャンパス スタッフ、学生スタッフ、VSP、チームオレンジ、教育支援課 |
| 12月7日 | 水 | ボランティア総合講座第9回 外国人おもてなしの心を学ぶ～澤の屋・谷中見学ツアー～ | 澤の屋旅館（谷中） |
| 12月11日 | 日 | 福島被災地スタディーツアー | 楢葉町（ならはみらい）、いわきワンダーファーム、チームオレンジ |
| 12月12日 | 月 | ボランティア総合講座第10回 CSRのこれまでとこれから ～B Corporationという挑戦～ | 慶応義塾大学法学部 柳 明昌教授、VSP |
| 12月12日 | 月 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 12月12日～12月14日 | 月～水 | 楢葉町の名物料理「マミーすいとん」を味わってみません？@多摩キャンパス | チームオレンジ（多摩キャンパスと連携） |
| 12月13日 | 火 | ボランティア総合講座第11回 復興庁協力　被災地の産業復興とＮＰＯの活動についての今を知る～復興・創生インターンへの期待～ | 津田塾大学・中央大学・東洋大学・桜美林大学・創価大学・専修大学・復興庁・（一社）まるまるオフィス・特定非活動法人wiz・デザイン工学部・チームオレンジ |
| 12月15日 | 木 | エコキャップ回収ボランティア | VSP |
| 12月15日 | 木 | 見えない世界を知る、盲人マラソン伴走ボランティア講座（手話講座・番外編） | バンバンクラブ 西川雅明氏、堀越雅也氏　VSP |
| 12月15日 | 木 | 児童館訪問企画　子供たちと学ぶシャボン玉の科学（教プロ合同企画） | 教プロ・VSP |
| 12月18日 | 日 | 環境省×楢葉町×法政「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」中間報告会 | 環境省、電通、楢葉町、ならはみらい、神戸大学、都立農業高校、チームオレンジ |
| 12月20日 | 火 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 1月10日 | 火 | キャンパス周辺清掃ボランティア | VSP |
| 1月14日 | 土 | 見えない世界を知る、伴走ボランティア体験教室（手話講座・番外編） | VSP |
| 1月20日 | 金 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 2月13日 | 月 | ボランティア総合講座第12回　防災・消防士の仕事を知る消防署見学ツアー | 麹町消防署、チームオレンジ |
| 2月20日 | 月 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 2月22日 | 水 | 福島県楢葉町スタディツアー（楢葉町共催） | ならはみらい、福島大学、立教大学、チームオレンジ |
| 3月1日～3月4日 | 水～土 | 岩手・宮城被災地スタディツアー | 遠野・山・里暮しネットワーク、チームオレンジ |
| 3月10日 | 金 | 東北・熊本復興支援募金活動 | 法政女子高校、チームオレンジ |
| 3月17日 | 金 | 九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア | 千代田区環境安全部、九段環境整備協議会 |
| 3月25日 | 土 | まちのわ桜まつり | 飯田橋グランブルーム、(株)KADOKAWA、児童文化研究会、IVUSA |

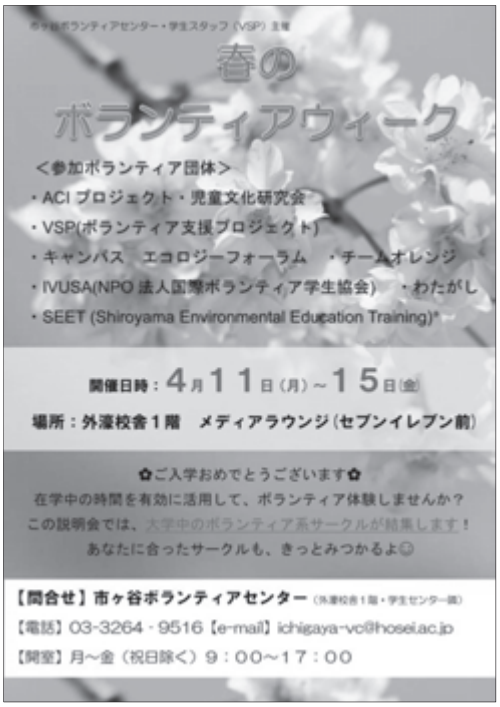
**83プログラムに 5,148 名参加**

| | | |
|---|---|---|
| 手話ゲームブック「だれかにあったらこんにちは」を使用しての手話講座入門 | 15 | 1 |
| 復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される学生のボランティア事業のイベント。学生はスタッフとして参加 | 950 | — |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 4 | 0 |
| 富士見わんぱく広場での「ハロウィン」をテーマにしたイベントの補助 | 29（学生のみ） | — |
| 富士山麓で不法投棄されたごみを清掃する活動。樹海トレッキングなども行なった | 72 | 2 |
| VSP学生スタッフが中心となって学内のエコキャップを回収 | 4 | 0 |
| 暗闇体験プログラム　アテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、様々なシーンを体験 | 13 | 0 |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 9 | 0 |
| ＶＳＰ学生スタッフが企画した東京湾護岸の環境保全に係る清掃ボランティア。ボートにも乗船 | 21 | 0 |
| 復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」。現地　福島県双葉郡楢葉町での活動 | 41 | 0 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 3 | 0 |
| 東京都と共同でのおもてなし語学ボランティア講座 | 59 | 0 |
| VSP学生スタッフが中心となって学内のエコキャップを回収 | 6 | 0 |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 6 | 0 |
| 保護ネコカフェで動物の保護活動について学ぶ | 25 | 0 |
| 東北の素材を使用した学食メニュー「福島ソースかつ丼」「熊本ラーメン」などの実施。東京ケータリング(株)協力のもとチームオレンジが企画。売上額：365,500円、募金額：73,100円（熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に4等分して寄付） | 731食 | — |
| ピアネットでの活動を学内外に発信していくためのシンポジウム | 20 | 0 |
| 東京の下町にある澤の屋旅館で、「外国人へのおもてなし」について、英語でのロールプレイングを交ぜながら学ぶ | 14 | 0 |
| 福島県双葉郡楢葉町周辺の復興の現状について学ぶツアー | 40 | 3 |
| 企業のCSRについて様々な角度から学ぶ | 17 | 0 |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 7 | 0 |
| 多摩キャンパスでの被災地支援学食メニュー企画。「まみーすいとん」、「ねぎとろメカブ丼」のセットメニューを展開 | 92食 | — |
| 被災地の産業復興について、「復興・創生インターン」を実施している現地のＮＰＯ法人に現状と課題を聞く | 31 | 0 |
| VSP学生スタッフが中心となって学内のエコキャップを回収 | 4 | 0 |
| VSPスタッフ企画。伴走での実技を交え、伴走ボランティアについての基本を学ぶ | 21 | 0 |
| シャボン玉について科学的な視点からも子どもと一緒に楽しむ | 73 | 0 |
| 復興庁の「心の復興」事業中間発表：楢葉町の町民も交え、休耕田の活性化事業に関して学生が参加した報告を行う | 53 | 0 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 8 | 0 |
| 学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生・ボランティアセンター職員と共にVSPが行う外濠周辺の清掃活動（雨天は中止） | 5 | 0 |
| 伴走ボランティアの体験講座。代々木公園で実施 | 9 | 0 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 天候不良のため中止 | |
| 消防署、消防署業務について実際に大学近隣の麹町消防署で学ぶ | 20 | 0 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 8 | 0 |
| 福島県いわき市、双葉郡楢葉町などの現状や復興への取り組みなどについて現地で学ぶ | 31（学生のみ） | 0 |
| 釜石市・大船渡市・陸前高田市周辺の現状や復興への取り組みについて現地で学ぶ | 30 | 4 |
| 飯田橋・市ヶ谷駅周辺での募金活動。募金金額合計 163,448円。岩手県・宮城県・福島県・熊本県が設置する復興義援金に4等分し全額寄付。法政大学・高校が協力して行う | 30 | 0 |
| 九段・富士見地区の町内会や千代田区の方々と共に行う靖国通り沿いの清掃活動（雨天は中止） | 11 | 0 |
| 地域貢献ボランティア。飯田橋グランブルームでのさくらまつりへの参加 | 662 | 0 |

# 1．春のボランティアWEEK

**日　時**：【展示・冊子配布】2016 年 4 月 11 日（月）～15 日（金）終日
【説明会】2016 年 4 月 12 日（火）昼休み

**場　所**：【展示・冊子配布】外濠校舎 1 階 メディアラウンジ




**概　要**：

**1．内容**

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による企画。
ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボラセン所属学生団体を紹介することで、新メンバーを求める各サークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対して、支援していきます。ボラセンの認知度アップと VSP、チームオレンジ、その他ボランティアサークルの新メンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげていきます。

例年同様、外濠校舎１階メディアラウンジでは、展示によるサークルの概要説明や活動報告を行うと同時に、サークルごとの説明会を実施。昼休みを中心に、主に新入生への相談に応える姿が見られました。

学生主体によるＳＮＳでの宣伝や説明会のビラ配りを行い、イベントの認知度が高まり、説明会会場をメディアラウンジにしたことで集客の効果がありました。

また、その時にサークル紹介冊子を作り配布したことで、ボランティア団体を知ってもらういい機会になりました。説明会では、一般の学部生に各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、学生スタッフ自身も他団体について理解を深めることができました。

**2．参加者数**

説明会：４０名（参加者８４名）

**3．背景・目的**

・ボランティアサークルの活性化、新入生へのボランティア活動促進。
・ボランティアサークル、活動内容の認知。

# 2. エコキャップ DE キャンパスツアー

**日　時**　2016 年 4 月 19 日（火）

**場　所**：外濠校舎、富士見坂校舎

**概　要**：

**１．内容**

4 月 19 日（火）、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（以下 VSP）が「エコキャップ DE キャンパスツアー」を実施し、13 名の学生が参加しました。

VSP は学内に設置されているペットボトルキャップの回収容器から、定期的にペットボトルキャップを回収しており、集めたペットボトルキャップは、ＮＰＯ法人に送付し、世界の子供たちにワクチンを贈る活動を行っています。2015 年度は、274 kgのペットボトルキャップを回収しましたが、本活動の認知度は高くありません。そこで、この回収活動に関し、新入生に関心を持ってもらうため、ペットボトルキャップの回収ポイントをまわりながら、学内の施設を学生目線で案内するという企画を実施しました。

本企画を実施するにあたりＶＳＰのメンバーが、ツアーの経路図を作成したり、下見を重ねたりした結果、当日は参加者とエコキャップを回収しながら、外濠校舎と富士見坂校舎を効率よく案内することができました。
参加者で集めたペットボトルキャップは約 17kg となり、参加者からは、「こんなに集まるとは思わなかった」、「ボランティアをしながらキャンパスのことが知れてよかった」などの意見がありました。

○主なコース（経路）
ボランティアセンター～外濠校舎４階～富士見坂校舎３階～富士見坂校舎２階～外廊下（ラーニングコモンズ前）～中央広場（掲示板）～外濠校舎２階～外濠校舎地下１階～外濠校舎１階～ボランティアセンター

**２．参加者数**　　１３名

**３．企画・参加した学生の感想**

ツアー経路図を作成し、参加者に配布、確認しながらツアーができたことはわかりやすかったと思います。
昼休みのあわただしい時間を利用しての本ツアーは、凝縮した企画にしなければならず、実施にいたるまで苦労しました。
普段無意識に通り過ぎてしまう学内施設のガイドと、一般学生には認識が希薄なボランティア活動を結びつけた企画は、学生ならではの発想だったと思います。新入生への「お得な」スペースも案内することができました。

法学部法律学科２年生　　阿由葉　史弥

## ４．背景・目的

・ボランティアサークルへの新入生の勧誘。

・身近な環境保護ボランティアへの意識づけ。

# 3.キャンパス周辺清掃ボランティア

**日　時：**2016 年 4 月～2017 年 3 月

**場　所：**市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

**概　要：**

**１．内容：**

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。

基本的に月１回、VSP のメンバーが日程を決めています。毎回 30 分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行いました。　詳細な活動日と参加者数は、下表参照。

学生スタッフ（VSP）の活動の柱の 1 つであり、一般学生を募集し、一緒に活動しながらボランティア活動の促進につなげていきます。

**２．参加者数**

のべ６２名　※７、８月は休み

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 4 月 21 日（木） | ９名 |
| 4 月 27 日（水） | １１名 |
| 5 月26 日（木） | ８名 |
| 6 月 23 日（木） | 雨天中止 |
| 9 月 20 日（火） | 雨天中止 |
| 10 月 26 日（水） | ９名 |
| 11 月 23 日（水） | ６名 |
| 12 月 12 日（月） | ７名 |
| 1 月 10 日（火） | ５名 |

**３．背景・目的**

・身近なボランティア活動の促進。

・一般学生のボランティア活動への誘導。

# 4. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

**日　時：**2016 年４月～2017 年３月

**場　所：**（千代田区靖国通り周辺）九段さくら館→靖国通り→市ヶ谷駅周辺→九段商店街→九段さくら館

**概　要：**

**１．内容：**

毎月 20 日前後に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町署の方々、九段商店街の方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。地域貢献ボランティアとしての活動の１つになっています。

**２．参加者数**

のべ３５名

| 日　時 | | 参加者数 |
|---|---|---|
| 4 月 20 日（水） | 15：30<br>−17：00 | ４名 |
| 5 月 20 日（金） | | ４名 |
| 6 月 20 日（月） | | ４名 |
| 7 月 20 日（水） | | 高温の為中止 |
| 9 月 20 日（火） | | 雨天中止 |
| 10 月 20 日（木） | | ４名 |
| 11 月 18 日（金） | 15：00<br>−16：30 | ３名 |
| 12 月 20 日（火） | | ８名 |
| 1 月 20 日（金） | | 天候により中止 |
| 2 月 20 日（月） | | ８名 |

※８、３月はお休み。雨天など場合は中止。

**３．背景・目的**

・清掃ボランティアを通し、環境問題やまちづくりに興味をもってもらう。

・地域貢献ボランティアとしての活動。

# 5. ボランティア総合講座第1回
# 介助犬との「ふれあい」から学ぶ 介助犬の一生について

**日　時：**2016 年　5 月　12 日（木）
**場　所：**外濠校舎１階　メディアラウンジ
**概　要：**

**１．内容：**

障がい者の社会進出と自立を促進するために、毎年多くの介助犬が育成されていますが、その頭数が年々増加をしていく一方で、介助犬を受け入れる社会自体の理解は十分とは言えません。お店や交通機関で利用を断られてしまうケースも多々見うけられます。介助犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生を学び、介助犬に対する理解を深めることを目的とし、本講座を開催しました。

当日は､介助犬､日本介助犬協会の職員の方々に来校していただき、初めに介助犬に育つまでの過程をお話していただきました。
その後、冷蔵庫を開けペットボトルをもってくる、会場内に隠した携帯電話を探してもってくる、靴や靴下を脱がすなどの介助犬のデモンストレーションを行いました。
介助犬が生まれてから、リタイヤするまでの一生について、介助犬のデモンストレーションを交えたお話しもあり、介助犬に対する理解を深めることが出来き大変有意義な講義となりました。

今後もこのようなプログラムを市ヶ谷ボランティアセンターでは、企画していきます。
協力：社会福祉法人 日本介助犬協会

**２．参加者数**

２６名

**３．企画学生の感想**

・盲導犬はついてはある程度知っていたが、介助犬に関して知ったのが今回初めてでした。寿命が短いのではないか、不幸なのではないかと誤解されてしまっているのが現実だとは思いますが、今回の講座でそうでないと説明できるようになったので、まわりの方に伝えていきたいと思います。身体障害者補助犬法という法律がありながら、世間には受け入れられないというのも現状です。しかしレストランなどで介助犬の同伴を断ることは、その人の手足を奪うことと同じあるという言葉はまさにその通りだなと思いました。私がそのような現場を見つけたら、そっと背中を押せるよう力になりたいと思います。　（法学部　１年）

・盲導犬に比べ介助犬は圧倒的に数が少ない現状を知り、少しでも支援したいと思います。落としたカギや小銭を拾ったり、冷蔵庫からペットボトルを持って来たり、携帯電話を探したりすることが出来るのを実際にみて

驚きました。手足が不自由な方が介助犬によって「やりたいこと」を制限されずに、心の負担が軽減されるという役割は大変大きく感じました。（文学部　3年）

## 4．背景・目的

・様々なボランティア活動について視点を変えて学ぶ。
・一般学生のボランティアプログラムへの参加促進。

介助犬についての講義

靴下を脱がせる

飲料の入っている冷蔵庫を開ける

隠した携帯電話を匂いで探し当てる

学生と介助犬のふれあい　1

学生と介助犬のふれあい　2

# 6. 富士山外来植物駆除ボランティアツアー

**日　時：**2016 年　5 月　15 日（日）
**場　所：**富士山麓
**概　要：**

**１．内容：**

「外来植物駆除」の活動は今年で 4 度目の実施となり、40 名の学生が参加しました。40 名の内 9 名が留学生であり、初めて訪れた富士山で、日本人学生と共にボランティアを行いました。

バスの中では、一人で参加の学生も楽しく活動できるようにと、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画したレクを行い、大変盛り上がりました。

現地ではまず、雄大な富士山の姿を間近に望むことのできる、NPO 法人・富士山クラブの本部「もりの学校」にて、富士山クラブスタッフによるオリエンテーションを受け、富士山をとりまく環境問題や、外来特定生物の種類・駆除活動の意義などについて学びました。
その後、バスで西湖のほとりへ移動し、「オオキンケイギク」などの外来種駆除活動を行いました。小石や他の植物も目立つ現場での駆除活動にも苦労しましたが、慣れ始めると皆楽しくなってきたようで、「もっとやりたかった」との声も聞かれました。心地よい気候の中での約 2 時間の活動し、約 193 kgの外来種を駆除することができました。

活動後は再び「もりの学校」に戻り、各班にわかれ、情報共有、振り返りを行い、外来種駆除を広めるアイディアを発表するなど、充実した活動となりました。

今後も法政大学ボランティアセンターでは富士山の外来種駆除・清掃活動を継続的に行っていきます。

**２．参加者数**

４４名

**３．企画学生の感想**

・日本は綺麗なイメージだったけど、ゴミが多かったことに驚いた。
ボランティア活動をしたのが今回初めてで、中国ではないいい経験だった。日本の有名な観光地である富士山の近くに来ることができて大満足であった。

・昨年度の外来種駆除にも参加しましたが、改めて外来種駆除の大変さを感じました。また私が一番思ったことは、勉強会でかつての富士山はトイレの排水をそのまま流して汚たなかったけれど、人々の力でトイレを新しく開発したり、清掃活動が盛んになったりして、今の世界遺産としての富士山があるということです。自然を美しく保つのはこんなにも難しく、また人々の手を加えないと改善しない部分が多くあるということを強く感じました。

・今回初めてボランティア企画に参加したが、自分は一人で応募したので、最初は少し不安もあった。しかしすぐに多くの人と意見交換などもできたので、とても貴重な経験であった。国籍、学部、学年を問わずに交流する機会は、ほとんどなかったので今回参加できて本当によかった。

## 4．背景・目的

・ボランティア活動を通し、環境に対する意識を養う。
・学部、学科を越えた学生同志の交流。

富士山に生息する外来種についての説明

昼食の様子

外来種駆除の様子1

外来種駆除の様子2

振り返りの様子

集合写真

# 7．エコキャップ回収ボランティア

**日　時：**2016 年　5 月　24 日（火）～毎月 1 回
**場　所：**外濠校舎、富士見坂校舎ペットボトル回収箇所
**概　要：**

**１．内容：**

ボランティアセンター学生団体 VSP が、毎月行なっている身近なボランティアの１つ、エコキャップ回収。
昼休み時間を利用して、ペットボトルキャップの回収をまとめ、ボランティアセンターからリサイクル業者に発送しています。
身近すぎてなかなかボランティアに気づきにくい活動の１つですが、VSP メンバーが行なうことにより、学生への意識づけの効果もあります。
12 月までの回収実績は約 189 kg、ワクチンの本数は約 150 本になりました。

いつも捨てているペットボトルキャップ、ボランティアスタッフ学生の小さな活動により、大きい効果を生んでいます。

今後も法政大学ボランティアセンターでは学生の自主性を生かしながら、エコキャップ回収などの身近なボランティアを継続的に行っていきます。

**２．参加者数**

約１０名

**３．背景・目的**

・環境に対する意識や身近なボランティアについての意識を高める。

外濠 1 階学生ラウンジの回収

外濠校舎 2 階の回収

# 8. ボランティア総合講座第3回
# 三鷹天命反転住宅　見学・体験ツアー
# ～死なないための家～

**日　時：**2016 年　5 月　28 日（土）
**場　所：**三鷹天命反転住宅
**概　要：**

**１．内容：**

三鷹天命反転住宅とは世界的に著名な現代美術家である荒川修作氏とマドリン・ギンズ氏によって設計された住宅です。この住宅には「死なないための住宅」というテーマがあり、住宅の中で生活することによって人の身体と感覚に秘められた可能性を引き出すという思いのもと設計された建物です。今回はその建物でワークショップをするプログラムを企画しました。

三鷹天命反転住宅の外観はとてもユニークなデザインなのですが、建物の中もとてもユニークな配色と構造をしていました。第一印象としては「機能性はあまり高そうではないな」というものでした。しかし、今回の体験を通じてそれが大きな間違いであるということを痛感することになりました。少ない収納を補うために荷物を吊るすことが出来る天井、予想以上に多くの人が入ることが出来る球体の部屋など新鮮なデザインに驚きの連続でした。

また、身体が形状を記憶し適用することを実感することのできる凹凸や傾斜がある床や、どの場所にいても５色以上の色が視野に入ってくるようデザインされ、自然と同じような色彩環境にすることで、大胆な色使いをしながらも違和感をなくす配色の工夫にも感心しました。

目隠しをして部屋を歩き回った際には、視覚が断たれた状態で、特殊な構造をした部屋の中を大人数で動き回るのには恐怖も感じましたが、足裏や手から感じる感触や周りの音、他の人の体温など普段では感じることのできないような、かすかな感覚を感じることができました。

このデザインは、私たちが日常で用いるユニバーサルデザインといった「すべての人にとって使いやすい」デザインとは対極にあるように見えます。しかし、今回の体験を通して自分のなかで眠っていた感覚を引き出すことができたと思います。

それは普通の生活を送る上では、なかなか経験することがないことであり、「人にとっての使いやすさ」というものを一考する機会となったのなら幸いです。

ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）阿由葉　史弥（法学部・法律学科２年）

**２．参加者数**

１４名

## ３．背景・目的

・いろいろな視点でボランティアについて学ぶ。

・ボランティアプログラムの企画を考える。

三鷹天命反転住宅に到着

三鷹天命反転住宅の説明を受けている様子

目隠しをして室内を移動している様子

床の凹凸、傾斜を体感している様子

集合写真１

集合写真２

# 9. ボランティア総合講座第2回
# 学生の被災地支援から知る被災地の「今」

**日　時：**2016 年　6 月　8 日（水）
**場　所：**外濠校舎 5 階　526 会議室
**概　要：**

**１．内容：**

東日本大震災から 5 年経過し、被災地の現状に関する報道は明らかに少なくなっており、記憶の風化や誤認識が問題になっています。現地 NPO 法人から被災地の現状報告と、学生達の取り組みの報告を通して、被災地支援のありかたについて再考してもらうことを目的とし、本講座を企画いたしました。

当日は、NPO 法人　遠野 山・里・暮しネットワークの田村隆雅氏に、現在の被災地支援の在り方についてお話しいただきました。
被災地では現在、仮設住宅から公営住宅への移転が本格化してきており、仮設住宅での生活者が減り、一見被災者の生活再建は順調なように見えるが、コミュニティーが分断され、孤独死の確立が高まることが予想されるため、交流を目的として支援を今以上に行っていく必要がある、などのお話をしていただきました。

また、東洋大学ボランティアセンター学生スタッフ、復興ボランティア団体スタ学に所属し、毎日新聞社で学生記者をしている日高　純菜さん（現代福祉学部 4 年）、法政大学ボランティアセンター学生スタッフ（チーム・オレンジ）から学生の力を活かした復興支援についてそれぞれ 10 分程度発表していただきました。

その後は、各班に別れ「今日の講義を受けて考えたこと、今後の学生の支援の在り方」をテーマにグループワークを行い、大学、キャンパスは違うが同じ志を持った学生が意見を交換することで、被災地支援に対するモチベーションが更に向上したようです。

今後もボランティアセンターではこのような被災地の今を知り考える講座を行っていきます。

**２．参加者数**

２５名

**３．背景・目的**

・被災地支援ボランティアの現状について学ぶ。
・今後必要なボランティアについて学ぶ。

田村氏による被災地の今のニーズについての説明

東洋大学ボランティアセンター学生スタッフによる活動紹介

法政大学ボランティアセンター学生スタッフによる活動紹介

現代福祉学部日高さんによる活動紹介

参加者全員でのワークショップ

東洋大生と法政大生の交流の様子

# 10. 外国人おもてなし語学ボランティア講座①

**日　時：**2016 年　6 月　11 日（土）
**場　所：**富士見坂校舎　F310 教室
**概　要：**

**１．内容：**

東京都と法政大学は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、本講座を実施しました。
東京都が単独で実施している本講座の受講者は、40 代、50 代、60 代の方が多く、大学と東京都が共同で実施することによって、10 代、20 代の参加も促せるのではないかと思い東京都と協定を締結し本講座の実施にいたりました。また、東京都が単独で実施している本講座の抽選倍率は 30 倍～40 倍であるため、共同で実施することによって本学学生が優先的に受講する場を提供することができました

東京都と大学が共同で本講座を実施することは初の試みであり、募集したところ、募集開始後 2 日間で 100 名以上の学生から問い合わせがありました。

当日は、台東区谷中にある「澤の屋」という旅館を紹介した動画を見た後に、おもてなしに関する基礎知識としてコミュニケーション力と問題解決、ボランティアスピリッツについて学びました。講師の話を一方的に聴講する講座ではなく、グループワークやペアワークを通して、参加者が発表する形式になっているため、全員が積極的に参加することができ、非常に満足度の高い講座となりました。最後に、この講座の参加者全員で「おもてなし６箇条」を作成し、ボランティアスピリッツを共有しました。

講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から 36 名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。

**２．参加者数**

３６名

**３．参加学生の感想**

○外国人の方と、英語でコミュニケーションをとることに対して自信が無かったが、ジェスチャーや気持ちの面も大切だと学んだ。

○英語を学ぶ学部に所属しているので英語での使い方についてはもともと知っていたが、相手の気持ちになって考えること等は意識したことがなかったので、とてもいい機会になった。アルバイト先によく外国からの観光客が来るので、今日学んだことを生かしていきたいと思った。

## ４．背景・目的

・2020 年を見据えた国際系ボランティアへの導入。

・ボランティアに関する意識の向上。

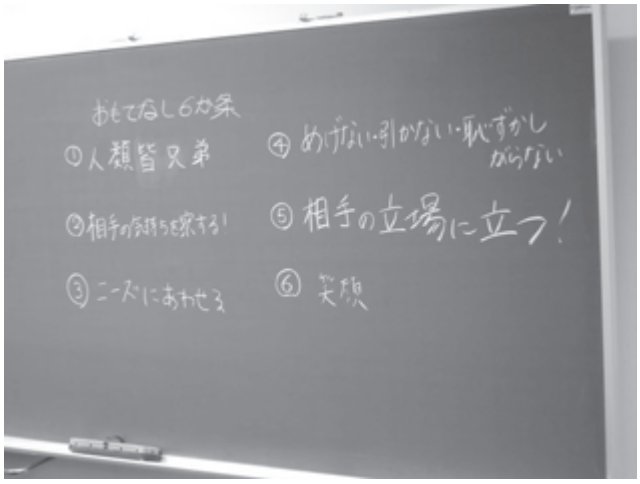
外国人観光客にレストランまでの道のりを案内するロールプレイ

カードに書かれた情報を相手にジェスチャーだけで伝えるゲーム

神社での手の清め方を英語で説明

路線図を用いて電車の乗り換え方法を英語で案内

レッスを振り返りグループに分かれ「おもてなし６箇条」の作成




参加者で考えた「おもてなし６箇条」

# 11．復興庁主催「交流ミーティングin東京 ～新しい東北を創る人々～／若者DAY」

**日　時：**2016年　6月　12日（日）
**場　所：**千代田区外神田３３３１ Arts Chiyoda
**概　要：**

**１．内容：**

本イベントに参加するに際して全国の大学から多数の応募があった中、応募書類の内容が評価され、関東ブロックの代表として参加することができました。(法政大学を含む関東地方から3大学、全国から12大学が参加)。

作文コンテスト・ポスター表彰式、学生による発表・意見交換、ワークショップで構成されており、チーム・オレンジの学生スタッフは、ワークショップに主体的に参加しました。
本イベントに参加する前に、参加大学の情報交換や交流を促すために、座談会を実施しました。
他大の取り組みを直接学生から聞くことで、今後の被災地支援のヒントを得たようです。

その後、各大学との座談会を経て本イベントに参加しました。イベントの冒頭で小泉・前復興大臣政務官、宮田・文化庁長官、高木・復興大臣政務官から参加者にメッセージを頂き、AKB48、東進ハイスクールの林修先生と参加学生が被災地の復興について意見交換しました。
チーム・オレンジが主体的に参加したワークショップでは、復興支援ボランティア活動を行う大学生が全国各地から集まり、グループに分かれてそれぞれ「今だからできること～復興の先を見据えて～」をテーマに議論し、これからの東北復興を考えるワークショップを実施しました。東日本大震災から５年が経った今だからこそできることを学生視点で検討し、最後に大学ごとに発表しました。

今回のイベントを通して、大学間のつながりを構築できたので、情報交換・情報共有だけでなく、複数の団体で連携した取組を実施していきたいと思います。

**２．参加者数**

２名

**３．参加学生の感想**

今回復興庁主催のイベントに参加し、復興の先にあるものは何か、全国の大学生と考え、様々な意見を交換することができました。そのなかで我々チーム・オレンジにできることとして、東北のいまを発信していくことと、現地のコミュニティを大切にしていくことの２つを挙げました。
7月に開催する物産展や、一般学生と実際に現地に行く遠野被災地ボランティア、スタディツアーなどではより多くの人に東北の現状を知ってもらう機会だと思います。また、現地でおこなっている交流会に新しい企画を取り入れるなどして大学生だからこそできるコミュニティ支援をしていきたいと思います。東日本大震災から５年が経ち、ボランティアの形も変化の時を迎えていますが、未来を担う私たち若者が率先して復興に取り組んでいくべきだと感じました。

法学部　３年　小堺　淳平
文学部　３年　野々山　裕理

他大学の学生に活動紹介

他大学の学生に質問

小泉・前復興大臣政務官のスピーチ

AKB48、東進ハイスクールの林修先生との意見交換会

他大学の学生とのグループワーク

グループワークの発表の様子

集合写真

# 12. 災害救援ボランティア講座（全3回）

**日　時：**2016 年　6 月　18 日、25 日、7 月 2 日（各土曜日）

**場　所：**55 年館 7 階 574 会議室　/千代田区　本所防災館/市ヶ谷キャンパス総合体育館 3 階柔道場

**概　要：**

**1．内容：**

市ヶ谷ボランティアセンターでは、6 月 18 日、25 日、7 月 2 日の全 3 日間、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会の協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施し 20 名の学生が参加しました。

第 1 日目は、外濠校舎 526 会議室にて災害と防災対策の基本、出火防止と初期消火、被災地でのコミュニケーションなどを学びました。

第 2 日目は、本所防災館で災害模擬体験などを行い、大学に戻り「災害時のチームビルディングとリーダーシップ」などのグループワークを行いました。

第 3 日目は、上級救命技術講習として応急手当活動について実技を交え学びました。

人工呼吸、AED の使用方法、災害時などのけがへの応急処置などの実践的な講習内容でした。

災害救援ボランティア講座は、毎年行われており、全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されました。

**2．参加者数**

２０名

**3．背景・目的**

・災害時にリーダーとしてボランティア活動ができる学生の育成。

・災害ボランティアに関する知識の向上。

本所防災館での消火器訓練

応急救命訓練

# 13. ボランティア総合講座第4回
# ブラインドサッカーから学ぶ チームビルディング

**日　時：**2016 年　6 月　27 日（月）
**場　所：**富士見坂体育館
**概　要：**

**１．内容：**

ブラインドサッカーとは、アイマスクをつけ、音のなる特殊なボールを使うフットサルです。アイマスクをつけて視界を遮ることで、全員が公平な状態でプレーすることができます。今回の企画では、ブラインドサッカーを通じて、チームビルディングに必要なコミュニケーション法を体験すると同時に、「見えない」ことがどういうことかを体で感じることを主な目的としました。

プログラム中に様々なワークを行いましたが、特に、「見える人」と「見えない人」が混ざって試行錯誤するワークは、チームビルディングを学ぶには最適な内容でした。このワークは、まず「見える人」４人が四角形の四隅に立ちます。その四角形の真ん中に「見えない人」が立ち、四隅の「見える人」が持っているボールにタッチしに行きます。ボールは４人のうち１人が持っていて、「見える人」は「見えない人」に掛け声や合図でボールの位置を伝えます。これを四角の中でパス回しをし、制限時間内に、何回タッチできるかを競うものです。参加者はこのワークの中で、どうすれば多くタッチできるかを、見える立場と見えない立場の両方の視点から考え、チーム内で議論を重ねました。最初は制限時間内に 5 回程度しかボールにタッチすることはできませんでしたが、最終的に 15 回程ボールにタッチすることができました。
また、それぞれのあだ名で呼び合うことで、自ずとチームメイトとの距離が近くなり、意見を出し易い雰囲気になりました。参加者には、名前を呼びあうという些細なことが、チームビルディングには非常に効果的であるということがわかっていただけたかと思います。

その他に目隠しした状態で五十音順に一列に並ぶワークや、目隠しした状態でボールを蹴りコーンに当てるワークなどを実施しました。
本プログラムを通して、障害者と健常者の間の「見えない壁」を取り払い、視覚障害者との共生に関心をもってもらうこと、仲間が主体的に自分らしさ、多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら一丸となって共通のゴールを達成しようとするチームビルディングを学ぶことができたと思います。

法学部　政治学科２年　成田　大輝

**２．参加者数**

１４名

## ３．背景・目的

・ブラインドサッカーを通じ、チームビルディングを学ぶ。

・視覚障がい者のボランティアについて理解をしていく。

集合写真

人間知恵の輪

目隠しした状態で五十音順に一列に並ぶワーク

目隠しした状態で音を頼りにコーンにボールをあてる

目隠しした人が制限時間内にボールにタッチする回数を競う

作戦会議の様子

# 14. ボランティア総合講座第5回
# 謎解き×疑似体験から考える発達障害

**日　時：**2016 年 6 月　30 日（木）
**場　所：**外濠校舎 S526 会議室
**概　要：**

**１．内容**

発達障害の一種である自閉症に関しては６８人に１人の割合で発症していると言われており、日常生活でも出会う可能性が高く、決して他人事ではない問題です。しかし、発達障害は、目で見ただけでは認知しづらく社会からの理解も得られにくい現状があります。そのため、今回の企画を通して、発達障害を疑似体験することで、少しでも理解を深め、発達障害をもつ人に対してどう向き合うべきか体験者全員で考えながら追求していきたい。そして、体験者１人１人が生活の中で発達障害をもつ人に対しての奇異の目を取り除き両者とも過ごしやすい環境を構築しつつ、これを契機として自分とは異なる人たちを理解するための第一歩を踏み出すことを目標としプログラムを企画しました。

今回は講師であるNPO法人ADDSさんと複数回打ち合わせを実施し､プログラムの内容を共に考案しました。参加者の皆さんには視野を狭くするゴーグル、集音器、触覚を鈍感にするための軍手を装着し、プログラムを体験していただきました。

１つ目のプログラム：カルタ
器具を装着しているので相手が札を掴み取るのに苦戦している場合は札を奪い取っても良いなどの一般的なカルタとは異なるルールも考案し、障害をもっている人の不自由さを体感してもらいました。
カルタの札は、学生スタッフが法政大学に関する内容で作り、参加者の皆さんからも高評価をいただきました。

２つ目のプログラム：器具を装着しての疑似体験
器具を装着した状態で二人一組になり、会場である５２６会議室から地下１階まで降り、自動販売機で飲み物を買ってくるという体験をしていただきました。参加者の皆さんはゴーグルを装着した状態で視野が狭いために、階段の上り下りや、自分が飲みたい飲み物を見つけるのに苦労しているようでした。

３つ目のプログラム：器具を装着してのディクテーション
聞き取りやすい読み方と聞き取りにくい読み方の両方を実演することで、読み方によって聴きやすさがまったく違うことを感じていただきました。発達障害の方に対する接し方を学べたようです。

上記の３つのプログラムを実施した後に、講師の方に講義をしていただきました。講義では、発達障害に関する知識。例えば、どのような症状があると一般的に発達障害と言われるのか。また、私たち健常者が発達障害の方への関わり方を変えることでお互いが過ごしやすい社会になるという内容の講義になりました。

今回の企画を通して、発達障害の方との接し方を学ぶことができました。１年生３名でこの企画を担当したので、やり遂げることが出来るか不安でしたが、参加学生からは、「参加して良かった。」「また同じような企画を

してほしい。」という感想をもらい、今回の企画のような体験型のプログラムを企画していきたと思います。
ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）　法学部国際政治学科１年 浅野　雄介／キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科１年 中野　実織／　人間環境学部人間環境学科１年　喜治　将大

**２．参加者数**

２１名

**３．背景・目的**

・様々な視点からボランティアについて学ぶ。　・疑似体験の中でボランティアへの理解を深める。

学生スタッフが作成したカルタ

器具を装着した状態でのカルタで不自由さを体感

自動販売機で飲料を購入

器具を装着した状態で階段をのぼる

ディクテーションの様子

講師による講義の様子

# 15. ボランティア総合講座第6回
# 備えあれば憂いなし、今のうちに防災知識を養おう～避難所体験

**日　時：**2016年　7月　3日（日）
**場　所：**外濠校舎5階　526会議室
**概　要：**

**１．内容：**

日本における大震災は、東日本大震災、熊本地震と相次いでおり、東京を中心とした首都直下地震は高確率で起こると予想されています。そこで、防災・減災に興味を抱き、被災時の避難所生活に不安を抱いている学生が多数いると考え、本企画を実施しました。

災害発生後、避難所に避難し、そこで生活するまでの流れを疑似体験するために搬送法体験、避難所受付体験、非常食試食、防災クイズ、クロスロード、避難所運営ゲームを行いました。

搬送法体験においては実際の被災時に負傷者等を搬送することを想定し、各自の荷物を持参した状態で実施しました。避難所受付体験や避難所運営ゲームにおいては、避難所の運営側の立場になり、運営の難しさを肌で感じてもらう企画としてカードを用いて、各班に別れ、班員と議論を交してもらう企画を考えました。

非常食試食においては人数分の非常食を１ヶ所にまとめて設置し、参加者自らが非常食を分配して確保するという形態をとり、どのように分配すれば公平で適切かを考えてもらいました。

防災クイズやクロスロードでは避難所に関連する防災知識の養成を目的とし、楽しみながら体験してもらうことが出来ました。

全ての企画において、座学形式ではなく体験型のプログラムであったため、積極的に学ぶことができ、避難所運営の難しさや、避難所運営のノウハウを身に着けることができたようです。

**２．参加者数**

４１名

**３．企画学生の感想**

参加者のアンケートには全てのプログラムが体験型であり、楽しみながら知識を養うことができたという意見が多数あり、全６時間の長丁場の企画であったにもかかわらず時の流れが速く感じられた、などの意見もありました。また、自らの防災に対する知識不足が明らかになったとの意見も多数寄せられ、企画目的であった防災意識の向上にもつながったようです。

改善点としては、時間の関係で避難所運営ゲームを途中で切り上げなければならなかったこともあり次回開催する場合には、スケジュールの見直しを図りたいです。

チーム・オレンジでは参加学生の防災意識の向上だけでなく、防災啓発の継続も視野に入れていることから、今後は本企画を発展させた防災企画の開催を検討していきます。

チーム・オレンジ学生スタッフ　法学部　政治学科　２年生　新堀　剛志

## 4．背景・目的

・ボランティア活動のリーダー（運営側）の立場になって考える。

・災害ボランティアの知識の向上。

搬送法体験

避難所受付体験

非常食試食

防災クイズ

避難時の対応について議論

避難所運営ゲーム

# 16．東北・熊本物産展
## ～何かできる範囲で被災地支援をしたいと考えている方へ～

**日　時：**2016 年　7 月　7 日（木）・7 月 8 日（金）
**場　所：**一口坂校舎 1 階情報発信スペース
**概　要：**

**1．内容：**

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが、一口坂校舎 1 階情報発信スペースで 7 月 7 日（木）・8 日（金）に「東北・熊本物産展～何かできる範囲で被災地支援をしたいと考えている方へ～」を実施しました。

東日本大震災の被災支援に取り組んでいる学生スタッフ「チーム・オレンジ」は震災の記憶が風化したり、ボランティアのあり方が変化したりするなか、再び被災地に目を向けてもらうために昨年 7 月に「東北物産展」を初めて開催しました。
４月の熊本地震を受け、今回は熊本の物産もそろえ、北と南両方の復興支援につながるようと企画し、岩手県軽米町産のコクワの実でつくった「さるなしドリンク」や太い麺と鶏ガラスープが特徴の「熊本の桂花ラーメン」などの学生がセレクトした商品を販売しました。

また今回の物産展の目玉として本学の公式キャラクターの「えこぴょん」と熊本の PR キャラクター「くまモン」のコラボグッズを企画し販売しました。
http://www.hosei.ac.jp/koho/photo/2016/160630.html

チーム・オレンジの学生たちは、多くの人々に来てもらうために、7 月 6 日にえこぴょんと協力してフォレストガーデンで物産展 PR イベントの実施や、手書きのポップの作成や、一口坂校舎の前ではっぴを着ての積極的な呼び込みをおこなった結果、2 日間で来客数は 312 名に達しました。
また売上額は、253,930 円に達し、利益の 24,085 円はすべて、熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付いたしました。

被災地の復興を支援するため、震災を風化させないためにも、市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もこのような取り組みを企画していきます。

**2．来場者数・売上**

来客者数　：312 名
売上額　　：253,930 円
利　益　　：　24,085 円　（熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に 4 等分し全額寄付）
協　力　　：株式会社エイチ・ユー

### ３. 企画学生の感想

東日本大震災から発足した支援団体であるチーム・オレンジで昨年度から企画し始まった物産展ですが、今年はどう進めるか決める矢先に熊本の地震が起こりました。その後の物産展の会議でスタッフから今年度は、東北はもちろん熊本の商品も売って支援したいとの声が自然と出ました。
スタッフの中には熊本出身者もいなく、意識する機会が少なかったため、名産物や郷土料理を調べました。その中で選んだ商品から熊本の良さを伝えられたらいいなと思いました。

今回の物産展は東北支援だけではなく、熊本支援とコラボグッズの作成によりマスコミに取り上げられて、多くの方々に足を運んで頂き大変嬉しく思っています。企画のリーダーとして運営の大変さも感じましたが、多方面の協力により無事に終えることができました。発注及び場所の提供に協力して頂いた株式会社エイチ・ユーの関係者には、運営の面で大変お世話になりました。
これからも震災を風化させない支援活動を継続していきたと考えています。

チーム・オレンジ学生スタッフ　キャリアデザイン学部　　キャリアデザイン学科 3 年生　岡﨑　健斗

えこぴょんと協力してフォレストガーデンで
ＰＲイベント

集合写真

さるなしドリンクを外で販売している様子

店内でコラボグッズについて説明

# 17. 子どもたちと一緒に手話を学ぼう！

**日　時：**2016 年　8 月　4 日（木）
**場　所：**千代田区　富士見わんぱく広場
**概　要：**

**１．内容：**

8 月 4 日(木)に市ヶ谷ボランティアセンターと手話サークル「わたがし」のコラボ企画として「子どもたちと一緒に手話を学ぼう」を「富士見わんぱく広場」で実施し、25 名の学生が参加しました（手話サークル「わたがし」18 名、ボランティアセンターの募集による一般学生 7 名）。
当日は小学校 1 年生から 5 年生までのおよそ 40 名が集まりました。聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を子どもたちに問いかけつつ、楽しく学んでもらいました。

本プログラムの目的は 3 点あり、まず 1 点目は手話劇や手話ゲーム、手話歌等の各ワークショップを通して手話の楽しさを知ってもらうこと。2 点目は、外国語と同じような「ことば」としての手話に興味および関心を持ってもらうこと。3 点目は、参加者に、子どもたちとふれあうきっかけを提供することでした。

子どもたちが親しみやすくなるように今回は「動物」をテーマに絞りました。手話劇では 1 人耳が聞こえないお友達がいて、彼女とお話しするにはどうしたら良いのだろう？ということを子どもたちに考えてもらいながら進行していきました。
手話ゲームでは視覚的に伝える方法を実際に体験してもらうため、ジェスチャーゲームを行ないました。
最後の手話歌では「手のひらを太陽に」に出てくる 6 匹の動物の手話表現を一緒に覚え、みんなで楽しく体を動かして歌いました。和気あいあいとした雰囲気で子どもたちだけでなく大学生も一体となって、楽しむことができました。

今回の企画を通して「手話とは何だろう？」ということや、コミュニケーション方法には「筆談」や「ジェスチャー」、「手話」がある等の発見をしてもらえたのではないかと思います。

法政大学手話サークル「わたがし」では週 2 日、手話の勉強をしており、その中でゲームも織り交ぜながら楽しく学習しています。手話は必ずしも聴こえない人が話せるというものではありませんが、私たちは「手話は言語である」という認識に基づいて日々、活動しております。
ボランティアセンターと連携し、念願の企画を実現させることができ大変うれしく思っております。今後も地域の子供たちに手話を教えていきたいです。

手話サークル「わたがし」　渡辺晴香（人間環境学部　人間環境学科 3 年）

## ２．参加者数

２５名

## ３．背景・目的

・サークル間の連携によるボランティア活動。

・地域貢献ボランティア活動への参加。

手話劇「耳が聞こえないウサギ」の様子

ジェスチャーゲームのルールを子どもたちに教える様子

ジェスチャーゲームの様子

「手のひらを太陽に」を子どもたちと手話を交えて歌っている様子

# 18. ～遠野市を拠点とした～ 東北被災地ボランティアツアー

**日　時：**2016 年　8 月 22 日（月）～　9 月 1 日（木）4 分隊にて出発
**場　所：**岩手県　遠野市　陸前高田市、上伊閉郡大槌町
**概　要：**

**１．内容：**

現地では、「遠野山・里・暮らしネット」のコーディネートの下、仮設住宅から公営住宅への引越、ビニールハウス（トマト）の整備、ニンニク農家の補助作業、公営住宅での昼食づくりなどの様々なボランティア活動を実施しました。また研修を兼ね、被災地の見学会や三陸鉄道学習列車にも乗車しました。
現地に向かう前には、ボランティアの心得や注意事項、現地の現状等についての事前研修を実施し、帰着後には報告会を開催し、隊ごとに活動発表を行い、情報を共有しました。

また、ボランティアセンター学生スッタフであるチーム・オレンジが、本プログラムを実施する前に、法政大学の被災地支援の取り組みを知ってもらうため、「チーオレ新聞」を作成し、ボランティアの受け入れ先に配布しました。また、新聞を渡す際にどのようなボランティアを実施するかを取材し、事前説明会時に、参加学生にボランティア内容を伝えることによって、学生が想像しているボランティアと実際に行うボランティアとのギャップを埋めることができました。

**２．参加者数**

４８名

**３．参加学生の感想**

東日本大震災から５年が経過し、テレビや新聞から情報を収集していたため、震災についてはもうほぼ知っていることしかないだろうと思っていたが、資料館の写真を見たり、現地の人の声を聞いたりして、知らなかったことが、いっぱいあった。仮設住宅での交流会のとき、「来てくれてありがとう、頑張って」と言って下さり、私たちが元気をもらった。
「来てくれてありがとう」という言葉は本当に嬉しく、また力になりたいと思うことができた。短い間だったが、貴重な体験ができてよかった。

三陸鉄道の視察、まき割り、仮設住宅・公営住宅での交流会、どれも私にとってはじめてのことで多くのことを知れたと同時に、もっと早くその事実を知るために行動していればよかった、という後悔もあります。ただ、現地の人たちは、私たちが来てくれたことにありがとうと言葉をかけてくれ、復興への前向きな姿を見ることができました。そのような人々の思いを今回だけで終わりにするのではなく、次につながる取り組みをしていきたいと思いました。また、過去を悔やむばかりではなく、復興に向け出来ることを考え、前向きに生きることが必要だと感じました。

## 4．背景・目的

・震災に関する風化防止。

・現地で学ぶ被災地支援ボランティア活動。

・経年変化していくボランティアのニーズについて学ぶ。

仮設住宅から公営住宅の引越の手伝い

公営住宅での昼食づくり（手巻き寿司、なべやき）

薪割りボランティア後の集合写真

仮設住宅での交流会

奇跡の一本松へ

畑の整備

# 19. まちのわ防災フェスタ

**日　時：**2016 年　9 月　3 日（土）
**場　所：**飯田橋グラン・ブルーム
**概　要：**

**1．内容：**

本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は防災をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントでした。

市ヶ谷ボランティアセンターは、キャリアデザイン学部荒川ゼミ、理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）、IVUSA、ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ、ボランティアセンター学生スタッフ VSP と連携し本イベントを盛り上げ、総計 754 名の方々に参加していただきました。

各団体が実施した内容は以下の通り

1．理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）
○最新レスキューロボット実演
災害時に、人命救助活動を支援するレスキューロボットの実演を行いました。

2．キャリアデザイン学部荒川ゼミ
○アーットおどろく防災グッズ作り
簡単なクイズで防災を学びながら親子で楽しいアート防災グッズ、「Ｔシャツバック」「ざぶとん頭巾」を作りました。

3．チームオレンジ、VSP　２団体合同
○緊急に役立つ身近なもの活用法
腕に怪我を負ったときに役立つレジ袋の利用法、三角巾の使い方、キッチンペーパーを使ったマスク作りを来場者に教えました。

4．IVUSA
○非常食体験＆バルーンアート
非常食の代表例であるアルファ米を実際に来場者と調理しました。またバルーンアートを子どもたちにプレゼントしました。
本イベントを通して、法政大学学生の取り組みついての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来ました。ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。

## ２．参加者数

７５４名（総参加者数）

## ３．背景・目的

・地域貢献ボランティア活動の推進。

・学内の各ボランティアサークルの連携。

知能ロボット研究室　最新レスキューロボットの実演

知能ロボット研究室　レスキューロボットの操作方法を子どもたちに教える

IVUSA　非常食調理体験

IVUSA　バルーンアート

チームオレンジ＆ＶＳＰ　三角巾の使いかた

キャリアデザイン学部荒川ゼミ　Ｔシャツバック

# 20.～環境省・㈱電通連携事業～若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業現地視察（楢葉町町長表敬訪問）

**日　時**：2016 年　9 月　14 日（水）
**場　所**：福島県双葉郡楢葉町
**概　要**：

**１．内容：**

ボラティアセンター学生スタッフチーム・オレンジのメンバー2 名が、楢葉町町長を表敬訪問しました。ボラティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは今後、楢葉町、一般社団法人ならはみらいと協力し、町民との交流を通じて、避難指示が解除になってから 1 年余りが過ぎた楢葉町の復興の気運を、高めていただくプロジェクトを実施していきます。

今回の訪問は、学生スタッフが現地を視察し、今後の活動に繋がる情報を得るとともに、また、楢葉町役場の職員、一般社団法人　ならはみらいのスタッフとの顔合わせや楢葉町町長を表敬訪問しました。

本プロジェクトの活動に関連した取組として 10 月 15 日・16 日に六本木ヒルズで開催される福島フェス 2016（http://fes.fukushima.jp/）に参加し、楢葉町の美味しい食材、美しい文化を発信していきます。

**２．参加者数**

２名

**３．背景・目的**

・楢葉町でのボランティア活動の事前研修、視察。

楢葉町町長を表敬訪問

休耕田の視察

米農家からのヒアリング

ならはみらいのスタッフと打ち合わせ

# 21．東北・熊本物産展＠法政フェア

**日　時：**2016 年　9 月　18 日（日）
**場　所：**外濠校舎 1 階
**概　要：**

**1．内容：**

ボランティアセンター学生スタッフ　チーム・オレンジと VSP のメンバーが、外濠校舎にて 9 月 18 日（日）に「東北・熊本物産展＠法政フェア」を実施しました。
学生スタッフは積極的に声かけを行い、被災地支援の商品を販売しました。学生は手作りの説明 POP や、大学のはっぴを着てフェア来場者に商品をアピールしました。

岩手県軽米町産のコクワの実でつくった「さるなしドリンク」や、太い麺と鶏ガラスープが特徴の「熊本の桂花ラーメン」などの学生がセレクトした商品は、都内では珍しいという事もあり、足を止めて商品を手に取る人もあり、法政フェアを彩りました。来ていただいた方には東北や熊本の魅力を感じ、興味を持っていただけたと思われます。

また、7 月の物産展で販売した東北・熊本コラボグッズ（法政大学「えこぴょん」と熊本の PR キャラクター「くまモン」のコラボグッズ）の企画）の販売もあり、学生ならではの感覚で被災地支援を行うというところでも来場者の目を引いていました。
「くまモン×えこぴょんコラボグッズ」に関しては、評判がよく、今後法政グッズなどの定番商品として、学生オリジナルの企画展開を予定しています。

法政フェア全体の来場者は 169 名、売上額は、39,590 円になり、利益の 5,300 円はすべて、熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付いたしました。

東北・熊本の被災地の復興を支援するため、震災を風化させないためにも、市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もこのような取り組みを行っていきます。

**2．参加者数・その他**

来客者数　：169 名（法政フェア全体）
売上額　　：39,590 円
利　益　　：　5,300 円　（熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に全額寄付）
協　力　　：株式会社エイチ・ユー

**3．背景・目的**

・東北・熊本被災地支援ボランティア。
・イベントの企画（商品選定・見積・仕入れなど）から運営までを学ぶ。

熊本・東北物産展の様子①

熊本・東北物産展の様子②

熊本・東北物産展の様子③

熊本・東北物産展の様子④

# 22. 手話講座（入門編）

**日　時：**2016 年　10 月　6 日、13 日、20 日、27 日、11 月 10、17 日、12 月 15 日（番外編）、22 日（毎回木曜日）

**場　所：**富士見坂校舎Ｆ309 教室

**概　要：**

**１．講師：**ＮＨＫ手話ニュースキャスター　中野佐世子氏

**２．内容：**

手話講座入門編では、NHK 手話ニュースキャスター中野 佐世子氏を講師に招き、自己紹介を初め、基本的なあいさつから、聴覚障がい者について、また障がい者に関しての法規などにも触れながら理解を深めていきました。テキスト「遊んで学べる手話ゲームブック」を基本にしながら、楽しく学んでいくことができました。

番外編として、12 月 15 日（木）に、「伴走ボランティア入門講座」として手話講座とは異なる角度で「目の見えない人をサポートする楽しさを知る」をテーマに、西川雅明氏、堀越雅也氏を講師に、視覚障がい者と伴に走る伴走ボランティアに関しての基礎知識も学びました。

手話講座に関しては、全８回という事もあり、今回の入門編からもっとハイレベルな内容に関して学んでいきたいという意欲的な参加者や、より広義な福祉についてより知識を深めていきたいなどの感想もあり、充実したボランティア講座になりました。

**３．参加者数**

１６名

**４．参加学生の感想**

・手話は表現がとても美しく、覚えるのが楽しかったです。
これからも手話に触れる機会を作って上達したいです。今、独学で知っている日本の歌を動画で覚えています。

・用事が何度か重なり、毎回は参加することができませんでしたが、とても充実した時間を過ごせました。普段なにげなく使っていた駅やバス停でも、障がい者にとって利用しやすいかどうか考えている自分がいました。習った時間は短い期間でしたが、ほんとうにありがとうございました。

・手話を初めて勉強したのですが、とても楽しく学べました。受講して良かったです。
ありがとうございました。これからも色々な障がいなどについて興味を持ち勉強してみたいなと思います。

## ５．背景・目的

・基礎的な手話の習得、聴覚障がい者への理解。

・ボランティアに対する意識の向上。

講座全体の様子

講師　中野　佐世子氏

熱心に手話を学ぶ様子

対話形式で手話を学ぶ様子

# 23.～環境省・㈱電通連携事業～若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業 福島フェス 2016

**日　時：**2016 年　10 月　15 日（土）・16（日）

**場　所：**港区　六本木ヒルズアリーナ

**概　要：**

**１．内容：**

法政大学ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは 10 月 15 日（土）～16 日（日）、東京・港区の六本木ヒルズアリーナで開催された「福島フェス 2016」にブースを出展した楢葉町に神戸大学、東京都立農業高等学校と共に協力し、イベントを盛り上げました。

美味しい食材や文化など、福島県の魅力を東京から発信する同イベントは、ステージパフォーマンスンスや飲食、物産など盛りだくさんの内容で、福島に心を寄せる人々から毎年好評を得ています。

楢葉町の食材を使った長さ 5.4m の太巻きづくりや「ならは米すくいどりチャレンジ！」で、ならは米（品種：天のつぶ）の美味しさと安全性をアピールしました。

■ならは米すくいどりチャレンジ！

6 年ぶりに出荷を再開した楢葉町のお米の美味しさを知っていただくため、ゲーム感覚でお米の重さを当てる「ならは米すくいどりチャレンジ！」を開催しました。枡などを使って 300g のお米をすくい上げるこの催しは、小さな子どもからお年寄りまで大好評。成功した参加者には四葉のクローバーの種がプレゼントされたほか、全員に記念品としてならは米 300g が贈呈されました。このブースの運営をチーム・オレンジの学生スタッフが担当し、2 日間で約 950 名の来場者がブースを訪れました。

■楢葉町の食材を使った長さ 5.4m の太巻きづくり

「たくさんの素材を使ったものを、みんなで力を合わせて作る」。さまざまな立場、大勢の人の力 を借りて復興に取り組んでいる楢葉町とイメージが一致する「太巻き」をステージ上で製作しました。 使った材料は、ならは米 4 升と楢葉町内を流れる木戸川で水揚げされた鮭のフレーク。その他アボカド、きゅうり、玉子焼き、カニかまぼこ、桜でんぶ、あなごなどチーム・オレンジの学生がアイデアを出した具材を入れました。

楢葉町の職員や学生ボランティア、一般応募の方、そして福島県出身でアカペラグループ RAG FAIR のリーダーを務める引地洋輔さんら 13 人が参加し、安心してお米を作れるようになった喜びと感謝の気持ちを込め巻き上げました。 町制施行 60 周年を迎えた楢葉町のキャッチコピー「こころ つなぐ ならは 明日へ」の文字を刻んだフラッグピックを刺して完成した太巻きは、太さ 5cm、長さ 5.4m と超特大。会場が笑顔と拍手に 包まれました。 このあと、太巻きは会場を訪れた 200 人に振る舞われました。

**２．参加者数**

約９５０名（内　法政大生１９名）

**３．背景・目的**

・被災地（福島県 双葉郡楢葉町）の復興支援。

・内外関係者と連携したボランティアイベントの運営協力。

ならは米すくいどりチャレンジ！で参加者と交流

集合写真

太巻きを巻いている学生スッタッフ（右から４人目）

完成した太巻を披露

# 24. わんぱくこどもまつり

**日　時：**2016 年　10 月　22 日（土）

**場　所：**千代田区富士見わんぱくこどもひろば

**概　要：**

**１．内容：**

市ヶ谷ボランティアセンターでは、千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくこどもまつり 2016」に協力しました。アカデミー合唱団、児童文化研究会、一般応募した学生を含む計 29 名の本学学生が参加しました。

アカデミー合唱団の学生は、法政大学校歌、ドレミの歌など計 4 曲を披露し、子供たちから大好評でした。

児童文化研究会の学生は「おおきなかぶ」の巨大紙芝居を披露し、一般応募した学生たちは、パレードの交通整理、工作教室の補助、ハロウィンをテーマにしたゲームの運営を担当しました。

また、本プログラムに参加した学生たちからは、「自分たちの活動が地域貢献に繋がって、嬉しかった。」などの意見もあり、地域貢献することの喜びと、手ごたえを感じていたようでした。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画していきます。

**２．参加者数**

２９名

**３．背景・目的**

・地域貢献ボランティア活動の実践。

・ボランティアに対する意識の向上。

ハロウィンをテーマにしたゲームの運営の様子

アカデミー合唱団によるドレミの歌

# 25. ～法政大学×東洋大学～ 富士山清掃ボランティアツアー

**日　時：**2016 年　10 月　25 日(日)
**場　所：**富士山麓
**概　要：**

**１．内容：**

東洋大学と合同で、「NPO 法人・富士山クラブ」のご指導のもと、学生 69 名（法政 36 名、東洋 33 名）、教職員 3 名で『～法政大学×東洋大学～富士山清掃ボランティアツアー』を実施しました。

バスの中では、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）を中心とした企画スタッフがレクリエーションを行うことによって、参加者間の交流が深まりました。

今回から、富士の自然の美しさを参加学生に知ってもらうため、約 2 時間、「NPO 法人・富士山クラブ」指導のもとトレッキングを実施し、樹海に生息している動植物の生態系を学ぶことができました。トレッキングの後に昼食をとり、清掃活動の作業現場に移動しました。

作業現場は数か所あり、車のバッテリー、廃屋を解体した際のがれきや、木材、ガラス等が山のように積まれていましたが、法政大学と東洋大学の学生が協力することにより大量のごみを廃棄することができました。

活動後は各班にわかれ、情報共有、振り返りを行い、清掃活動を広めるアイディアを発表するなど、充実した活動となりました。
今後も法政大学と東洋大学は協力して富士山の清掃活動を継続的に行っていきます。

**２．参加者数**

７２名

**３．背景・目的**

・環境ボランティアについての意識を養う。
・ボランティア活動を通し、他大学との協力、交流をする。

富士の樹海をトレッキング

樹海に生息している植物について説明を受ける

熱心に手話を学ぶ様子

対話形式で手話を学ぶ様子

振り返りの様子

全体写真

# 26. ボランティア総合講座第7回 ダイアログ イン ザダーク

**日　時：**2016 年　10 月　25 日（火）

**場　所：**東京都渋谷区神宮前 2-8-2 レーサムビル
ダイアログ　イン ザダーク

**概　要：**

**１．内容：**

本プログラムは、特定非営利活動法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンが実施しており、1 名のアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、完全に光を遮断した空間の中を探検し、様々なシーンを体験することが出来るプログラムです。参加学生たちは、完全に暗闇の中、藪やトンネルや橋などの障害を、声をかけあい協力することよって進んでいきました。

また道中には、音だけで絵画に描かれている絵をイメージしたり、完全に光が遮断されたカフェで飲み物を注文し、料金を支払い、各々が注文した飲料を飲みながらアテンドの方との会話を楽しみました。
また、最後に体験したことをイメージして、細かく砕かれた木や綿などを用いて作品を作りました。

本プログラムを通して参加学生は、視覚障がいを持った方への理解、コミュニケーションの重要性にきづいたようで、今後もこのような「きづき」のきっかけとなるプログラムを市ヶ谷ボランティアセンターでは、実施していきます。

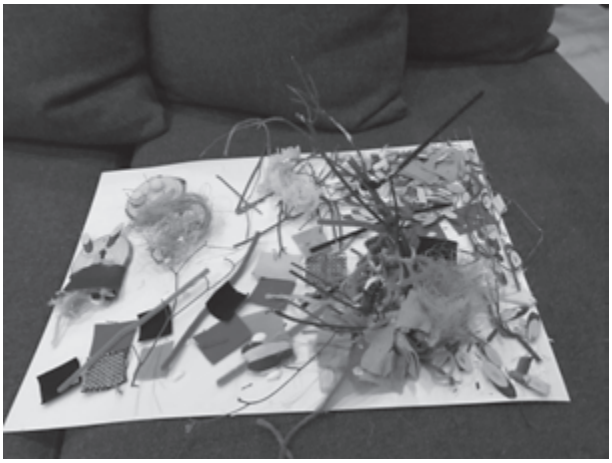
**２．参加者数**

１３名

**３．背景・目的**

・視覚しょう害者への理解。
・ボランティア活動でのコミュニケーションの重要性に気づかせる。

集合写真



体験したことを表現した作品

# 27．日本橋発！ボートで行く水の街東京ボランティア

**日　時：**2016 年　10 月　30 日（日）
**場　所：**東京湾護岸
**概　要：**

**１．内容：**

大都市東京は多くの川や水路や運河が流れています。今回は実際にボートに乗って体感することで、大都市の中でみおとしがちな「自然」というものを実感するとともに、その現状を知り、都会の中でも身近にある自然を守り、大切にする重要性を感じてもらうために、ボートでしか行くことができない運河の護岸で、清掃活動を行いました。

ボートに乗って東京の運河を移動する、という普段経験できない貴重な体験をすることで、参加者もそれを楽しんでいました。また、船上では NPO 法人遊んで学ぶ自然倶楽部の方に、運河や東京の水辺についての解説をしていただきました。

実際に清掃場所の護岸に到着してみると、そのあまりのごみの量に圧倒されている参加者がほとんどでした。東京の水辺の現状を理解し得たのではないかと思います。

東京臨海部の雄大な風景に注目がいき、ごみの存在に気が付かない人はたくさんいると思います。しかし、東京の護岸には今もなお確実にごみが蓄積しており、それがボランティアの力によって処理され、東京の水辺の美しさが維持されているということを、今回のボランティアを通して参加者に理解してもらうことができました。この企画をきっかけに、今後ボランティアに自主的に参加してくれればよいなと思います。

**２．参加者数**

２１名

**３．参加学生の感想**

普段から水辺に行く機会が少なく、これまでに東京湾に興味を持つことがなかったため護岸という場所がどのようなものなのか不明で、東京湾の真ん中に浮かんでいる島だというイメージを持っていました。しかし、実際に訪れてみると、想像していた場所とは少し異なっており、道路に面した場所だったので廃棄物が投棄されやすいのだと理解しました。ごみを回収していく中で、水辺にはとてもふさわしくない、衣類や DVD などといった物も捨てられていて驚きました。

実際に護岸に到着すると、多くのごみが落ちていることに気づきました。ごみは大きなものから小さなごみまで数多あり、その種類もペットボトルや発泡スチロール、ビン類、衣服類、サッカーなどのボールなど多種多様に及んでおり、実際に清掃を始めると、上陸した際に感じた量よりもはるかに量が多いということが分かり、拾っても、拾ってもなかなか減っていかないということに愕然とすることとなりました。時間内に完璧に清掃することが出来ないほどの量でした。

ボートに乗って隅田川を渡ったことはすごく新鮮でした。また、大量のゴミが流れ着いていることを目の当たりして、私たちが意識していないところに守るべき、改善すべき問題が存在していることを痛感しました。今回の

経験を、環境について考え、守っていくために、今見えている狭い範囲だけではなく、より視野を広げることに活かしたいと思いました。

## ４．背景・目的

・学生企画のボランティアプログラムの実現。
・身近な環境保護ボランティアについて学ぶ。

参加学生がボートに乗っている様子１

護岸に漂着したゴミを拾っている様子

参加学生がボートに乗っている様子２

NPO 法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部より東京の水辺について説明を受ける

川辺のゴミを拾っている様子

集合写真

# 28. ～環境省・㈱電通連携事業～若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業 ボランティア

**日　時：**2016年　11月　12日（土）・11月13日（日）

**場　所：**福島県双葉郡楢葉町

**概　要：**

**1．内容：**

法政大学ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは11 月 12 日（土）・13 日（日）、福島・楢葉町で、若者と町民の交流による復興の気運を高めることを目的に、休耕田に景観植物の種をまくほか、一般家庭での民泊（ホームステイ）など、さまざまな活動を行う「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」を神戸大学、東京都立農業高等学校と共に協力し実施しました。

復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される同活動に参加したのは、10月に東京・六本木で開催された「福島フェス」において、6年ぶりの出荷となる楢葉町の新米をPRする復興活動にも協力した法政大学、神戸大学、東京都立農業高校（東京都府中市）の在校生39人（内法政大生24名）です。

○一面に広がる花畑を思い浮かべながらの農作業。「花が咲いたらまた来たい」

学生たちは町内にある休耕田の一角（約 1100 ㎡）に、赤い穂状の花を咲かせるクリムソンクローバー、そして幸福の象徴でもある四葉のクローバーの種をまきました。

70cmほどの間隔で溝を掘る作業から始まり、小さな種をまいてホウキで土をかけ、さらに肥料をまくなど、土いじりに慣れていない若者は難しがりながらもそれらは新鮮な体験となり、「町の人と協力しながら花畑を作る活動ができて楽しい」「思ったより大変な作業だけど、この苦労がキレイな花となり、誰かの目を楽しませてくれるなら嬉しい」「花が咲く頃にもういちど楢葉町へ来たい」と感想を述べました。

この休耕田にはワイルドフラワーや菜の花の種もまかれており、春には一面に広がる色鮮やかな花畑となります。また町内の名所として知られる桜並木の前に位置しているため、開花時期には新たなビュースポットとなることが期待されます。

○マミーすいとん作り

法政大学ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジの発案で、楢葉町の住民と交流することを目的に、マミーすいとん作りも実施しました。かつてサッカー日本代表監督を務めたトルシエ氏が、「フランスのマミー（おばあちゃん）の味に似ている」と感動し命名した、楢葉町の名物「マミーすいとん」を作りました。「ならはすいとん研究会」の皆さんに教わり、粉をこねる工程から挑戦。水加減に気を配りながら一生懸命こね上げ、しいたけで出汁をとったスープに入れて完成。初めてすいとんを食べる若者にも懐かしさを感じさせる味だったようです。

○民泊（ホームステイ）

宿泊は楢葉町の一般家庭で「民泊（ホームステイ）。2～3人が15のグループに分かれ、民家に泊めていただきました。初対面で顔を合わせたときは緊張の表情が隠せなかった学生も、ひと晩お世話になってさまざまな話を聞いた翌朝は「別れるのが寂しく感じました」「温かい食事で歓迎してもらえたことが嬉しかった」「震災がどれだけ大変なことだったか、体験した人の話を聞いて勉強になった」とコメントしていました。

また、この他にも楢葉町を知るために、天神岬見学、木戸川漁業協同組合見学、東日本大震災の語り部による講話も行いました。閉会式には松本幸英町長のあいさつがあり、「楢葉町は全国から温かいご支援をいただいて

いますが、こうして皆さんに花畑を作っていただき、帰ってからこの活動について広めていただくことも大きなご支援だと思っています。こうした支援に対し『楢葉町は元気なんだ』という姿をお見せすることがいちばんのお返しだと考えています。」と感謝の言葉を頂きました。今後も法政大学ボランティアセンターは楢葉町を応援していきます。

**２．参加者数**　３９名(内 法政大生２４名)

**３．背景・目的**

・被災地（福島県 双葉郡楢葉町）の復興支援。

・被災地の現状把握、現地でのボランティア活動の実践。

花畑を思い浮かべながらの農作業

集合写真

木戸川で獲れた生きたサケに触れ大興奮

町民の方と一緒にマミーすいとん作り

すいとんを食べながら町民の方にチームオレンジの活動紹介

民泊先の町民の方と夕食を食べながらの交流

# 29. 外国人おもてなし語学ボランティア講座②

**日　時：**2016 年　11 月　19 日（土）
**場　所：**富士見坂校舎Ｆ309
**概　要：**

**１．内容：**

東京都と法政大学は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、本講座を実施しており、今回は本年度２回目の実施となります。（1 回目は 6 月 11 日に実施）

東京都が単独で実施している本講座の受講者は、40 代、50 代、60 代の方が多く、大学と東京都が共同で実施することによって、10 代、20 代の参加も促せるのではないかと思い東京都と協定を締結し本講座を実施いたしました。また、東京都が単独で実施している本講座の抽選倍率は 30 倍～40 倍であるため、共同で実施することによって本学学生が優先的に受講する場を提供することができました

当日は、台東区谷中にある「澤の屋」という旅館を紹介した動画を見た後に、おもてなしに関する基礎知識としてコミュニケーション力と問題解決、ボランティアスピリッツについて学びました。講師の話を一方的に聴講する講座ではなく、グループワークやペアワーク通して、参加者が発表する形式であったため、全員が積極的に参加することができ、非常に満足度の高い講座となりました。最後に、この講座の参加者全員で「おもてなし５箇条」を作成し、ボランティアスピリッツを共有しました。

講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から５９名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。
ボランティアセンターでは今後もこのような講座を実施していきます。

**２．参加者数**

５９名

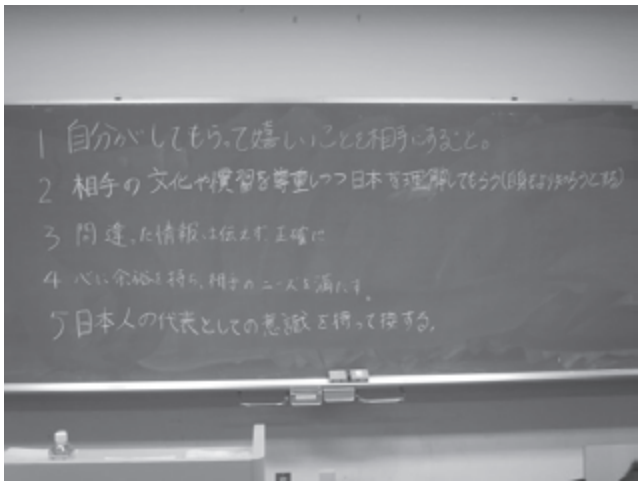
**３．背景・目的**

・学生の国際系ボランティアなどへの関心。
・ボランティアに関する意識の向上。

外国人観光客にレストランまでの道を案内するロールプレイ

カードに書かれた情報を相手にジェスチャーで伝えるゲーム

路線図を用いて電車の乗り換え方法を英語で案内




参加者で考えた「おもてなし５箇条」

# 30. ボランティア総合講座第8回
# 猫たちに会いに行こう！
# ～保護猫カフェで学ぶ動物愛護ツアー～

**日　時：**2016 年　11 月　25 日（金）
**場　所：**ネコリパブリック東京池袋店
**概　要：**
**１．講師：**ネコリパブリック東京池袋店　上野佳世子氏

保護猫カフェとは捨て猫を引き取り、里親を探して譲渡する猫カフェです。その保護猫カフェで実際に猫と触れ合いながら保護猫活動について学ぶことにより、普段動物愛護に関心のない学生にも動物保護について知ってもらうというのが本企画の目的です。今回は地域の保護猫団体と協力して、保護された猫の里親探しを行うネコリパブリック東京池袋店を訪れました。

プログラムでは講師の上野佳世子さんからネコリパブリックの保護猫活動についてお話を聞かせていただきました。そのなかで特に興味深かったのは、保護猫活動が飼い主に捨てられてしまった保護猫の引き取りの他に、さくら猫の保護も含んでいるということです。さくら猫とは野良猫の繁殖を防ぐ地域猫活動で避妊・去勢手術を施され、耳に目印のカットが入れられた猫です。さくら猫は一代限りの命を懸命に生きており、地域でしっかり管理される必要があります。しかし地域猫活動が適切に行われている地域は少なく、さくら猫の管理が不十分であることなども問題になっているようです。地域猫活動を進めていくためにもさくら猫を保護する保護猫カフェの活動は重要なものだと感じました。

また、保護猫カフェに行くことで、誰でも保護猫活動に関わることが出来るというお話もありました。ネコリパブリックでは売り上げを保護猫活動に充てることにより、来店し猫と触れ合うことが保護猫活動の支援となるような仕組みを取っています。そのようなシステムの保護猫カフェは、普段あまり時間や興味がない人にも、気軽に動物保護に参加できるような場を提供するという役割も担っているのだと思います。

その後の餌やり体験では、一匹一匹の猫の性格を直に見ることができ、様々な発見がありました。最初は「保護されてきた猫はおとなしい性格が多いのだろう」というイメージがあったので、すぐ人に寄り添ってくる猫やケンカを始める活発な猫もいたことには驚きました。また、その中にはさくら猫もいました。そうした保護猫、さくら猫と実際に触れ合うことで飼い主がいない猫や地域で不適切な処理を受けている猫がいるという、普段なかなか考える機会のない問題を、身近に感じることができたと思います。今回保護猫カフェに足を運んだことで動物保護に対する学生たちの意識も高まったのではないでしょうか。

**２．参加者数**

２５名

## ３．背景・目的

・動物保護ボランティアなどを考える。

・学生が自主的に企画、運営するボランティアプログラム。

講師から保護ネコ活動に関する取組みの説明を受ける

講師が保護されてきた猫の生い立ちを説明

参加学生が保護猫に餌やり体験

餌やり後の参加学生と猫のふれあい

# 31．学食で、東北・熊本名物を味わってみませんか？
# ～復興支援メニュー～

**日　時：**2016 年　11 月 28 日（月）～12 月 2 日（金）、12 月 5 日（月）～12 月 9 日（金）
**場　所：**ボアソナードタワー地下 1 階 フォレストガーデン
**概　要：**

**１．内容：**

ボランティアセンターの学生スタッフであるチーム・オレンジは、ボアソナードタワー地下 1 階の食堂フォレストガーデンで学食の委託業者である東京ケータリング㈱の全面協力をいただき、11 月 28 日（月）～12 月 2 日（金）、12 月 5 日（月）～12 月 9 日（金）に「学食で、東北・熊本名物を味わってみませんか？～復興支援メニュー～」を実施しました。

東日本大震災から 5 年 9 か月。また、熊本地震から 8 か月が経ち当時の記憶が少しずつ薄れていく中、東北の被災地支援を行っているチーム・オレンジは、震災の出来事が風化していくのを防ぐために被災地に関心を寄せてもらえるように企画しました。チーム・オレンジのメンバーが被災地にちなんだ料理を選び、学食で提供できるよう東京ケータリング㈱と打ち合わせを重ねて実現し、この企画内容やチーム・オレンジの活動についての宣伝にも熱を入れました。さらに、売上の一部を義援金として被災地の人々に寄付することができました。

今年度は復興支援メニューの食券を券売機ではなく、手売りで販売する形をとり、チーム・オレンジのメンバーが 11 時～13 時 30 分の時間、交代で復興支援メニューの食券販売を行いました。企画の実施中は、声を出しての宣伝や手書きのポスター掲示や手作りの POP で装飾を作るなどの工夫をした結果、今年度の実施期間は 2 週間にもかかわらず復興支援メニュー合計 731 食を提供し、3 週間行った昨年度の食数（720 食）を上回ることができました。

一食につき 100 円を募金し義援金は 73,100 円となり、これを熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付しました。

**２．売上詳細**

食数　：福島ソースかつ丼（11/28～12/2）　416 食
　　熊本ラーメン（12/5～12/9）　　315 食　　合計 731 食
売上　：365,500 円（料理は両方一食 500 円）
募金額：　73,100 円（熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に 4 等分して寄付）
協力　：東京ケータリング㈱

### ３．学生スタッフの感想

今年は熊本で震災があったため、熊本にちなんだ料理を出すことにしました。
復興支援メニューの食券を手売りしたので多くの人手が必要になりましたが、本企画を担当していないメンバーも積極的に協力してくれたため、チームの結束力を改めて実感することができました。

また、手売り販売をすることによって、復興支援メニューを購入してくれた学生の声や
表情を直接確認することができ、今まで準備してきた苦労が報われました。
私たちの準備不足や確認不足も多々ありましたが、今回ご協力をしていただいた東京ケータリング（株）のフォローもあって、無事に企画を成功することができ、大変感謝しております。これからも震災の風化防止や被災地支援のための活動を継続していきたいと思います。

チーム・オレンジ学生スタッフ　法学部　法律学科　２年　渡辺康太

とろろ明太入りの熊本ラーメン

ソース多めの福島ソースかつ丼

路線図を用いて電車の乗り換え方法を英語で案内

熊本ラーメンを購入した学生

# 32. ボランティア総合講座第9回
# 外国人おもてなしの心を学ぶ
# ～澤の屋・谷中見学ツアー～

**日　時**：2016 年　12 月　7 日（水）
**場　所**：台東区根津 澤の屋旅館
**概　要**：

**１．講師**：澤の屋旅館　館主　澤　功氏

今回訪れた「澤の屋」は、かつて宿泊客が激減し、経営危機に陥りましたが、発想の大転換で、外国人客を主な顧客とすることによって経営を立て直している旅館です。
また、家族経営による心のこもった暖かいサービスと、無駄を省くことによって実現した低料金によって、トリップアドバイザー満足度１位の旅館になることができました。

澤の屋の従業員は、様々な国の語学に長けているわけでありませんが、顧客のニーズを正確にくみとり、顧客満足度は非常に高いのです。これは文法の正しさを追求するのではなく、顧客と共に考える、顧客が理解しやすいように単語だけで話す、マップを用いて話す、などの他の旅館にはない様々な工夫をしています。この澤の屋独自の工夫から実践的な外国人おもてなしを学んでもらうため、本プログラムを企画しました。

澤の屋に到着後は、旅館の設備の見学、ロールプレイングで参加学生が外国人宿泊客を演じ、旅館のスタッフとの英語でのやりとりを体験し、その後、旅館の館主である澤　功氏から外国人の対応を含めた旅館の経営のお話をうかがいました。
各部屋にバスタブは設けず、和式の共同浴場を使ってもらい、夕食は提供せず、近所のレストランで済ませてもらうなど、コストをかけずに、自然体の日本文化を楽しめる「おもてなしの心」が自然と存在していました。
質疑応答でも、参加学生から積極的に質問があり、澤の屋のおもてなしの心に興味をもってくれたようです。

澤の屋の見学終了後、館主から笑顔の送り出しを受け、近隣の根津神社と谷中銀座商店街を、学生スッタフが作成した谷中周辺のマップを用いて散策し、昭和の雰囲気がただよう下町の日常を楽しみました。

**２．参加者数**

１４名

**３．企画スタッフの感想**

・ボランティアセンターが１１月に実施した外国人おもてなしボランティアからヒントを得て、本企画を立案しましたが、実際に澤の屋旅館に赴き館主の澤様のお話を聞けたことは、大変貴重な体験で、おもてなしの本質を学ぶことができたと感じました。企画をするにあたり、電話でのアポイント取りや、企画書作成など大変な

事もありましたが、企画メンバーでミーティングを重ね、自分達のやりたかった事を実行できた時の喜びは一塩でした。
これからも学生のボランティアに対する意識向上を目指して、新たな企画に取り組んでみたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ　ＶＳＰ　文学部　英文学科２年　植原　里佳

・澤の屋旅館自体は小さいけれど、趣があるものでした。そして、旅館の中も日本らしさを出そうとする「おもてなし」や外国のお客様が日本の旅館に馴染めるように色々な工夫をしていることが、旅館の案内や澤さんのお話からよく分かりました。澤の屋の接客(英語のロールプレイング)をみて、英語を流暢に話すことができる人だけがグローバル人材になることが出来るのではなく、外国の人に臆することなく伝えることの出来る人がグローバル人材なのだと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ　ＶＳＰ　文学部　英文学科２年　川瀬　彩加

・今回企画側は初めてだったのですが、やり終えた時の達成感はかなりのものでした。特に日本人の外国人に対する思い込みと外国人のニーズにはかなり隔たりがある事を実感しました。でもある程度は自然体で接すれば良いのだという事も学べました。あとスタッフ一人一人の能力を結集して頑張れたのも嬉しかったです。

ボランティアセンター学生スタッフ　ＶＳＰ　文学部地理学科３年　森泉　博夫

市ヶ谷キャンパスから澤の屋に無事に到着

澤の屋の歴史やおもてなしのポイントについての講義

学生が外国人役になりチェックインまでの流れを英語でロールプレイング

澤の屋の従業員と参加者で記念撮影

# 33. 福島被災地スタディツアー

**日　時：**2016 年　12 月　11 日（日）
**場　所：**福島県いわき市、双葉郡楢葉町
**概　要：**

**１．内容**

本企画は、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが企画し、各種手配、広報、当日の運営を行いました。
主なターゲットを被災地に初めて訪れる学生とし、福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことを目的としたスタディーツアーを企画しました。

楢葉町では、一般社団法人ならはみらい所属の案内人によるガイドの下、震災の爪痕が残る町内の視察を行いました。その後、同案内人より、震災当時の楢葉町や避難生活中の状況についてお話いただきました。

いわきワンダーファームでは、トマトハウスでの収穫体験を行いました。また、震災により当該施設がオープンしたという経緯や、農作物に対する風評被害についてのお話をうかがいました。その後、直売所にて買物をし、現地食材を使用したビュッフェレストランで食事を取り、帰着しました。

現地での視察や講話、食事、買物を通して震災の記憶を共有し、結果として風化防止の一助となることができました。
また、このプロジェクトを通じて、チーム・オレンジの学生スタッフは、企画書作成、準備、当日の運営などのプログラムの一連の流れを学ぶことができました。

今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、震災の風化防止の一助となるプログラムを実施していきます。

■ルート（日帰り）
法政大学出発→楢葉町（町内視察・語り部）→いわきワンダーファーム(トマトハウス見学・夕食)→ 法政大学着

**２．参加者数**

４０名

**３．参加学生の感想**

・被災地の現状を知る事ができました。語り部さんのお話にもありましたが、本当の復興というのは心の復興なのだと感じました。被災された方々の中には気持ち的にも落ち込んでいる、心の傷が癒えない方が多くいらっしゃると思います。ここで、自分たちがボランティアとして活動することで少しでも良くなるのであれば、積極的に参加したいと思います。小さな事かもしれないけど、今日、見たこと、感じたこと、聞いたことを周りの人たちに伝えていくことも一つの復興につながったらいいと思います。

・リアルな街の状況を見て、リアルな話を聞いて、想像していたものとは違い、非常に考えさせられた。自分のイメージでは被災地はまだまだ復興できていなく、被災者は引きずっていると思っていた。しかし、被災地はだいぶ生まれ変わったと思うし、語り部さんの話を聞いて、みんな震災を糧に前を向いているのだと感じた。その一方で、放射能にさらされた土嚢が町のあちこちに残っていたり、沿岸部では震災の爪痕が残っていたりして、まだまだ復興が進んでいない部分もあることを知ることができた。

・震災が起きてから被災地の現状をテレビ以外で見ることはなかったため、自分の目で確かめることができたというのが一つの財産となった。語り部の人の話から、目に見える被害だけでなく、人と人をどう繋げるかというのが復興への課題と分かり、今後のボランティアなどに生かしたいと思った。語り部さんの、過度な支援は人の心を弱くする、というのを聞いて、ただ支援を続けるのではなく、相手のニーズに合わせなければならないと思った。

楢葉町の案内人より、被災状況の説明を受ける

被災当時の避難生活の状況についてお話しを聞く

トマトハウスで収穫体験をする交換留学生たち

現地食材を使用したビュッフェレストランで食事

# 34. ボランティア総合講座第10回 CSRのこれまでとこれから ～B Corporationという挑戦～

**日　時：**2016年　12月　12日（月）
**場　所：**外濠校舎S202教室
**概　要：**

**１．内容：**

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）の設立目的は「学部生のボランティア活動促進」ですが、本学学生には大学生活の4年間だけでなく、卒業し社会に出てからも社会貢献活動に身近であってほしいと思います。

そこで、CSRとB Corporationに注目しました。これらについて知る機会があれば、消費者や就活生として、生活の様々な場面でCSR 活動に積極的な企業を選んでもらう、間接的であっても意識的に社会貢献活動に関わるきっかけになるのでは、と考えたからです。

慶応義塾大学法学部 柳　明昌教授を講師にお招きし、①社会的責任論の歴史的な流れ ②社会的責任論の理論的な基礎 ③シェアリングエコノミーの台頭 ④過労死問題を考える、の四部構成で講義していただきました。CSRの歴史から、柳教授の専門が会社法ということで、CSR活動やBenefit Corporationの抱える法的なジレンマ等専門的な内容まで、わかりやすく解説していただき、大変有意義な講座となりました。特に、CSRの普及には市場からのアプローチが最も有効であるというお話には、私自身も励まされました。

卒業生には民間企業に就職する人も多いので、今後もこのような企画を通じて、学生のボランティア促進に努めていきたいと思っています。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）　法学部法律学科３年　阿部　佳代子

**２．参加者数**

１７名

**３．参加学生の感想**

・企業の社会的責任という考え方が生まれた背景や、企業の利益と社会貢献を両立させることの課題がよくわかった。（人間環境学部３年）

・B Corporationという考え方が日本で受け入れられたことが意外だった。これからは企業の社会貢献がより大切になっていくと思う。（文学部３年）

・CSV(共通価値の創造)について論文を書いているのでとても参考になった。（経営学部４年）

## ３．背景・目的

・学生の企画によるボランティア講座の運営。

・いろいろな視点からボランティア、社会貢献についてなどを学ぶ。

慶應義塾大学法学部　柳　明昌教授より説明

講義を真剣に聞いている学生の様子

# 35. ボランティア総合講座第11回 ＜復興庁協力＞ 被災地の産業復興と NPO の活動についての今を知る

**日　時：**2016 年　12 月　13 日（火）
**場　所：**富士見ゲート G201 教室
**概　要：**

**１．内容：**

東日本大震災から５年半が経ちましたが、まだまだ取り組むべきことがたくさんあります。
そんな被災地の産業の現状や、取り組むべき課題と向き合っている NPO や、被災地のために復興・創生インターンやボランティアにチャレンジしている学生についてなどを知ってもらい、被災地支援のありかたを再考してもらうことを目的とし本講座を企画しました。

当日は､本学ＯＢでもある復興庁産業復興総括班 山中　悠揮氏に被災地の復興の現状についてお話いただきました。その後、復興・創生インターンを実施している現地のＮＰＯ法人に、現地で実施していること、今後の課題についてお話しいただきました。参加者から積極的な質問もあり、大変興味深いお話でした。

また、復興・創生インターンに参加した本学学生、ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジより活動報告があり、参加学生は、復興支援の具体的なイメージができたようでした。
今後もボランティアセンターでは、このような被災地の今を知り、考える講座を行っていきます。

**２．参加者数**

３１名

**３．背景・目的**

・被災地支援のありかたについて現地の声を聞き、学ぶ。
・被災地の NPO 法人について学ぶ。

# 36. 見えない世界を知る、伴走ボランティア入門講座（手話講座・番外編）

**日　時：**2016 年　12 月　15 日（木）

**場　所：**富士見坂校舎 F309 教室

**概　要：**

**１．内容：**

本講座は、2017 年 1 月 14 日に代々木公園で実施する「伴走ボランティア体験教室」の事前学習として、伴走の楽しさ、基礎知識を学ぶということで実施しました。今回お呼びした二人の講師のうち一人は、目に障がいを持った方であったため、講座では伴走を「する」立場だけでなく、「される」立場からのご説明もしていただきました。

例えば、目の前を自転車が通りかかろうとするとき、目の見えない方にとっては、それが右から来ようが左から来ようがあまり関係はありません。自転車が来るという事実を認識することが最も重要なのです。ですから伴走者は端的に周りの様子を伝えるために、本当に必要な情報を即座に選択することが重要になります。これは伴走に限ったことではなく、日常生活にも当てはまります。目の不自由な方と一緒に歩いている途中で、階段を使わなければならないとき、ただ「階段がある」ということを伝えるだけでは不十分です。上りなのか下りなのかということも、忘れずに知らせる必要があります。これを学ぶことができたということが、この入門講座で最も大きなポイントになったのではないかと思います。

また今回の講義の中では、実際に目が見えない状態を体験する時間を設けました。二人一組になり、片方がアイマスクをつけ、もう片方がロープで誘導して教室を歩く（伴歩）というものです。この体験で、参加者は身をもって、見えないことの不安や誘導することの難しさを感じることができたと思います。

以上のように、この入門講座では、伴走するうえで必要な知識、また目が見えないということはどのようなことか、について知ることができました。今後も障がい者に対する理解を促進する講座を実施していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）法学部・政治学科 2 年 成田　大輝

**２．参加者数**

２１名

**３．背景・目的**

・視覚障がい者へのボランティアについて学ぶ。
・伴走体験教室（実技編）への導入。
・学生が自主的に企画するボランティア講座。

伴走に必要なものについて説明を受けている参加学生

講師から伴歩体験の注意事項について説明を受けている様子

アイマスクとロープを使い伴歩体験

机と机の間を慎重に慎重に歩いている様子

# 37. 児童館訪問企画（教プロ合同企画）
# ～子供たちと学ぶシャボン玉の科学～

**日　時：**2016 年　12 月　15 日（木）
**場　所：**千代田区立市谷小 こどもひろば
**概　要：**

**１．内容：**

課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO)スタッフとボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が協力し、「児童館訪問企画～子供たちと学ぶシャボン玉の科学～」を千代田区富士見わんぱくひろばで実施し、6 名の学生と 67 名の子どもたちが参加しました。

今回私たちは、本学学生がプログラムに参加することによって、しゃぼん玉の科学という「教養」を得るとともに、児童福祉という「ボランティア」への関心を持つことを目指し、KYOPRO スタッフと VSP が協働で本プログラムを企画しました。また、地域の子供たちに、シャボン玉ショー通して親子で楽しめる場を提供し、地域貢献をすることも目的とし本プログラムを実施しました。

講師には、シャボン玉パフォーマーとして有名なすぎやまこうじ氏をお招きしました。
シャボン玉ショーを子どもたちに実施する前に、本学の学生に 90 分間、子どもたちとの関わり方や、「どうしてシャボン玉は丸くなるのか？」、「どうしてシャボン玉は虹色に見えるのか？」などを解りやすく解説していただきました。参加学生は、すぎやま氏のお話しを聞く事によって、子どもたちとの関わり方や、しゃぼん玉に関連する、光の屈折・干渉などの科学的な現象を理解することができました。

その後、すぎやま氏によるシャボン玉ショーを児童館の子どもたちと一緒に楽しみました。一瞬にして無数のシャボン玉を発生させたり、煙を用いて色のついたシャボン玉を作ったり、シャボン玉の中にシャボン玉を入れる二重シャボン玉などの普段見ることの出来ないプロのパフォーマンスに、子どもたちは大喜びでした。
また、参加した学生たちはただシャボン玉ショーを見学しているだけはなく、子供たちの参加を促すため、シャボン玉ショーの呼び込みを行ったり、シャボン玉ショーを見ている子どもたちに積極的に話かけたり、子供たちと一緒にステージに立ち、巨大シャボン中にはいったりして、子どもたちともうまく関わることができていたように思います。

学生センターの学生スタッフである KYOPRO スタッフと VSP は、今回のプログラムのようにお互いの団体の長所を融合させ、本学学生に学びの場の提供とボランティア啓発を行ってきます。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科　２年 市野瀬　幹

**２．参加者数**

７３名

**３．参加学生の感想**

「しゃぼん玉」を通して科学、歴史、教育論について、講師の方から熱く、面白く、わかりやすく教えて頂き想像していた以上にためになる時間を過ごすことができました。
また、学生と子どもたちがしゃぼん玉ショーを通して、ただ遊ぶだけでは決して得ることが出来なかった密度の濃い交流をすることができました。

講師のすぎやま氏の話がとにかく面白かったです。シャボン玉に関しての質問をすると、どんなことでも、詳しく丁寧に教えてくれました。シャボン玉ショーでは、たくさんの子もたちに楽しんでもらえて本当によかったです。みんなとてもいい笑顔でした。

**４．背景・目的**

・地域貢献ボランティアとしての活動。
・他団体との協働によるボランティア活動の実践。

二重シャボン玉のパフォーマンス

参加学生と講師が無数のシャボン玉を飛ばしている様子

巨大シャボン玉の中に入る参加学生

講師と参加学生の集合写真

# 38. ～環境省・㈱電通連携事業～若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業　中間報告会

**日　時：**2016 年　12 月　18 日（日）

**場　所：**ボアソナードタワー26 階会議室Ａ

**概　要：**

**１．内容：**

法政大学ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは 11 月 12 日（土）・13 日（日）、福島・楢葉町で、若者と町民の交流による復興の気運を高めることを目的に、休耕田に景観植物の種をまくほか、一般家庭での民泊（ホームステイ）など、さまざまな活動を行う「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」を神戸大学、東京都立農業高等学校と共に協力し実施してきました。その報告会を 12 月 18 日（日）に市ヶ谷キャンパスで実施しました。

報告会に参加したのは、法政大学学生 13 名、東京都立農業高校（東京都府中市）11 名、楢葉町町民 13 名を含む 53 名が参加しました。

当日は、環境省筒井室長の開会の挨拶からはじまり、11 月のプロジェクトに参加した学生が 15 グループに別れ、1 グループ 10 分程度、楢葉町で感じたことや、民泊先での出来事について、今後取り組んでいきたいことなど、学生ならではの視点で発表していただきました。また、民泊でお世話になった楢葉町町民の方々とお菓子を食べながら、お互いの近況報告する時間もあり、法政大生と楢葉町との絆が更に深まりました。
今後も法政大学ボランティアセンターは楢葉町を応援していきます。

**２．参加者数**

５３名（内法政大学生１３名）

**３．背景・目的**

・被災地（福島県 双葉郡楢葉町）の復興支援。
・内外関係者と連携したボランティアイベントの運営協力。

環境省 筒井室長の開会の挨拶

楢葉町町民と学生がお互いの近況報告

チーム・オレンジの学生が、楢葉町の現在の様子について報告

集合写真

# 39.見えない世界を知る、伴走ボランティア体験教室（手話講座・番外編）

**日　時：**2017 年　1 月　14 日（土）
**場　所：**代々木公園
**概　要：**
**１．内容：**

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が、バンバンクラブの定期練習会に本学学生と参加するという形で、伴走ボランティア体験教室を実施いたしました。バンバンクラブとは、障がいを持った方と伴走者が一緒になって、ランニングやウォーキングを楽しむ団体です。

今回の企画は、12 月 15 日に実施した伴走ボランティア入門講座（手話講座・番外編）を受け、そのうえで実際に体験してもらうという 2 部構成で行いました。この事前講座で伴走に関する基礎知識や伴走の楽しさ、視覚障がいがどのようなものかを学習でき、より有意義な体験会にすることができました。

この体験会では主に、視覚障がいを持つ方と一緒に走る「伴走体験」と、アイマスクをかけ何も見えない状態で走る「アイマスクラン」を行いました。最初に行った「伴走体験」では具体的な伴走の仕方について、特にブラインドランナーへの言葉のかけ方について学ぶことができました。角を曲がる時や前方を人がふさいでいる時、坂に差し掛かる時などそれぞれの状況に合わせて、工夫しながら言葉を選ばなくてはいけません。たとえばコーナーを曲がる時は、その 10 メートル手前で「10 メートル先、右へ曲がります」と声をかけ、曲がる直前になると「3、2、1・・・曲がります」といったように、数を数えて曲がるタイミングを伝えます。
また坂に差し掛かる時、伴走者にとっては非常に緩やかと感じるような坂でも、目が見えない状態の中ではその微妙な地面の変化にも恐怖心を抱くことがあります。そのため、普段何気なく通り過ぎてしまうような緩やかな坂でも、事前にその存在を知らせ、ブラインドランナーに心の準備をしてもらう必要があります。

このように伴走を行う上では、主観的に周りの状況を判断するのではなく、常にブラインドランナーの立場に立って起こりうる危険を察知することが求められるのです。この点は今後私たちが障がいを持った方と接するとき、大いに参考にすべきことであります。

「アイマスクラン」では二人組の交代制で片方がアイマスクをかけ、もう片方が伴走をするという形式で行いました。実際にアイマスクをかけると、小さな木の根っこやちょっとした段差にも非常に神経を使うようになります。最初は皆緊張して体をこわばらせていましたが、伴走者の声掛けが徐々に的確になっていき、またランナーがブラインド状態に慣れていくにつれて、軽快に走れるようになっていきました。これは、前の「伴走体験」でランナーに対してどう伝えればよいかを考え、「アイマスクラン」で実際に見えない恐怖を身をもって体感したことにより、お互いの気持ちを相互に理解し合えたからだと考えます。

私たちが視覚に障がいを持つ方と接する際に最も重要視すべきなのは、相手の立場に立って自分は何ができるかを考えることです。このように考える上で、今回の伴走体験は非常に有意義な体験になったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）法学部・政治学科2年　成田　大輝

## ２．参加者数

９名

## ３．背景・目的

・視覚障がい者へのボランティアについて体験を交えて学ぶ。

・学生が自主的に企画するボランティア講座の実践。

伴走を始める前の全体ミーティング

視覚障がい者との伴走体験１

視覚障がい者との伴走体験２

アイマスクを着用し視覚障がい者の気持ちを理解

視覚障がい者との伴走体験３

視覚障がい者との伴走体験４

# 40. ボランティア総合講座第12回
# 防災・消防士の仕事を知る消防署見学ツアー

**日　時：**2017 年　2 月　13 日（月）
**場　所：**千代田区麹町消防署
**概　要：**
**１．内容：**

市ヶ谷ボランティアセンターは東京消防庁と連携をし、施設、消防車両、消防機材、消防訓練、消防署員の日頃の業務を見学するツアーを、消防の仕事を知ってもらい、首都直下型地震が発生した際の対応や防災に関する知識を習得してもらうため、麹町消防署で実施いたしました。

当日は、本学ＯＢの東京消防庁人事課須藤様のご挨拶から始まり、施設見学を行いました。最初に、消防署の食堂を見学しました。この署内にある食堂は、消防署員が夕食を作る際に使われており、当番制で夕食のメニューを考案し、他のメンバーの夕食も当番者が作っているとのことです。急な出場に備え、麺類を作る場合はつけ麺を作ることが多いという興味深い話や、各々の得意料理があり、角煮や春巻きなどの手の込んだ料理をつくる人もいる、という少し意外な話も聞く事ができました。
その後は、トレーニングルームを見学した後、宿直勤務の際に使用する寝室などの普段見ることの出来ない消防署の施設見学をしました。

施設見学後は、東京都民と消防のかけ橋として、音楽を通じ防火・防災を呼びかけている音楽隊の練習風景を見学し、本学学生のために祝典行進曲「ライジング・サン」を披露していただきました。音楽隊の迫力のある演奏を聴いた後に、音楽隊のメンバーから、音楽隊を専属でやっているわけではなく消防士の仕事の合間にやっていることや、入庁してから、音楽を始めた隊員もいることなどを聞き、参加学生たちは驚いていました。
次に、消防車の設備と消防訓練を見学しました。消防訓練では総勢 10 名以上の消防隊員が連携し、民家の 2 階で発生した火災を消火するとともに、逃げ遅れた１名を救出するというもので、消防隊員の鬼気迫る雰囲気に参加者学生達は圧倒されていました。

最後に、参加学生と年齢の近い若手消防隊員たちのお話をお聞きしました。「消防士になってよかったか？」という学生の素朴な質問に対して、ある消防士からは「想像した以上に規律が厳しく、入庁した際は何度も辞めたいと思ったこともあるが、自分の仕事が世の中のためになっているという自負を持てる素晴らしい仕事なので、消防士に転職して（企業コンサルタントから消防士に転職）本当によかったと思っている。」などのお話しを直に聞けて、参加学生達は、消防士の仕事の素晴らしさについて理解できたようです。また、「首都直下型地震が発生した際には、消防署だけでは限界があり、皆さんのような防災や消防に興味がある学生が率先して、自身の安全を確保し、周りの人々を出来る範囲で助けて欲しい。」というお話しもしていただきました。

本ツアーの内容を企画する上で、学生の視点を取り入れるため、ボランティアセンター学生スタッフであるチーム・オレンジに協力を仰ぎました。チーム・オレンジの学生は、学生ならではの視点で、食堂や宿泊施設や

音楽隊の見学、若手職員との対談などをこの見学ツアーに盛り込むことを東京消防庁に提案し、本ツアーを実現することができました。

今後もボランティアセンターではこのような防災を啓発するプログラムを企画していきます。

**２．参加者数**

２１名

**３．背景・目的**

・消防署の日常業務を見学し、ボランティア講座を通じ社会に目を向けさせる。
・首都直下型地震などが発生した際の対応や防災に関する知識を習得してもらう。

消防訓練の様子を見学する学生たち

音楽隊が祝典行進曲「ライジング・サン」を披露

消防車の設備について説明を受ける

若手消防士から消防の仕事にやりがいについてお話を聞く

# 41．福島県楢葉町スタディツアー

**日　時：**2017 年　2 月　22 日（水）
**場　所：**福島県双葉郡 楢葉町
**概　要：**

**１．内容：**

福島県楢葉町と市ヶ谷ボランティアセンター共催で、2 月 22 日（水）、「楢葉町スタディーツアー」を実施し、14 名の本学学生を含む 31 名が参加しました。

本企画は、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジと楢葉町が、被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことを目的とし企画しました。またこのツアーに、立教大学、福島大学の学生達も参加しました。

楢葉町では、一般社団法人ならはみらい所属の案内人によるガイドの下、震災の爪痕が残る町内の視察を行いました。その後、同案内人より、震災当時の楢葉町や避難生活中の状況についてお話いただきました。
昼食は、名物のマミーすいとんを食べ、一般社団法人 ＡＦＷ 吉川 彰浩氏を講師に迎え、福島第一原子力発電所の現状と廃炉に向けた取り組みのお話しをしていただきました。
その後楢葉町遠隔技術開発センターの施設見学を行いました。
東京電力福島第１原発の原子炉建屋内を立体的な映像で再現した、空間を体験できる「バーチャルリアリティシステム」は学生達から大変好評でした。
最後に法政大学、立教大学、福島大学の学生で、今後の楢葉町の復興をテーマにワークショップを行い、発表会を行いました。
現地での視察や講話、食事、買物を通して震災の記憶を共有し、結果として風化防止の一助となることができました。

**２．参加者数**

３１名

**３．背景・目的**

・スタディツアーを通し、被災地の現状や復興への取り組みについて学ぶ。
・福島原子力発電所について学ぶ。

楢葉町遠隔技術開発センターでの集合写真

廃炉に向けた取り組みについてお話を聞く

# 42. 岩手・宮城 被災地スタディツアー

**日　時：**2017 年　3 月　1 日（水）～　3 月　4 日（土）
**場　所：**宮古市、陸前高田市、気仙沼市
**概　要：**

**１．内容：**

市ケ谷ボランティアセンター主催で、岩手・宮城被災地スタディーツアーを 3 月 1 日（水）～4 日（土）の期間実施し、30 名の学生が参加しました。
スタディーツアーという形で参加へのハードルを下げ、まだ被災地を訪れたことがない学生が足を運ぶことを目的に実施しました。
本企画はボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが企画し、各種手配や当日の運営を行いました。
また、実施にあたり 2 月 24 日に事前説明会を行いました。

---

1 日目には、「釜石観光ボランティアガイド会」の案内の下、市内の視察を行いました。実際に使用された避難道路を歩き、高台から海を眺めることで、参加学生は当時の被災地の状況に思いを馳せました。
その後、宮古市に移動し、いかせんべい手焼き体験を行いました。体験会を実施している「有限会社すがた」は震災によって津波被害を受けましたが、さまざまな苦難を乗り越え、営業再開することができました。その過程をお話しいただきました。

2 日目は、「大船渡ガイドの会」の案内の下、復興工事の進む大船渡市を視察しました。
午後には、「三陸鉄道」の運行する震災学習列車に乗車しました。車窓から被災地の現状を見ながら、防災意識の大切さについてお話をうかがいました。
その後、宿舎研修室において避難所運営ゲームを行い、避難所運営を疑似体験しました。参加学生は、避難所で実際に起こり得る問題と対応方法を学ぶことができました。

3 日目は、気仙沼市のリアスアーク美術館において、「東日本大震災の記録と津波の災害史」の展示を見学しました。被災現場を撮影した写真 203 点や収集された被災物 155 点から、東日本大震災の被害の大きさを知ることができました。
午後には陸前高田市の仮設住宅、公営住宅において住民の方々との交流会を行いました。世間話に始まり、震災に関する内容まで様々なお話をさせていただきました。

今後もチーム・オレンジでは、震災の風化防止につながるプログラムを実施していきます。

チーム・オレンジ学生スタッフ　法学部政治学科 2 年　清水　円
チーム・オレンジ学生スタッフ　法学部政治学科 2 年　大谷　菜緒

## ２．参加者数

３０　名

## ３．参加学生の感想

・現地に訪ねるということが重要だということがよくわりました。被災地に足を運び、生のお話を聞き、普段テレビ等で震災関連の番組を観ても得られないようなことをたくさん吸収できるので、とても良い企画だなと思いました。今回得たことをこれからの活動に活かしたいです。

・自然と共に生きていくことの難しさを実感しました。
被災者の方々は、津波で甚大な被害を受けたため、再び海辺で生活することに恐怖を覚えているのではないかと思っていましたが、再び海辺に戻ってきて漁業などを再開し、自然と共生している姿を見て、心の強さを感じました。
また、復興にはまだまだ多くの時間が必要だな、ということもわかり、これから自分に何ができるのか少し考えていきたいと思います。

## ４．背景・目的

・被災地に訪れたことがない学生に被災地について関心を持ってもらい、現地で学ぶ。
・企画側の立場になり、スケジュールや運営、調整などを学生が行う。

釜石観光ガイドより被災状況の説明を受ける

ガイドの説明を受けながら海岸を歩く

震災学習列車に乗り車窓から被災地の今を見る

いかせんべい手焼きを体験する留学生

避難所運営ゲームをし防災意識を高める

グループでの発表

仮設住宅での交流会

奇跡の一本松の前での集合写真

# 43. 東北・熊本復興支援募金活動

**日　時：**2017 年　3 月　10 日（金）
**場　所：**JR 市ヶ谷駅周辺、JR 飯田橋駅周辺
**概　要：**

**１．内容：**

東日本大震災発災から約 6 年、熊本地震から約 1 年となる 3 月 10 日に、ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が中心になり、「東北・熊本震災復興支援募金」を実施しました。
この活動は今年で 6 回目となります。昨年に引き続き法政大学の学生だけでなく、付属高校（法政大学女子高等学校）の生徒と共に総勢 30 名で行いました（大学生 25 名、女子高生 5 名）。

天候に恵まれ、春めいた陽ざしの中、飯田橋駅前 2 ヶ所と市ヶ谷駅前 2 ヶ所の計 4 ヶ所で募金活動を実施しました。学生が呼びかけをしている中、足早に過ぎ去っていく人、子供の手をひきながらも募金をしてくれる人、帰宅途中に募金をしてくれる学生など様々な姿がありました。
学生達が夕方まで声を張り、募金を呼びかけた結果、募金金額は合計で 163,448 円となり、これを 4 等分（各 40,862 円）し、3 月 13 日に岩手県・宮城県・福島県・熊本県が設置する復興支援義援金口座に、全額寄付しました。

募金活動の後、募金活動を行った各グループで、「募金活動を通じてきづいたこと、感じたこと」、「募金活動はいつまで続ければいいと思いますか？」、「あなたが被災地のために多額の予算を使える権限があるとしたら、どのようなことに使いたいですか？」という 3 つのお題についてディスカッションを行い、話し合った結果を各班 5 分で発表しました。

**２．参加者数**

３０名（内付属校５名）

**３．ディスカッション内容**

**＜募金活動を通じてきづいたこと、感じたこと＞**

・呼びかけに気づいてくれ見てくれる人は多々いるが、「募金する」までに壁がある。
・6 年も経っているのに、募金をしてくれる優しい人がいる事に感動した。
・募金を行うことで、改めて被災地支援について考えてもらえるきっかけになった。

**＜募金活動はいつまで続ければいいと思いますか？＞**

・募金を今後継続するとしたら、規模を小さくして学内で行う事や、募金 BOX を設置するなど新たな方法を考えるべき。
・被災者の方が自活できるまで募金活動は実施するべき。

・募金という形にこだわらず、復興支援について学生としてやれる事をやっていきたい。

**＜あなたが被災地のために多額の予算を使える権限があるとしたら、どのようなことに使いたいですか？＞**

・被災地では高齢者が増えており、年齢の若い住民を増やすことが課題になっているので、イベントの企画や新しい作物の生産や観光スポットを作るなどをしたい。
・心のケアが出来るコミュニティ施設を作りたい。若者が集う大学などの学びの場を作りたい。自立支援を目的とした職業訓練センターを作りたい。風評被害などの防止ため農作物などの安全性を広報したい。
・熊本地震の被災者の中には、支援が行き届いている現状に、感謝する気持ちと同時に「とまどい」も感じている人がいる事を聞いたことがあったので、外部からの過剰な支援はよくないと思う。

参加した学生たちは、この募金活動を通して大学周辺で生活する人々の率直な意見を聞くことによって、震災の風化について身を持って感じるとともに、被災地支援の今後の在り方について改めて考えるきっかけになったようです。
市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後も被災地への復興支援を学生と共に行なっていきます。

## ４．背景・目的

・震災復興支援に対するボランティアの再認識。
・時間とともに変化していく復興支援について学生に考えさせる。

市ヶ谷駅前で募金を呼びかける学生たち

募金をしてくれた方に感謝を伝えている様子

グループディスカッションをした内容をまとめる学生た

今後の被災地支援の在り方について語る大学生

# 44. 飯田橋グランブルーム まちのわ「桜まつり」

**日　時**：2017 年　3 月　25 日（土）
**場　所**：飯田橋グランブルーム
**概　要**：

**１．内容：**

本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントです。

市ヶ谷ボランティアセンターは、登録団体である児童文化研究会と IVUSA と連携し本イベントを盛り上げ、662 名（法政大学のブースの参加者数）の方々に参加していただきました。

児童文化研究会は「東京・春・音楽祭」、「株式会社 KADOKAWA」と協力し、「東京春祭 for kids」と題し、株式会社 KADOKAWA が出版している「はなかっぱ」の絵本（巨大絵本）の読み語りを児童文化研究会が行いその読み語りに合わせて、東京・春・音楽祭の演奏者が音楽を奏でました。
また、児童文化研究会は単独でも、自作絵本「大きなかぶ」の読み聞かせを行いました。

IVUSA は「桜のオリジナルしおりを作ろう」と題しワークショップを行いました。また、「日本と世界の昔遊び体験コーナー」と「バルーンアート体験コーナー」も担当し、来場した子供たちを喜ばせました。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みついての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することができました。

ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。

**２．参加者数**

６６２名（法政大学ブースの参加者数）

**３．背景・目的**

・地域貢献ボランティア。
・各サークルの特徴を生かした活動発表の場。

はなかっぱの巨大絵本をこどもたちに読む児童文化研究会

児童文化研究会のかたりにあわせて演奏する東京・春・音楽祭

参加者にオリジナルしおりの作り方を教える IVUSA

クロキノール：カナダの昔あそびを子どもたちに教える IVUSA

自作のバルーンアートを子どもたちにプレゼントする IVUSA

大きな株の読み聞かせを担当した児童文化研究会のメンバー

# ２０１６年度　学生スタッフ（ＶＳＰ）活動カレンダー

| 月日 | 曜日 | ミーティング・イベント・訪問 | ミーティング・イベント・訪問内容 |
|---|---|---|---|
| 4月8日 | 木 | 第1回ミーティング | 春のボランティアWEEK、エコキャップDEキャンパスツアー、今後の予定。 |
| 4月11日～15日 | 月～金 | 春のボランティアWEEK | ボランティアサークル合同新歓イベント。活動展示、説明会も実施。 |
| 4月15日 | 金 | 第2回ミーティング | 春ボラの反省、エコキャップDEキャンパスツアー最終確認、ボランティア総合講座について、4月・5月の行事の確認、今後の予定。 |
| 4月22日 | 金 | 第3回ミーティング | エコキャップDEキャンパスツアー実施報告、企画中のボランティア総合講座、富士山外来植物駆除ボランティアツアー企画スタッフ、5月のボランティア活動について、今後の予定。 |
| 4月26日 | 火 | 富士山外来種植物駆除ボランティアツアー　企画スタッフミーティング1回 | 詳細スケジュール確認、バス（座席、レクリエーション）、次回の予定、各自考えてくること、持ち出しリスト、振り返り等確認。 |
| 4月29日 | 金 | 第4回ミーティング | 5月のエコキャップ回収、企画中のボランティア総合講座（ブラインドサッカー、教プロ合同企画、発達障害を学ぶ）富士山外来植物駆除ボランティアツアー企画スタッフ、その他、今後の予定。 |
| 5月2日 | 月 | 富士山外来種植物駆除ボランティアツアー企画スタッフミーティング2回 | スケジュール確認、バスレクリエーション、座席について、ゲームの進行など。 |
| 5月6日 | 金 | 第5回ミーティング | 企画中のボランティア総合講座（ブラインドサッカー、教プロ合同企画、発達障害を学ぶ）、今後のVSPの新たな活動企画（春学期）、富士山外来種植物駆除ボランティアツアー企画スタッフ、今後の予定。 |
| 5月10日 | 火 | 富士山外来種植物駆除ボランティアツアー企画スタッフミーティング3回 | スタッフの分担について、バス座席について、レクリエーションのゲーム、クイズについてなど。 |
| 5月12日 | 木 | ボランティア総合講座第1回 介助犬との「ふれあい」から学ぶ介助犬の一生について | 介助犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生についてなどを学ぶ。（社会福祉法人　日本介助犬協会職員・介助犬） |
| 5月13日 | 金 | 第6回ミーティング | 企画中のボランティア総合講座（ブラインドサッカー、発達障害を学ぶ）、今後のVSPの新たな活動企画（春学期）、富士山外来種植物駆除ボランティアツアー企画スタッフ、5月12日介助犬講座の感想、5月28日三鷹天命住宅申込み締切、ピアネット合同企画、熊本被災地支援について、今後の予定。 |
| 5月15日 | 日 | 富士山外来種植物駆除ボランティアツアー | 富士山麓で外来植物の駆除活動を中心としたボランティア。（協力：NPO富士山クラブ） |
| 5月20日 | 金 | 第7回ミーティング | 企画中のボランティア総合講座（ブラインドサッカー、発達障害を学ぶ）、今後のVSPの新たな活動企画（春学期）、富士山外来種植物駆除ボランティアツアー実施報告、5月28日三鷹天命住宅申込み締切、ピアネット合同企画、熊本被災地支援について、今後の予定。 |
| 5月24日 | 火 | エコキャップ回収ボランティア | 学内のエコキャップの回収。（外濠・富士見坂校舎中心） |
| 5月26日 | 木 | キャンパス周辺清掃ボランティア | 昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。 |
| 5月27日 | 金 | 第8回ミーティング | 6月のエコキャップ回収ボランティア、キャンパス周辺清掃の日程、企画中のボランティア総合講座（ブラインドサッカー、教プロ合同企画、発達障害を学ぶ）ピアネット合同：学習施設ガイドの誌面制作、熊本震災支援ボラ⇒9月の法政フェアにて販売、次回の予定 |
| 5月28日 | 土 | ボランティア総合講座第3回 三鷹天命反転住宅見学・体験ツアー | 「三鷹天命反転住宅」を見学・体験することによって、老若男女や障害の有無などの差異に関係ない「使いやすさ」（ユニバーサルデザイン）などを考えていく。 |
| 6月3日 | 金 | 第9回ミーティング | ボランティア総合講座「三鷹天命反転住宅」実施報告、企画中のボランティア総合講座（ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング、教プロ合同企画、発達障害を学ぶ）、今後のVSPの新たな活動（ピアネット合同学校施設ガイド、熊本震災ボランティア）、今後の予定。 |
| 6月10日 | 金 | 第10回ミーティング | メンバー召集、その他日程決め：富士山清掃(10月)、チームオレンジ物産展、ベルマーク集計作業、ボランティア総合講座：（ブラインドサッカー、教プロ合同企画、発達障害を学ぶ）、今後のVSP活動企画、ピアネット合同企画ガイド誌面作り、熊本震災ボランティア、今後の予定 |
| 6月17日 | 金 | 第11回ミーティング | 富士山清掃（10月）、チームオレンジ物産展（6月6日、7日、8日）ベルマーク集計、まちのわ打ち合わせ、ピアネット関係。企画中ボランティア総合講座：ブラインドサッカー、教プロ合同企画、発達障害を学ぶ、熊本震災ボランティア、今後のVSPの活動（10月以降の企画など）。 |
| 6月21日 | 火 | エコキャップ回収ボランティア | 学内のエコキャップの回収。（外濠・富士見坂校舎中心） |
| 6月23日 | 木 | キャンパス周辺清掃ボランティア | 昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。 |
| 6月24日 | 金 | 第12回ミーティング | 富士山清掃（10月）、チームオレンジ物産展（6月6日、7日、8日）ベルマーク集計、まちのわ打ち合わせ、ピアネット関係。企画中ボランティア総合講座：ブラインドサッカー、教プロ合同企画、発達障害を学ぶ、熊本震災ボランティア、今後のVSPの活動（10月東京でできる環境ボランティア、動物愛護に関するボランティア、企業の利益をボランティアにつなげる企画、澤の屋おもてなし見学ツアー、今後の予定）。 |
| 6月27日 | 月 | ボランティア総合講座第4回 ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング | 見えないということがどういう事か、見えない中でどう伝えるかを考え、仲間と共通のゴールを達成しようとするチームビルディングを学ぶ。 |
| 6月30日 | 木 | ボランティア総合講座第5回 謎解き×疑似体験から考える発達障害 | 特殊な眼鏡を使ったり、集音器を使い、発達障害について疑似体験を通し少しずつ理解を深めていく。 |
| 7月1日 | 金 | 第13回ミーティング | 連絡事項：各活動の実施報告（ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング、謎解き×疑似体験から学ぶ発達障害、10月の富士山清掃）、企画中のボランティア総合講座（まちのわイベント、教プロ合同企画、熊本震災ボランティア、熊本物産展）、その他活動（エコキャップ回収、ピアネット合同）、東京でできる環境ボランティア、動物愛護に関するボランティア、ビーコーポレーション企画、澤の屋おもてなしツアー、今後の予定。 |
| 7月7日・8日 | 木・金 | 東北・熊本物産展～何かできる範囲で被災地支援をしたいと考えている方へ～ | 被災地支援を目的とした東北・熊本物産展。売上額は、253,930円、利益24,085円は熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付。 |
| 7月8日 | 金 | 第14回ミーティング | 連絡事項：今日の議題、各活動の実施報告（ピアネットすすめ学び場ガイド、東北熊本物産展）、企画中のボランティア総合講座（まちのわイベント、教プロ合同企画、熊本震災ボランティア）、その他（エコキャップ回収、ピアネット合同企画、ピアネット合同研修、その他新たな企画3件、今後のVSPの活動予定。 |
| 7月15日 | 金 | 第15回ミーティング | 連絡事項：今日の議題、各活動の実施報告（ピアネット合同研修、まちのわイベント、教プロ合同企画、熊本震災ボランティア、グッズ企画）、その他（エコキャップ回収、ピアネット合同、ピアネット合同研修）、その他の新企画（東京でできる環境ボランティア、動物愛護に関するボランティア、ビーコーポレーション企画、澤野屋企画）今後の予定。 |
| 7月30日 | 土 | ピアネット学生スタッフ合同研修会 | ピアネットの合同研修会。（多摩校舎にて） |
| 9月3日 | 土 | まちのわ防災フェスタ | 飯田橋グランブルーム管理組合主催。飯田橋で生活する、働く、学ぶ人々の交流の場として例年開催されている、「防災」をテーマにしたイベント。理工学部稲生ロボット研究室、キャリアデザイン荒川ゼミ、チーオレ、キャンエコ、VSP、IVUSAが参加。 |
| 9月16日 | 金 | 第16回ミーティング | 連絡事項：今日の議題、今週と来週の活動、夏休み期間の活動報告（ピアネット合同研修、まちのわイベント）、東北熊本物産展（法政フェア）、その他企画中のボランティア（日本橋発！ボートで行く～、動物愛護、B-Corporation、今後の予定。 |
| 9月23日 | 金 | 第17回ミーティング | 東北熊本物産展（法政フェス）活動報告、富士山清掃企画スタッフミーティング開始、企画中ボランティア（ピアネット、動物愛護、B-corporation、クマもんえこぴょん)今後の予定。 |
| 10月7日 | 金 | 第18回ミーティング | 富士山清掃スタッフミーティング、ピアネット冊子作り、ボートで行く清掃ボランティア、猫カフェ、くまモンエコぴょんグッズ、B-corporation、盲人マラソン伴走ボランティアについて。今後の予定。 |
| 10月14日 | 金 | 第19回ミーティング | 富士山清掃、企画中ボランティア総合講座（ピアネット冊子作り）、ボート清掃、猫カフェ。くまもんエコぴょんグッズ常設販売について。ピアネットシンポジウム開催（12月3日（土）。 |
| 10月21日 | 金 | 第20回ミーティング | 富士山スタッフミーティング報告、ボート清掃、猫カフェ、えこぴょんコラボグッズ、B-corp.盲人伴走、澤の屋旅館見学ツアー進捗状況。ピアネットシンポについて。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10月23日 | 日 | 富士山清掃ボランティア | 学生参加36名、職員3名にて富士山清掃ボランティア。（協力：NPO富士山クラブ） |
| 10月25日 | 火 | エコキャップ回収 | 昼休みVSPスタッフによるエコキャップ回収。（外濠・富士見坂校舎中心） |
| 10月26日 | 水 | キャンパス周辺清掃ボランティア | 昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。 |
| 10月28日 | 火 | 第21回ミーティング | 11月のエコキャップ回収とキャンパス周辺清掃、富士山清掃ボランティアMTG、ボランティア総合講座（ピアネット冊子、日本橋発、ボートで行く東京湾清掃、猫カフェ、くまもんえこぴょんグッズ、CSR講座、伴走ボランティア、澤の屋企画）ピアネットシンポジウム。 |
| 11月11日 | 金 | 第22回ミーティング | 日本橋発ボートで行く東京清掃ボランティア実施報告、企画中のボランティア総合講座（ピアネット冊子作り、猫カフェ、くまもんえこぴょんコラボグッズ、CSR講座、伴走ボランティア、澤の屋企画）ピアネットシンポジウム。 |
| 11月18日 | 金 | 第23回ミーティング | 企画中のボランティア総合講座（ピアネット冊子作り、くまもんえこぴょんコラボグッズ、猫カフェ、CSR講座、伴走ボランティア、澤の屋企画）、ピアネットシンポジウム。 |
| 11月21日 | 月 | エコキャップ回収ボランティア | 昼休みVSPスタッフによるエコキャップ回収。（外濠・富士見坂校舎中心） |
| 11月23日 | 水 | キャンパス周辺清掃ボランティア | 昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。 |
| 11月25日 | 金 | ボランティア総合講座第8回 保護ネコカフェで学ぶ動物愛護ツアー | 捨て猫を引き取り、里親を探して譲渡する猫カフェを訪問し、その運営と動物愛護の考え方について学ぶ。 |
| 12月2日 | 金 | 第24回ミーティング | 猫カフェ活動報告、企画中のボランティア総合講座（ピアネット冊子、くまもんえこぴょん冊子、CSR講座、伴走ボランティア、澤の屋）、ピアネットシンポジウム。 |
| 12月3日 | 土 | ピアネットシンポジウム | ピアネットの各学生スタッフの活動報告を行う。 |
| 12月7日 | 水 | ボランティア総合講座第9回 外国人おもてなしの心を学ぶ～澤の屋・谷中見学ツアー | 根津にある純和風の「澤の屋旅館」で、外国人へのおもてなしの心を、館主のレクチャーとシュミレーションの体験で学ぶ。 |
| 12月9日 | 金 | 第25回ミーティング | 外国人おもてなしの心を学ぶ～澤の屋・谷中見学ツアー実施報告、企画中のボランティア総合講座（ピアネット冊子、くまもんえこぴょんコラボグッズ、CSR講座、伴走ランティア入門講座）、来年度活動について。 |
| 12月12日 | 金 | キャンパス周辺清掃ボランティア | 昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。 |
| 12月12日 | 金 | ボランティア総合講座第10回 CSRのこれまでとこれから～B-Corporationという挑戦～ | CSRとその派生形であるB Corporationに注目し、企業の社会貢献活動について学ぶ。 |
| 12月15日 | 木 | 伴走ボランティア入門講座 | 手話講座入門の番外編講座。視覚障がい者を伴い走る伴走に着目、基本的な動作と伴走についての講義。 |
| 12月16日 | 金 | 第26回ミーティング | 1月のキャンパス周辺清掃、エコキャップ回収について、CSR講座実施報告、伴走ボランティア入門講座実施報告、子供たちと学ぶシャボン玉の科学、企画中のボランティア総合講座（ピアネット冊子、くまもんえこぴょんグッズ）来年度の活動。 |
| 1月10日 | 火 | キャンパス周辺清掃ボランティア | 昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。 |
| 1月13日 | 金 | 第27回ミーティング | 春のボランティアWEEKについて、企画中のボランティア総合講座（ピアネット冊子、くまもんえこぴょんコラボグッズ、伴走体験講座）、今年度の活動報告。 |
| 1月14日 | 金 | 伴走体験教室 | 伴走入門講座の発展講座。代々木公園で実際に視覚障がい者ランナーと伴走する。 |

□部分は、実際のイベントや講座等の日程

付記 ●2016年度は原則、金曜日の昼休みにミーティングを実施。
●ミーティングは原則、職員が同席した。
●このほか、毎月エコキャップ回収活動も実施。

## ２016年度　チームオレンジ活動カレンダー

| 月日 | 曜日 | ミーティング・イベント・訪問 | ミーティング・イベント・訪問内容 |
|---|---|---|---|
| 4月11日～15日 | 月～金 | 春のボランティアWEEK | ボランティアサークル合同新歓イベント。活動展示、説明会も実施。 |
| 4月15日 | 金 | 第1回（前期）放課後ミーティング | 各プロジェクト紹介、チーオレ紹介、入会の仕方、新入生・上級生の自己紹介、情報共有（防災班、物産展班、教プロ）新歓イベント。 |
| 4月19日 | 火 | 第1回（前期）ランチミーティング | チーオレに入った新入生へ：情報受け取り方法など、次回の会議予定。 |
| 4月26日 | 火 | 第2回（前期）ランチミーティング | 情報共有（防災班：避難所体験、千代田防災PJ、物産展班、学食企画、遠野班）、新歓イベントについてなど。 |
| 5月10日 | 火 | 第3回（前期）ランチミーティング | 情報共有（学食班、子供支援、遠野：ボランティア日程決定、防災：千代田防災PJ)など。 |
| 5月17日 | 火 | 第2回（前期）放課後ミーティング | 情報共有（子供支援、遠野：ボランティア総合講座6/8、防災：避難所体験、千代田防災PJ中止）勉強会、プロジェクト相談会、次回の予定。 |
| 5月24日 | 火 | 第4回（前期）ランチミーティング | 物産展（くまもん×えこぴょんコラボグッズ）ICカードケース、デザイン案投票。 |
| 5月31日 | 火 | 第5回（前期）ランチミーティング | 7月3日（日）避難所体験参加登録について。 |
| 6月7日 | 火 | 第6回（前期）ランチミーティング | 情報共有（スタツア、子供支援）、次回会議予定。 |
| 6月8日 | 水 | ボランティア総合講座第2回 学生の被災地支援から知る被災地の「今」 | 学生の被災地支援から知る被災地の「今」 講師：NPO遠野 山・里・暮しネットワーク 田村　隆雅氏。 |
| 6月14日 | 火 | 第7回（前期）ランチミーティング | 情報共有（スタツア）、お知らせ（7月30日ピアネット研修会）、次回会議予定。 |
| 6月15日 | 水 | 第3回（前期）放課後ミーティング | 情報共有（防災 避難所体験、遠野被災地支援ボランティア、学祭）、勉強会、TNP（チーオレ仲良しプロジェクト）、Facebookについて。 |
| 6月21日 | 火 | 第8回（前期）ランチミーティング | 情報共有(スタツア：環境省からの「樽葉町活性化事業」について、防災：避難所体験の一般参加者募集、物産展：シフト協力募集）、その他（ピアネットアンケート、次回会議予定） |
| 6月28日 | 火 | 第9回（前期）ランチミーティング | 情報共有（スタツア：環境省事業参加、従来のスタツアの実施、防災：避難所体験、学祭：7/8説明会、物産展：7/7お手伝い募集、遠野：参加申込み受付中、お知らせ：7/5春学期最後の昼会議。） |
| 7月3日 | 日 | ボランティア総合講座第6回　備えあれば憂いなし、今のうちに防災知識を養おう！～避難所体験 | チームオレンジ企画：搬送法や非常食試食の体験、避難所運営の実状把握、避難所運営シュミレーションゲームなどを行った。 |
| 7月5日 | 火 | 第10回（前期）ランチミーティング | 情報共有（物産展：7/6プレ販売、7/7、8一口坂校舎で販売、防災：7/3避難所体験実施） |
| 7月7日・8日 | 木・金 | 東北・熊本物産展～何かできる範囲で被災地支援をしたいと考えている方へ～ | 被災地支援を目的とした東北・熊本物産展。売上額は、253,930円、利益24,085円は熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付。 |
| 7月12日 | 火 | 第4回放課後ミーティング | 情報共有（避難所体験、東北熊本物産展、学食企画、学祭、楢葉町地域活性化プロジェクト、スタツア）、春学期振り返り、夏休みの活動、次期体制について、お知らせ。 |
| 7月30日 | 土 | ピアネット学生スタッフ合同研修会 | ピアネットの合同研修会。（多摩校舎にて） |
| 8月22日～9月1日 | ― | ～遠野市を拠点とした～東北被災地ボランティアツアー | チームオレンジの基幹ボランティア、被災地支援ボランティアツアー。4隊に分かれ車中2泊全5日行程で行った。 |
| 9月3日 | 土 | まちのわ防災フェスタ | 飯田橋グランブルーム管理組合主催。飯田橋で生活する、働く、学ぶ人々の交流の場として例年開催されている、「防災」をテーマにしたイベント。理工学部稲生ロボット研究室、キャリアデザイン荒川ゼミ、チーオレ、キャンエコ、VSP、IVUSAが参加。 |
| 9月15日 | 木 | 夏期全体会議 | 情報共有（東北被災地ボランティア、まちのわ防災Festa、環境省楢葉町地域活性化事業、スタツア、学祭、物産展、学食）、今後の予定。 |
| 9月20日 | 火 | 第11回ランチミーティング | 情報共有（物産展：法政フェア、保護者講演会、楢葉町地域活性プロジェクト講義）、次回の予定。 |
| 9月27日 | 火 | 第12回ランチミーティング | 情報共有（物産展：父母会にて出品、POP作り、学食：メニューについて）。 |
| 10月11日 | 火 | 第5回放課後ミーティング | 情報共有（スタツア、防災、学食、学際、楢葉町地域活性プロジェクト、ピアネット。※　3．11募金について　など。 |
| 10月15日・16日 | 土・日 | 福島フェス | ブースを出展した楢葉町（ならはみらい）に神戸大学、東京都立農業高等学校と共に協力し、復興イベントに参加。（六本木） |
| 10月18日 | 火 | 第14回ランチミーティング | 情報共有（スタツア、楢葉、学食、学祭シフト完成）　12月3日（土）ピアネット交流会参加者募集。 |
| 10月25日 | 火 | 第15回ランチミーティング | 情報共有（学祭、学食、スタツア、楢葉プロジェクト：環境省、電通からの当日の説明）。 |
| 10月26日 | 水 | 第6回放課後ミーティング | 情報共有（楢葉町プロジェクト、学祭、学食企画）、次回の予定。 |
| 11月1日 | 火 | 第16回ランチミーティング | 情報共有（福島スタツア、ピアネットシンポジウム、3.11募金について（3/10実施）、学祭について）。 |
| 11月8日 | 火 | 第17回ランチミーティング | 情報共有（福島スタツア、学食（多摩キャンパス）、学祭報告、11月の予定、楢葉町地域活性化プロジェクトについて）。 |
| 11月12日、13日 | 土・日 | ～環境省・電通～若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業ボランティア | 復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される学生のボランティア事業。 |
| 11月15日 | 火 | 第18回ランチミーティング | 情報共有（楢葉町プロジェクト、学食企画、福島スタツア、子供支援（1/4～1/6）、ピアネットシンポジウム、12月の放課後会議）。 |
| 11月22日 | 火 | 第19回ランチミーティング | 情報共有（楢葉町プロジェクト、学食企画、福島スタツア、防災、子供支援（1/4～1/6）、ピアネットシンポジウム、12月の放課後会議）。 |
| 11月25日 | 金 | 第7回放課後ミーティング | 情報共有（子供支援、スタツア、学食、防災班（大学の備蓄、防災設備について）、2016年度の振り返り）。 |
| 11月28日～12月9日 | 水～月 | 学食で東北・熊本名物を味わってみませんか？　～被災地復興支援メニュー～ | 東北・九州の素材を使用した学食メニューの企画、実施。売上365,500円、利益73,100円を熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に4等分して寄付。 |
| 12月3日 | 土 | ピアネットシンポジウム | ピアネットでの学生スタッフ活動を学外に発信していくためのシンポジウム。 |
| 12月11日 | 日 | 福島スタディツアー | 福島県双葉郡楢葉町周辺の復興について現地での視察や講話、食事、買物を通して震災の記憶を共有する。 |
| 12月13日 | 水 | ボランティア総合講座第11回、復興庁共催被災地の産業復興とNPOの活動についての今を知る | 復興庁（復興・創生インターン）事業での現地のNPO法人に現状と課題を聞く。 |
| 12月13日 | 火 | 第20回ランチミーティング | 情報共有（福島スタツア、岩手・宮城スタツア、防災（消防署見学ツアー）、学食、1月の放課後会議）。 |
| 12月18日 | 日 | 環境省×楢葉町×法政「景観植物を活用した休耕田の活用プロジェクト体験教室　中間報告会 | 復興庁の「心の復興」事業交付金での事業の中間発表。楢葉町町民も参加。 |
| 12月20日 | 火 | 第21回ランチミーティング | 情報共有（スタツア、学食結果報告、楢葉町事業中間報告会、防災（消防署見学ツアー）、新入生勧誘、次回ミーティング予定、新入生交流プログラム）。 |
| 1月10日 | 火 | 第8回放課後ミーティング | 情報共有（子供支援（1/5実施）、新歓について、春休み（2/13消防署ツアー、2/22楢葉スタツア、3/1～4岩手・宮城スタツア、3/10東北・熊本復興支援募金）、次回の予定。 |
| 2月13日 | 月 | ボランティア総合講座第12回　防災・消防士の仕事を知る消防署見学ツアー | 大学近隣の麹町消防署を見学し、防災知識を深める。 |
| 2月22日 | 水 | 福島県楢葉町スタディツアー | 楢葉町（ならはみらい）共催。楢葉町の現状や復興への取り組み、福島第一原子力発電所について考えるツアー。 |
| 3月1日～4日 | 水～土 | 岩手・宮城スタディツアー | 釜石市・大船渡市・陸前高田市周辺の復興について現地で学ぶツアー。 |
| 3月10日 | 金 | 東北・熊本復興支援募金 | 大学近隣の飯田橋・市ヶ谷駅周辺での被災地支援募金活動。法政女子高校と一緒に活動。募金金額合計163,448円。岩手・宮城・福島・熊本の復興義援金に4等分し寄付。 |

□部分は、実際のイベントや講座等の日程

【付記】●毎週火曜日の昼休みに実施。不定期に放課後ミーティングを行った。
●ミーティングは原則、職員が同席。

# 第３章　多摩ボランティアセンターの活動の概要

## 「学生ならではの活動展開と信頼の構築
## －多摩ボランティアセンター2016 年度活動の総括－」

多摩ボランティアセンター長　宮城　孝

2016 年度は、馬場敏幸センター長から私に交替した最初の年度になります。2016 年度は、前年度までに整備・充実が図られたセンターの運営基盤をベースに、「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」、「地域との絆の強化」を大きな柱として活動に取り組みました。

一つ目の「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」は、多摩ボランティアセンターの伝統的な方針として、ボランティアの基本的なあり方に基づき、学生の自由な発想と活動を尊重し、育んでいくというスタンスです。ボランティアセンターとしては、実現可能性や安全性などに気を配って助言し、責任を持って社会的に意義のある活動が展開できるように支えています。

その点で 2016 年度は、様々なフィールドで学生スタッフが、自ら考え企画し実施した活動において、意義のある成果を大いに得ることができたかと思います。

特に東日本大震災の被災地や昨年 4 月に発生した熊本地震への支援ボランティアに関しては、多摩キャンパスにおいて初めて募金活動を実施しました。学生スタッフ、体育会ラグビー部、被災地支援サークル Team Tama がコラボして、5 月 18 日から 20 日の 3 日間、述べ約 100 人が参加しました（募金額 59,153 円　日本赤十字社熊本地震災害義援金口座に寄付）。多くの学生が自ら募金活動をすることで、同じ学生への震災支援への啓発を行うことができたかと思います。

東日本大震災の被災地支援では、「チーム気仙沼でつながら騎士（ナイト）」が、8 月 13 日から 15 日に、昨年同様宮城県気仙沼市大谷海岸花火大会運営のボランティアと被災地スタディツアーに 15 名が参加しました。現地の被災地の住民リーダーと学生スタッフのリーダーが十分に連絡・調整した上で活動に臨んでおり、このイベントは、法政大学多摩ボランティアセンターの協力なしには実現が難しいほど信頼を得ていると言えます。

熊本地震の被災地支援では、学生スタッフ有志が「チームたまもん」を結成し、刻々と現地の状況が変化し、ボランティアのニーズが判然としない中、現地との調整を慎重に行い、8 月 13 日から 15 日に第一次隊 3 名が、NPO 法人「子育て応援おおきな木」の指導のもと遊びや学習の機会が少ない子どもへの支援を行い、8 月 27 日から 28 日には、第二次隊 6 名が参加し、熊本ＹＭＣＡの指導のもと、益城町総合体育館の避難所内の住居スペース内の移動、撤去、段ボールベッドの解体や館内の清掃活動を行いました。学生の献身的な活動に大きな信頼を得ることができました。その結果、第三次隊 4 名が、2017 年 2 月 19

日から 21 日まで、益城町木山の仮設住宅団地の地域支え合いセンターにて、熊本 YMCA の指導のもと、子ども・高齢者の支援を行うことができました。

東日本大震災、熊本地震の被災地支援の活動は、2017 年度も学生が主体となり、被災地に何が求められているのか考え、被災地に寄り添った活動を展開していきます。

第二の多摩ボランティアセンターの特徴である「地域との絆の強化」においても、学生が主体となって、住民団体と交流しながら企画し活動展開をしています。

先ず、10 月 22 日から 12 月 2 日に開催された町田市相原町出身の詩人『さいわいの詩人－八木重吉展』において、町田市民文学館ことばらんどに協力し、スタッフが相原を紹介するＤＶＤを作成・放映し、多くの方に見ていただくことができました。また、11 月 3 日に開催されたメモリアルコンサートでは、スタッフが司会・進行するなど大きな役割を担いました。

また、地元の相原町の小中一貫校町田市立ゆくのき学園の裏山と多摩キャンパスを結ぶ「学びの道」の整備作業を一昨年からスタッフ有志が、ＮＰＯ法人大戸源流の森の会の指導のもと計 8 回行ってきましたが、12 月 26 日、ついに最終作業を行い無事完成しました。同学園には、本学学生が授業や放課後支援活動のボランティアをしており、大きく距離が短縮され、活用が期待されます。

さらに、地元相原町のにぎわい創生を目的に開催された町田市とさがまちコンソーシアム主催の「相原エリア魅力づくりコンテスト」に、スタッフ有志が「チームあいはら魅ラククル」として、相原地区をフィールドワークした成果を活かし企画案としてプレゼンテーションし、優秀賞「相原にぎわい創生賞プロジェクト賞」を受賞しました。この企画は、6 月 10 日にエッグドームにおいて、「相原思いの竹カフェ」として開催することになっており、スタッフ有志が鋭意準備中です。

このように学生スタッフが自ら企画・運営した活動について、下記のとおりマスコミ各社や地元の関係機関が数多く広報してくれており、学生にも大いに励みになっています。

| 新聞掲載一覧表 | | | |
|---|---|---|---|
| 掲載日 | 実施日 | 企画名 | 備考 |
| 4/29 | 5/1 | イオンモール多摩平の森大学生チャリティーイベント＆募金活動 | 読売新聞 |
| 10/29 | 10/22-12/25 | 町田市民文学館八木重吉展 | 朝日新聞 |
| 12/21 | 10/22-12/25 | 町田市民文学館八木重吉展 | 東京新聞 |
| 12/27 | 12/26 | 「学びの道」整備ボランティア | 読売新聞 |
| 2/12 | 2/8-2/12 | 大学生ボランティア写真展＆イベント 2017 | 読売新聞 |

| その他掲載一覧表 | | | |
|---|---|---|---|
| 掲載日 | 実施日 | 企画名 | 備考 |
| 10/11 | 11/3 | 八木重吉メモリアルコンサート | 広報まちだ |
| | 10/2 | 相原エリア魅力づくりコンテスト | 法政大学新聞学会 |
| 12/20 | 10/2 | 相原エリア魅力づくりコンテスト | 相原まちづくり協議会まちづくり情報誌「あいとぴあ」 |
| 2/28 | 2/8-2/12 | 大学生ボランティア写真展＆イベント 2017 | 日野市ボランティアセンター「ボランティアｉインフォメーション」2017 年 3 月号 |

地域密着型の活動は、この他にも地域や社会福祉施設のイベントなどへの参加・協力などありますが、今後ともさらに地域と連携し、様々な方達と交流することによって、学生の豊かな社会体験の形成につなげていきたいと考えています。

2016 年度の多摩ボランティアセンターの実績として、来室者が、520 名（昨年度 517 名）、相談件数 432 件（昨年度 388 件）、紹介者数 406 人(昨年度 181 人)と、特に相談件数、紹介者数が大きく増加しています。また、学生スタッフも 25 名（代表　長谷川敬香　社会学部 2 年、副代表　武藤花緒理　社会学部 2 年）と昨年の８名から非常に増加しました。今年度のスタッフの主体的な活動の成果を今後とも継承し、学生ならでは存在感を発揮し、信頼を構築しつつ社会的に意義のある活動への支援を図っていきたいと考えています。

# ①　町田市立ゆくのき学園見学会

**日時：**2016 年 4 月 10 日（日）　10：30〜12：00
**場所：**町田市立ゆくのき学園

**概要：**

**1．内容**

学生スタッフが主導し、新入生・新学生スタッフと町田市立ゆくのき学園の見学会を開催した。ゆくのき学園のボランティアコーディネーターより、日頃本学学生がどのような活動を行っているのか説明を受け、校内見学を行った。

**2．参加者数**

5 名

**3．背景・目的**

・協定校であるゆくのき学園での活動を知る。
・新入生、新学生スタッフに地域のことを知ってもらう。

**4．参加者の感想**

「当日は集合後、現在活動が進む通称「学びの道」をつかっていきました。新しく入った新入生はあの道に驚いたようで皆歩幅も小さく慎重に歩を進めていました。 ゆくのき学園の方に校舎や学生との関わりを説明、案内していただき熱心に話を聞く一年生の姿が印象に残っています。途中学園の中で飼われているヤギの「ユキちゃん」と触れ合う場面もあり新入生は少しだけでも地域を知ることができたのかなと思います。 今回は簡単な導入となりましたが、これからの新たなメンバーでの活動に期待の高まる 1 日となりました。」（現代福祉学部 2 年　富田渓太）

町田市立小中一貫ゆくのき学園

豊かな緑に囲まれた校舎です

## ②　町田市生涯学習センター利用者交流会

**日時：**2016 年 4 月 29 日（金・祝）　13：00～16：40
**場所：**町田市生涯学習センター7F　ホール

**概要：**

**１．内容**

町田市生涯学習センターで開催された利用者交流会のオープニングアクトとして、本学学生サークル「Jazz Study Club」が演奏を披露した。

**２．参加者数**

7 名

**３．背景・目的**

・地域と大学間の結びつきを強化する。
・学生サークル活動の活性化。

**４．参加者の感想**

「会場の雰囲気もあたたかく、とても良い演奏が出来たと思います。機会があれば、是非また演奏をさせていただきたいです。」（社会学部 2 年　土肥慶斗）

演奏を披露した Jazz Study Club

オープニングを飾りました

## ③　大学生パフォーマーによる熊本地震・チャリティーイベント

**日時：**2016年5月1日（日）　11：00〜15：00
**場所：**イオンモール多摩平の森

**概要：**

**1．内容**

中央大学・明星大学が日野市社会福祉協議会と協働で開催した、熊本地震で被害に遭われた方々への募金活動を目的としたチャリティーイベントに参加した。熊本地震への募金を呼びかけ、集まった募金はイオンモールを通して熊本県へ寄付された。

**2．参加者数**

7名

**3．背景・目的**

・熊本地震に対する支援活動。
・他大学と連携したボランティア活動を行う。

**4．参加者の感想**

「大学生のパフォーマンスによるチャリティーということで、イオンに来ている方々も大学生を身近に感じられた部分があるのではないかと感じました。そしてパフォーマンスを通して熊本の地震のことを考えるきっかけにもなったと思います。運営をさせていただいて声をかけてくださる方もいらっしゃって、地域の方とも私たち自身交流が出来て嬉しかったです。そして近隣の大学生と交流できてお互いの活動の内容が聞けて勉強になりました。熊本の地震への募金活動であったので、東日本大震災の支援をしている方もやはりいらっしゃってお話が出来て良かったです。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。」（現代福祉学部2年　長峰由美）

募金活動に参加した学生たち

イベント終了後の撤収作業

## ④　ひの新選組まつり街頭募金活動

**日時：**2016 年 5 月 8 日（日）　11：00〜14：00
**場所：**JR 日野駅前甲州街道周辺

**概要：**

**１．内容**

日野市観光協会が開催する「ひの新選組まつり」にて、熊本地震で被害に遭われた方々への街頭募金活動を行った。日野宿本陣前にて、中央大学・明星大学・首都大学東京・実践女子大学の学生たちとともに募金を呼びかけた。

**２．参加者数**

11 名

**３．背景・目的**

・熊本地震に対する支援活動。
・他大学、地域と連携したボランティア活動を行う。

**４．参加者の感想**

「今回はひの新選組まつりでの募金活動ということで声を張っての活動の呼び掛けができました。また、お祭りのパレードに出られる方々も一緒に呼び掛けを手伝って下さり大変嬉しかったです。今の熊本の現状をニュースやインターネット、実際に行かれた方々のお話を聞いて、自分たちが出来ることというのは少ないかもしれませんが、少しでも熊本の応援に繋げたいと思います。 今回も他大学の方々との交流が刺激にもなりました。参加させて頂きありがとうございました。」（現代福祉学部２年　長峰由美）

「ひの新選組まつり」ならではの光景

参加大学の集合写真

## ⑤　「学びの道」整備ボランティア

**日時：**通年
**場所：**多摩キャンパス　スポーツ健康学部棟奥

**概要：**

**１．内容**

多摩キャンパスと、ボランティア協定校である町田市立小中一貫ゆくのき学園を結ぶ新しい道、「学びの道」の整備を行った。昨年から続く「学びの道」プロジェクトの一環で、今年度は計５回行い、道が開通した。

**２．参加者数**

| 日程 | 参加者数 | 日程 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 5 月 8 日（日） | 8 名 | 9 月 9 日（金） | 3 名 |
| 5 月 13 日（金） | 7 名 | 12 月 26 日（月） | 4 名 |
| 8 月 4 日（木） | 4 名 | | |

**３．背景・目的**

・継続したプロジェクトの実践。
・ゆくのき学園、相原地域とのつながりを深める。

**４．参加者の感想**

「ナタや鎌での作業は、今まで経験したことがありませんでした。しかし、地域の方が教えてくださり、徐々にコツが掴めると面白かったです。自分たちの作った階段があるところと、ないところでは坂道を進む大変さが大きく違ったので、驚きました。活動の成果が目に見えたときは、参加してよかったなと思いました。」（社会学部１年　伊藤風香）

「地域の方、小中学生と多くの方との交流がひとつの『道』という形で表せたことは胸を張って語り継いでいきたいと思う。」（現代福祉学部２年　富田渓太）

第３回（5/8）の活動風景

第７回（12/26）で開通しました

## ⑥　熊本地震被災地支援募金活動

**日時：**2016 年 5 月 18 日（水）～ 5 月 20 日（金）　8：45～9：15 / 12：45～13：15
**場所：**多摩キャンパス

**概要：**

**1．内容**

学生スタッフ、法政大学体育会ラグビー部、東日本大震災復興支援団体「Team Tama Action Project」（ちむたま）が合同でキャンパス内にて 3 日間の熊本支援募金活動を行った。寄せられた義援金 59,153 円を日本赤十字社に寄付した。

**2．参加者数**

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 5 月 18 日（水）～ 5 月 20 日（金） | 69 名 |

**3．背景・目的**

・熊本地震被災地への支援を行う。
・多摩ボランティアセンター、体育会、福祉系サークル合同でのボランティア企画を実施。

**4．参加者の感想**

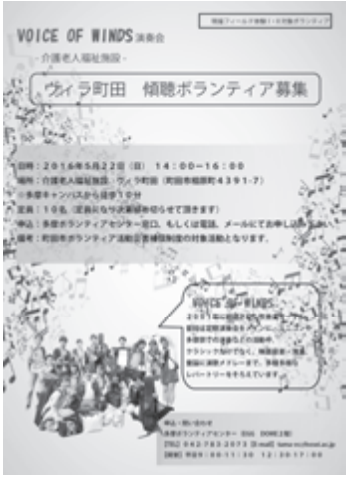
「私は今回初めて募金活動に参加させてもらいましたが、学生スタッフや Team Tama さん、ラグビー部の皆さんのご協力で多くの募金を集めることができました。ぜひこの募金活動が少しでも被災地の復興支援につながればと思います。本当に 3 日間の募金活動にご協力ありがとうございました。」（社会学部 1 年　瀬留実穂）

法政大学体育会ラグビー部による募金活動

学生スタッフ、Team Tama Action Project も募金を呼びかけ

# ⑦　ヴィラ町田傾聴ボランティア＆Voice of Winds 演奏会

**日時：**2016 年 5 月 22 日（日）　14：00〜16：00
**場所：**介護老人福祉施設ヴィラ町田




**概要：**

**１．内容**

介護老人福祉施設「ヴィラ町田」で吹奏楽サークル「Voice of Winds」のメンバー 21 名による演奏会と、学生ボランティア 3 名による傾聴ボランティアを行った。

**２．参加者数**

24 名

**３．背景・目的**

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

**４．参加者の感想**

「昨年に引き続き二度目の演奏会でしたが、世代の違う方々に向けて演奏する機会はあまりないため、選曲を工夫するなどして楽しんでいただけるものにしようと準備しました。本番は想像以上に楽しんで聴いていただけて、目の前で笑顔や手拍子をしてくださる様子をみることができて良かったです。特に『幸せなら手をたたこう』は、みなさん一緒になって手をたたいてくださり、本当に嬉しかったです。二度もアンコールをいただき、サークル員も楽しんで演奏することができました。今後もこのような機会があれば演奏したいと思います。」（社会学部 2 年　横田朱海）

「私は今回、指揮者として参加させていただきました。昨年は参加していなかった為、どんな所で、どれくらいの人が聴いてくださるのか全く想像がついていませんでした。しかし想像よりずっと多くの方が聴きに来てくださり、さらにダブルアンコールまでリクエストしていただけてとても嬉しかったです。みなさんからのお言葉や明るい声援が、本当に嬉しかったです。私自身とても楽しく演奏できました。このような貴重な機会をくださりありがとうございました。」（社会学部 2 年　佐々木千英）

Voice of Winds による演奏

利用者の方々から大好評でした

# ⑧　めじろ台ふれあいサロン傾聴活動

**日時：**2016 年 6 月 14 日（火）　13：00〜15：00 ／ 12 月 13 日（火）　13：00〜15：00
**場所：**めじろ台ふれあいサロン

**概要：**

**1．内容**

多摩キャンパス周辺地域の方々とより良い関係を築き、相互理解を深めるため、多くの本学学生が利用するめじろ台駅近くの「めじろ台ふれあいサロン」を訪問し、傾聴活動を行った。

**2．参加者数**

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 6 月 14 日（火） | 2 名 |
| 12 月 13 日（火） | 2 名 |

**3．背景・目的**

・地域に密着したボランティア活動を行う。
・地元の人々の話を聞き、大学と地域間の相互理解を深める。

**4．参加者の感想**

「サロンに参加することで、地域の方と親交を深めることができました。色々なお話をさせていただいて、とても楽しかったです。ありがとうございました。」（現代福祉学部 1 年　鈴木琴音）

「今回は、めじろ台の皆様と貴重なお時間を体験しました。最後まで話が盛り上がり、とても楽しいひと時でした。本当に感謝しております。」（現代福祉学部 1 年　恩田祐希）

6 月 14 日の活動風景

12 月 13 日の活動風景

# ⑨　町田市立ゆくのき学園大戸小学校児童来訪

**日時：**2016年6月22日（水）　11：00〜11：30
**場所：**多摩キャンパス　EGGDOME2階（多摩ボランティアセンター、Slow World Café）

**概要：**

**1．内容**

ゆくのき学園大戸小学校の児童ら8名が、「まちをたんけん　大はっけん」という授業の一環で法政大学を来訪。ボランティアセンターにて学生スタッフが概要説明を行い、その後Slow World Caféを見学した。

**2．参加者数**

1名

**3．背景・目的**

・児童らの学習の手助けをする。
・児童らに、ゆくのき学園と法政大学のつながりを知ってもらう。

**4．参加者の感想**

「今回のプレゼンで、自分も知らない法政大学の一面を新たに知り、小学生と共に学ぶことができたのでとても楽しかった。」（経済学部1年　深田新）

学生スタッフが児童らの質問に答えます

Slow World Caféを見学。店長さんからお話を伺いました

## ⑩　多摩ボランティアセンター長との意見交換会

**日時：**2016年6月27日（月）　12：50〜13：20
**場所：**多摩キャンパス　総合棟4階　第3会議室C

**概要：**

**1．内容**

宮城多摩ボランティアセンター長より「災害とボランティアについて」をテーマに、災害支援現場から見たボランティア活動の基本、課題などの詳細な話を伺った。その後、夏の被災地ボランティアについて学生スタッフとの意見交換会を行った。

**2．参加者数**

14名

**3．背景・目的**

・気仙沼、熊本での被災地ボランティア企画に備え、被災地支援についての知識を深める。
・被災地での支援に対する学生スタッフの意識を強固なものにする。

**4．参加者の感想**

「教授自身の阪神淡路大震災の経験のお話を受けて、これからの私たちがどのように被災地と向き合っていくべきかを再び考えていきたいと感じた。」（現代福祉学部2年　富田渓太）

宮城多摩ボランティアセンター長よりお話を伺う

学生からは様々な意見が飛び出しました

# ⑪　八木重吉記念館清掃ボランティア

**日時：**2016年6月28日（火）13：00〜13：30/ 10月13日（木）12：50〜13：20/ 10月20日（木）12：50〜13：20
**場所：**八木重吉記念館

**概要：**

**１．内容**

相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。参加学生はゴミ拾い、除草作業を行い、終了後は八木重吉さんご一家の墓前にて合掌した。

**２．参加者数**

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 6月28日（火） | 3名 |
| 10月13日（木） | 5名 |
| 10月20日（木） | 7名 |

**３．背景・目的**

・大学周辺にゆかりのある文化人の足跡を訪ね、継続的なボランティア活動につなげる。
・相原地域の文化的、歴史的に重要な史跡の環境整備。

**４．参加者の感想**

「短い時間でしたが参加できてよかったです。最初に比べてきれいになったので嬉しかったです。ありがとうございました。」（現代福祉学部１年　鈴木琴音）

「初めて八木重吉さんのお墓に行きましたが、お墓掃除をすることで、大学のすぐそばですし、身近な存在になった気がしました。」（社会学部１年　田野崎友里）

「以前から興味があった八木重吉に、初めて触れることができた。今後も、八木重吉のボランティア活動に積極的に参加したい。」（経済学部１年　深田新）

「私達の身近な、相原の町に八木重吉さんという偉大な方がいらっしゃったのはとても素晴らしい事だと思いました。これからも、八木重吉さんがもっと有名になって、相原の発展にも繋がって欲しいと思いました。」（現代福祉学部１年　北村梨沙子）

「今回、ボランティアを通して八木重吉さんと施設の存在を初めて知ることが出来、ボランティアに参加しようと思わなければ知ることが出来なかったと思うので新しい知識をつける事も出来て良かったです。今回訪れた八木重吉さんのお墓以外にも各地にこの様に知られていないけれど素晴らしい功績を残した人物を知ることができる施設があると思うので、そういう施設の保護や発展にまた関わりたいと思える、良い経験になりました。」（現代福祉学部１年　田中恵美梨）

参加学生による清掃活動（6/28）

八木重吉さんご一家の墓前にて合掌（6/28）

多くの学生が参加しました（10/13）

地域の文化に触れる機会となりました（10/20）

# ⑫　八王子まつり山車曳きボランティア

**日時：**2016年8月6日（土）～ 8月7日（日）　12：30～15：30
**場所：**八王子駅甲州街道周辺

**概要：**

**1．内容**

大学コンソーシアム八王子の学生ボランティア企画で、高齢化が進み曳き子が不足している八王子まつりの山車曳き体験ボランティアに参加。参加した八幡上町町会の曳役衆の進行にしたがって、山車の引き綱を曳いて歩いた。

**2．参加者数**

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 8月6日（土） | 5名 |
| 8月7日（日） | 2名 |

**3．背景・目的**

・江戸時代に始まった祭りの理解、地域の伝統文化に触れる。
・市民、行政、他大学との交流をはかる。

**4．参加者の感想**

「山車の上に乗ったのはこわかったけど普段だったら出来ないような経験ができたので良かったです。」（現代福祉学部1年　梶原悠多）

「私は、今回初めて八王子まつりに参加しました。地域の方のあたたかさにふれて、とても感動しました。私たちを受け入れて下さりありがとうございました。」（社会学部1年　松田成美）

8月6日の活動風景

8月7日の活動風景

## ⑬　ヴィラ町田夏祭りボランティア

**日時：**2016年8月7日（日）　10：00〜15：00
**場所：**介護老人福祉施設ヴィラ町田

**概要：**

**１．内容**

昨年に引き続き、介護老人福祉施設にて開催される夏祭りの運営を支援した。会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。

**２．参加者数**

5名

**３．背景・目的**

・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
・ボランティア先として日頃お世話になっているヴィラ町田の活動を支援する。

**４．参加者の感想**

「今回、私はヴィラ町田にて夏祭りのボランティアに参加した。いままで、私はお祭りにお客さんの側として楽しみ来ていたけど、今回は運営の側としてみんなに楽しんでもらう立場になってお祭りに参加する・・・とても新鮮な気持ちだった。私がお手伝いしたのは焼きそばや焼き鳥、フランクフルトなどを焼く、焼き場のお手伝いだった。最初こそは、あまり見知っていない方々との意思疎通がうまくいかず、ギクシャクしてしまったけど、すぐに互いに打ち解け合えた。きっと焼き場の方々みんなが『来てくれたお客さんに楽しんでもらいたい』という心が通じ合ったからだと思う。焼き場での仕事は炎天下の中ということもあり、とても暑く大変なものだったけど、みんなの今回の祭りへの熱い想いがそれを吹き飛ばしてくれた。そして、お祭りに来たお客さんの楽しそうな笑顔、笑い声は今も鮮明に残っている。ボランティアをしに来たと同時に、多くの収穫を得た素晴らしい機会だったと思う。来年もぜひ参加したい。」（現代福祉学部2年　清水信夫）

職員の方との打ち合わせ

出店の運営補助を行いました

## ⑭　宮城県被災地ボランティア～気仙沼でつながらNIGHT～

**日時：**2016年8月13日（土）～ 8月15日（月）
**場所：**宮城県気仙沼市

宮城県被災地ボランティア

～気仙沼でつながらNIGHT～

**概要：**

**1．内容**

気仙沼市内で開かれる大谷海岸花火まつり支援をメインに、被災地域の見学やレクチャー、慰霊、仮設住宅の訪問等を通じて、被災地復興の実情と気仙沼市の文化について学習した。また、最終日は気仙沼市役所にて職員の方より「復興の状況」「気仙沼市の挑戦～地方創生～」「人を中心としたまちづくり」のテーマでレクチャーしていただいた。

**2．参加者数**

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 8月13日（土）～ 8月15日（月） | 15名 |

**3．背景・目的**

・被災地のニーズに基づいた活動を計画、実施。
・被災地への継続的な支援。

**4．参加者の感想**

「今回のボランティアで気仙沼に行ってまず思ったことは、大谷海岸にひと気が出て、活気がでてきたということです。これは、昨年も来ていたからこそ分かることだと思いました。他にも、昨年なかったものができていたりと、違いを感じることができました。また、昨年いっしょに活動した地域の方々に、今年も来てくれたの、ありがとうなど声をかけていただくこともできました。そこで私は、継続してくるということが大切だと感じました。だから、来年もできることなら足を運びたいと思いました。」（社会学部2年　長壁萌香）

「今回の活動は被災地の現在を確認できただけでなく、未だに終わることはない復興とこれからも続いていく住民の努力を見学させてもらうことで、自分を今一度見つめなおす良い機会となりました。活動がどんなものであっても、これからもボランティアには参加していきたいと思う。」（経済学部1年　野田周利）

大谷海岸献花台にて合掌

第5回大谷海岸花火まつり

## ⑮　熊本支援ボランティア第１次隊/第２次隊/第３次隊

**日時：**2016年8月27日（土）～ 8月28日（日）　/ 9月10日（土）～ 9月12日（月）
2017年2月19日（日）～ 2月21日（火）
**場所：**熊本県上益城郡益城町

**概要：**

**１．内容**

2016 年の 4 月に地震の被害を受けた熊本県上益城郡益城町にて、学生スタッフ「チームたまモン」が支援活動を行った。第1次隊（8月27日-28日）はNPO法人子育て応援おおきな木さんよりご指導いただき子ども支援を、第2次隊（9月 10 日-12 日）は公益財団法人熊本 YMCA さんのご指導により避難所内の住居スペースの清掃等を行った。第3次隊（2017年2月19日-21日）も、公益財団法人熊本YMCAさんにご指導いただき、高齢者傾聴、子どもとの遊びボランティアや仮設住宅の戸別訪問を行った。

**２．参加者数**

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 8月27日（土）～ 8月28日（日） | 3名 |
| 9月10日（土）～ 9月12日（月） | 6名 |
| 2月19日（日）～ 2月21日（火） | 4名 |

**３．背景・目的**

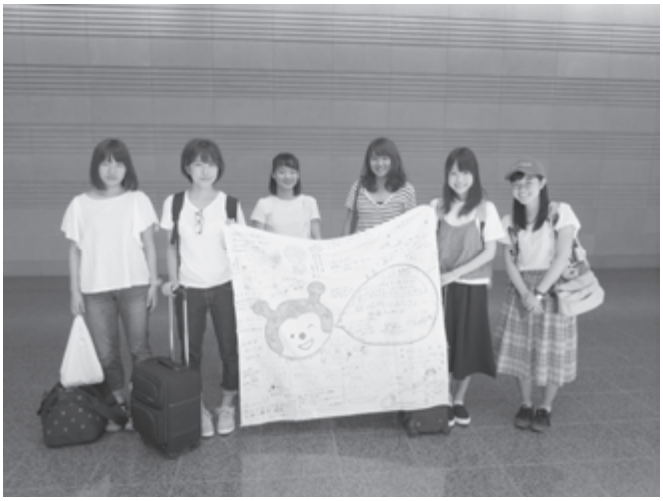
・熊本地震被災地の支援。
・地域で活動をしているNPO法人と連携したボランティアの実践。

**４．参加者の感想**

「私が行ったボランティアは、色々な人が通る廊下の床や避難者の生活空間のそうじ、避難者が退出された場所の後片付けなどでした。特に、廊下の床そうじは、その日は室内でも暑く、少ししんどくなることもありましたが、その廊下を通る人たちが、「ありがとう」、「お疲れ様」などの声をかけて下さり、素直にとても嬉しかったです。このことは、熊本地震で大変な思いをしている被災者の方々の１つの助けになっていると思うと、人の役に立てることは素晴らしいことであると感じられた出来事でした。このように感じられたことは、きっとこれからの自分に良いものになると思います。」（社会学部１年　瀬留実穂）

「被災者のお話から、行政による子どもと子どもを持つ親に対する支援が不足しているということを肌で感じました。その思いは切実でとても深刻なことだと思います。震災からもうすぐ１年を迎えます。１年は頑張ろうという気持ちでギリギリの精神状態で走り続けてきた方が大勢います。そのような人を見守り、手をさしのべなくてはならないと強く感じました。」（社会学部１年　松田成美）

第１次隊・子どもたちの遊び支援



第２次隊・気仙沼の方々からの声を届けました

第３次隊・木山仮設団地集会所での交流

第３次隊・熊本 YMCA スタッフの皆さんと

## ⑯　夏の被災地ボランティア活動報告会

**日時：**2016年9月30日（金）　15：10〜16：40
**場所：**多摩キャンパス　総合棟4階　多目的教室

**概要：**

**1．内容**

被災地支援をしている学生スタッフ「チーム気仙沼つながら騎士」「チームたまモン」の2団体が、夏休み期間中の活動について報告を行った。互いの意見を交換し、宮城多摩ボランティアセンター長、松波多摩学生センター長より講評をいただいた。

**2．参加者数**

7名

**3．背景・目的**

・気仙沼、熊本それぞれの被災地支援活動について知る。
・意見交換や講評をふまえ、今後の活動にいかす。

**4．参加者の感想**

「それぞれの活動を共有し合い、次の活動に向けての課題を見つめ直すことができました。」（社会学部2年　長谷川敬香）

学生スタッフ同士の意見交換

講評をいただきました

## ⑰　さがまちコンソーシアム「相原エリア魅力づくりコンテスト」

**日時：**2016年10月2日（日）　13：30〜16：00
**場所：**町田市役所

**概要：**

**１．内容**

さがまちコンソーシアム加盟大学５校の学生が、各々相原の資源を活用した企画を発表した。学生スタッフ「チームあいはら魅ラクル」が参加し、「優秀賞・相原にぎわい創生プロジェクト賞」を受賞した。

**２．参加者数**

２名

**３．背景・目的**

・地元である町田市相原地域の活性化について考える。
・他大学の考えを聴くことで、自分たちの今後の活動にいかす。

**４．参加者の感想**

「優秀賞という評価をいただき、大変誇らしく思います。今回の企画を通して地域に対して想い抱く人を知り、地域に生きる人の声を聞きより深く相原地域に対して学びを深めるとともに、地域活性化には多様なアプローチの仕方があるのだと気付きました。これからの地域に向けての発表や企画実現に向けて奮闘していきたいと思います。」（現代福祉学部２年　富田渓太）

「この度、町田市相原エリア魅力づくりコンテストにて、このような賞をいただいたこと以上に、私は今回のコンテストで大きなものを得ることができたと思います。今回得たものをこれからの活動に活かしていければと思います。」（現代福祉学部２年　清水信夫）

参加した「チームあいはら魅ラクル」

優秀賞を受賞しました

# ⑱　明星大学ボランティアセンターシンポジウム

**日時：**2016年10月8日（土）　13：30〜18：30
**場所：**明星大学　日野キャンパス

**概要：**

**１．内容**

明星大学で開催されたボランティア報告会に、学生スタッフ「チームたまモン」が参加。熊本地震の被災地支援ボランティア活動についての発表を行った。

**２．参加者数**

２名

**３．背景・目的**

・報告会を通じて大学間の交流を深める。
・他大学のボランティア活動を知り、今後の活動にいかす。

**４．参加者の感想**

「とても緊張しましたが、他大学のチームから学ぶことが沢山あり良い経験をさせていただきました。沢山の人とつながることができ、とても充実した時間でした。」（社会学部１年　松田成美）

「子供支援や災害を想定した訓練等、様々な視点からのボランティアについて考えを深めることができました。交流会では和やかにつながりを作れ、とても有意義でした。」（社会学部１年　中島美希）

「チームたまモン」の発表

第２部のディスカッション風景

## ⑲　ヴィラ町田運動会ボランティア

**日時：**2016年10月8日（土）～ 10月9日（日）　10：00～15：30
**場所：**介護老人福祉施設ヴィラ町田

**概要：**

**１．内容**

介護老人福祉施設にて開催される運動会に参加した。参加学生は、利用者の方も参加しやすいように配慮された玉入れや玉流しといった競技をともに行い、傾聴活動もさせていただいた。

**２．参加者数**

| 日程 | 参加者数 |
|---|---|
| 10月8日（土） | 5名 |
| 10月9日（日） | 7名 |

**３．背景・目的**

・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
・ボランティア先として日頃お世話になっているヴィラ町田の活動を支援する。

**４．参加者の感想**

「みなさんの優しさに触れ、元気さに驚き、楽しみながら活動ができ、良い経験になりました。」（現代福祉学部1年　稲垣伸）

「色々な人の話が聞けて楽しかったです。運動会も盛り上がって良かったです。」（現代福祉学部1年　竹内瑞騎）

利用者の方からお話を伺う

一緒に競技を行いました

## ⑳　住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム 2016 フォーラム

**日時：**2016 年 10 月 16 日（日）　9：00〜17：45
**場所：**住友商事株式会社　東京本社

**概要：**

**１．内容**

住友商事より助成を受けた団体の中間報告会に、気仙沼ボランティアチーム「チーム気仙沼つながら騎士」が参加。気仙沼でのボランティア活動について、現時点までの活動状況と今後の予定を報告した。

**２．参加者数**

２名

**３．背景・目的**

・他団体の被災地支援について話を聴き、今後の活動にいかす。
・自分たちの活動と今後の計画について改めて考える。

**４．参加者の感想**

「他大学の発表を聞いて、さまざまなボランティア活動について知ることができた。また、同世代の人たちの積極的な姿勢に刺激を受けた。」（社会学部２年　長谷川敬香）

「チーム気仙沼つながら騎士」の報告

ポスターセッションを行いました

# ㉑ 八木重吉メモリアルコンサート

**日時：**2016年11月3日（木・祝）　14：00〜15：00
**場所：**町田市生涯学習センター7F　ホール

**概要：**

**1．内容**

町田市民文学館ことばらんど開館10周年記念イベントである「八木重吉―さいわいの詩人―」展に学生スタッフが協力。展示となる八木重吉紹介ムービーや、企画展オリジナルグッズを製作した。11月3日のコンサートでは、有志学生が、八木重吉の詩の世界を音楽や身体表現の形で発表し、司会進行を務めた。

**2．参加者数**

46名

**3．背景・目的**

・学生スタッフ、サークル、ゼミが連携してボランティア企画を実施する。
・町田市のイベント運営に協力し、地域との連携を深める。

**4．参加者の感想**

「コンサートの司会進行という、貴重な体験をさせていただきました。リハーサルから本番まで、皆さんの八木重吉の詩への強い思いを感じることができました。」（社会学部1年　中島美希）

「今回は、このような機会を頂き、ありがとうございます。久しぶりの舞台での演奏、とても楽しかったです。自分の好きなことで、多くの人に喜んで頂けて嬉しい気持ちでいっぱいです。またこのような機会がありましたら是非、参加させて頂きたいです。」（社会学部3年　古溝菜々子）

「今回は合唱曲を吹奏楽用に編曲し直しましたが、各楽器のバランスや歌詞の世界観を生かす事を考えながら作るのは難しく、苦労しました。しかし、当日は温かい拍手をいただき本当に良かったです。貴重な機会をありがとうございました。」（社会学部2年　横田朱海）

およそ60名の方々が来場しました

参加者全員で記念撮影

# ㉒ 市民協働フェスティバル「まちカフェ！」

**日時：**2016年12月4日（日）　10：00〜16：00
**場所：**町田市役所

**概要：**

**1．内容**

町田市内で活動する団体が活動発表などを通じて交流を深めるためのイベントである市民協働フェスティバル「まちカフェ！」に、学生スタッフと国際ボランティア学生協会「IVUSA」が参加。「学生×地域で魅力増す町田」をテーマに、町田市周辺で実施したボランティアに関するパネル展示を行った。

**2．参加者数**

8名

**3．背景・目的**

・法政大学のボランティア活動の周知をはかる。
・ボランティアを通じて、町田市で活動する諸団体の方々と交流する。

**4．参加者の感想**

「町田という地域を盛り上げようと様々な団体が参加していて町が一つになっている感じがした。その中で町田にある大学として参加できてよかった。」（現代福祉学部1年　廣瀬瑠依）

「色んな団体の方や地元の方からお話を聞くことができました。出店も多くあり、楽しかったです。」（現代福祉学部1年　鈴木琴音）

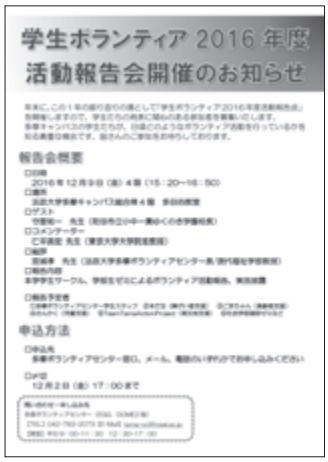
学生スタッフによる活動説明

参加したIVUSA多摩クラブのメンバー

# ㉓ 学生ボランティア 2016 年度活動報告会

**日時：**2016 年 12 月 9 日（金）　15：20〜16：40
**場所：**多摩キャンパス　総合棟 4 階　多目的教室

**概要：**


学生ボランティア 2016 年度
活動報告会開催のお知らせ

報告会概要

申込方法

**1．内容**

多摩キャンパスではサークルやグループが多種多様なボランティア活動に取り組んでいる。報告会では、「地域にスマイルを届けよう活動助成金」採用団体を含む 7 団体が活動内容、学んだことについて報告を行った。

**2．参加者数**

26 名

**3．背景・目的**

・日頃の活動を通して学んだことを発表し、振り返りの場とする。
・各自の活動に対する評価と助言を受け、今後の活動にいかす。

**4．参加者の感想**

「どの団体も活動先や地域との交流を大事にしており、またその交流の中で住民さんや利用者さんとの強いつながりができるからこそ、活動を続けていけるのだなと感じました。他の団体の活動内容を聞ける機会はあまりないのでとても参考になりました。ありがとうございました。」（現代福祉学部 2 年　岡田友佳里）

「今回参加して同じ学生が様々なところでボランティア活動をしているのだなと初めて知ることができたのでよかったです。活動報告の内で参考にしたいことがたくさんあったので、今後の活動に生かしていきたいと思いました。」（経済学部 1 年　庭野恵）

学生スタッフによる司会進行

終了後、参加者全員で記念撮影

## ㉔ 多摩キャンパスから気仙沼・益城町・楢葉町を応援するフェア

**日時：**2016年12月12日（月）～ 12月14日（水）
**場所：**多摩キャンパス　EGGDOME2階　Slow World Café

**概要：**

**1．内容**

多摩ボランティアセンター学生スタッフと市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」による協働企画。昨年同様、食堂「Slow World Café」と協力し、支援活動を行っている気仙沼・益城町・楢葉町産の食材をつかったオリジナルメニューを考案・販売し、3日間で90食を完売した。同時に被災地ボランティアに関するパネル展示や活動風景のムービー上映、被災地応援ソングのピアノ演奏会を行った。

**2．参加者数**

8名

**3．背景・目的**

・市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」の提案により協働企画が実現。
・継続的な被災地支援の実践。

**4．参加者の感想**

「場所は違いますが、3つの被災地の食材を使い1つのプレートで提供できたことで、少しでも関心を集めることができたのかなと思います。食べてくださった人に思いが届くことを願っています。」（社会学部1年　松田成美）

サメ肉の唐揚げ丼・ワカメサラダ
マミーすいとんのセットメニューを販売

ピアノ演奏を披露した古溝菜々子さん（経済学部3年）
河野栞さん（社会学部3年）

## ㉕ 八王子市無料学習教室「はち☆スタ」説明会

**日時：**2016年12月13日（火）　12：50〜13：20
**場所：**多摩キャンパス　EGGDOME5階　研修室1・2

**概要：**

**1．内容**

宮城多摩ボランティアセンター長より、八王子市が来年度より設置する無料学習教室と学習支援ボランティアのあり方について、実際に1年間学習支援を行ってきた学生2名による体験談も交えて説明会を行った。

**2．参加者数**

5名

**3．背景・目的**

・子どもの貧困について考える。
・実際の学習支援活動について話を聞き、理解を深める。

**4．参加者の感想**

「無料学習支援が必要である現状や、支援があることで変わることを知り、参加してみたいと感じました。実際に活動を行なっている先輩方のお話も聞けて良かったです。」（現代福祉学部1年　鈴木琴音）

「子どもの貧困が世間で注目される中で大学生として意義のあるボランティアだと考えさせられました。」（現代福祉学部1年　恩田祐希）

子ども支援のあり方について考えました

自身の体験を語ってくれた学生

# ㉖ ベルマークをゆくのき学園に送ろうボランティア

**日時：**2016 年 12 月 15 日（木）　12：50〜13：20
**場所：**多摩キャンパス　EGGDOME3 階　コモンルーム

ベルマーク・ペットボトルキャップを
小中一貫ゆくのき学園に送ろう

ペットボトルのキャップが、世界の子供達へのワクチンに！
ベルマークが、学校の教材備品に！
今回はそんなキャップとベルマークの洗浄、切り分けのボランティアを行います。
一緒にゆくのき学園のこどもたちに届けましょう！

| | |
|---|---|
| <日時> | 2016年12月15日（木）昼休み（12：50〜13：20） |
| <場所> | EGGドーム3F コモンルーム |
| <内容> | ・ペットボトルキャップの洗浄<br>・ベルマーク・古切手の切りとり<br>・点数DX! |
| <備考> | ハサミがある人は持参してください |

申込み・お問い合わせ
多摩ボランティアセンター（EGG DOME3 階）
TEL 042-760-3071　E-mail: www.vc@tsuc.ac.jp
開館日 月・水・木・金 10：00〜16：00　火・土・日・祝 12：00〜17：00

**概要：**

**1．内容**

多摩キャンパスでこの 1 年間集めたベルマーク約 300 枚、古切手約 1000 枚の回収・整理作業を行った。ベルマークは町田市立小中一貫ゆくのき学園、古切手は町田市社会福祉協議会に寄贈する。

**2．参加者数**

14 名

**3．背景・目的**

・学生たちに、ボランティアは堅苦しいものでなく、誰にでも出来ることであると知ってもらう。
・地域の回収活動に協力する。

**4．参加者の感想**

「ベルマークを集めることで、色々なジャンルに幅広く使われていくことを再認識できました。 新しい気づきもあり、参加できてよかったです。」（現代福祉学部 1 年　工藤安理沙）

「切手切りはハサミ 1 つでとても簡単でした。 珍しい切手の絵柄もあって、友達と見せ合いながら楽しんで参加できました。」（現代福祉学部 1 年　秋山静香）

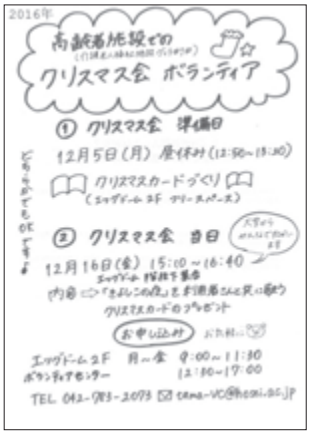
切手の回収作業

ベルマークを回収・整理しました

# ㉗ ヴィラ町田クリスマス☆ボランティア

**日時：**2016 年 12 月 16 日（金）　15：10〜16：40
**場所：**介護老人福祉施設ヴィラ町田

**概要：**




**1．内容**

介護老人福祉施設ヴィラ町田にて、クリスマスボランティアを行った。参加学生が利用者の方一人一人に手作りのクリスマスカードを配り、ユニットごとに「きよしこの夜」を合唱した。

**2．参加者数**

8 名

**3．背景・目的**

・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
・高齢者分野への興味、関心、知識を深める。

**4．参加者の感想**

「サンタやトナカイの被り物をして、施設内のユニットを 1 周しました。全員で「きよしこの夜」を合唱し、利用者の方一人一人に手作りのクリスマスカードを渡して回りました。利用者の方々も一緒に歌ってくださり、温かい雰囲気の中、ボランティアを行うことが出来ました。短い時間でしたが利用者の方に喜んでもらえて本当にうれしかったです。」（現代福祉学部 4 年　中根千秋）

「きよしこの夜」の合唱

利用者の方と一緒に歌いました

## ㉘ 大学生ボランティア写真展＆イベント 2017～被災地と多摩地域の架け橋～

**日時：**2017 年 2 月 8 日（水）～ 2 月 12 日（日）
**場所：**イオンモール多摩平の森

**概要：**

**１．内容**

昨年同様、多摩地区 6 大学・行政・社会福祉協議会と合同で、学生の被災地ボランティアについてパネル展示と活動報告を行った。また、同時に開催された防災イベントにも参加した。

**２．参加者数**

8 名

**３．背景・目的**

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・他大学の学生の活動を知り、自分たちの今後の活動にいかす。

**４．参加者の感想**

「被災地ではどんなことができるのか、とても考えさせられました。他大学とはもちろんですが、地域の方々ともふれあうことのできた貴重な 1 日でした。」（社会学部 1 年　松田成美）

被災地での活動報告

多くの人と交流できました

# ㉙ 学生活動報告会［ガクマチ EXPO］

**日時：**2017 年 2 月 12 日（日）　13：00〜16：00
**場所：**町田市生涯学習センター7F　ホール

**概要：**

**1．内容**

「地域おこし」「まちおこし」をテーマに、町田・相模原で活動する大学の学生団体が、スライドを用いた活動報告とポスターブースセッションを行った。本学学生スタッフ 2 名を含め、全 7 団体が参加した。

**2．参加者数**

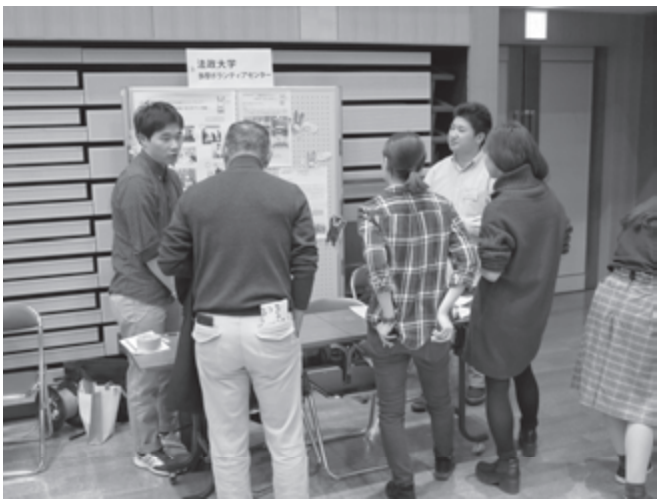
2 名

**3．背景・目的**

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・相原地域で行ってきた活動を学外に向けて発信する。

**4．参加者の感想**

「相原は自然に恵まれ、住民と大学生が一緒に山歩きするようなところ。これからもこの魅力を発信していきたい。」（現代福祉学部 2 年　富田渓太）



ポスターブースセッション

参加団体と交流を深めました

# ㉚ あいはら芋煮会＆SAMURAI コンサート

**日時：**2017 年 3 月 2 日（木）　9：30〜15：00
**場所：**大地沢青少年センター

**概要：**

**１．内容**

「相原地区高齢者支援対策事業」として開催されている「あいはら芋煮会＆SAMURAI コンサート」に、ボランティアサークル「こはる」や佐藤繭美ゼミのメンバー11 名と多摩ボランティアセンター学生スタッフ５名が参加し、会場の事前準備や受付の補助を行った。

**２．参加者数**

16 名

**３．背景・目的**

・相原地域の人々との交流。
・学生スタッフとボランティアサークルが協働で支援を行う。

**４．参加者の感想**

「相原地域の住民の方々と沢山お話しできて本当に楽しかったです。来年も学生参加者がもっと増え、積極的に活動できたらいいなと思いました。」（現代福祉学部４年　中根千秋）

「美味しい芋煮を食べながら、地域の方々とたくさんお話できて、心も体も温まりました。相原地域のお話を聴いて、初めて知ることがたくさんあり、今後も地域について知りたいと思いました。最後には、コンサートもあり、充実した１日になりました。」（現代福祉学部４年　神藤涼香）

参加者の皆さんと芋煮を頂きました

SAMURAI メンバーによるコンサート

# 2016年度　多摩ボランティアセンター　イベントカレンダー

| 月　日 | 曜　日 | イベント・講座・訪問先 | 概　要 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| 4月10日 | 日 | 町田市立ゆくのき学園見学会 | 協定校である町田市立ゆくのき学園を見学 | 5名 |
| 4月29日 | 金 | 町田市生涯学習センター利用者交流会 | 町田市生涯学習センターの第3回利用者交流会 | 7名 |
| 5月1日 | 日 | 大学生パフォーマーによる熊本地震・チャリティーイベント | 熊本地震を支援するためのチャリティーイベント | 7名 |
| 5月8日 | 日 | ひの新選組まつり街頭募金活動 | 熊本地震を支援するための街頭募金活動 | 11名 |
| 5月8日 | 日 | 第3回「学びの道」整備ボランティア | 学びの道プロジェクトの第3回 | 8名 |
| 5月13日 | 金 | 第4回「学びの道」材木運搬活動 | 学びの道プロジェクトの第4回 | 7名 |
| 5月18日-5月20日 | 水-金 | 熊本地震被災地支援募金活動 | 熊本地震を支援するための募金活動 | 69名 |
| 5月22日 | 日 | ヴィラ町田傾聴ボランティア＆Voice of Winds演奏会 | 吹奏楽サークルVoice of Windsによる演奏会と傾聴ボランティア | 24名 |
| 6月14日 | 火 | めじろ台ふれあいサロン傾聴活動 | めじろ台ふれあいサロンにて地域の方からお話を伺う | 2名 |
| 6月22日 | 水 | 町田市立ゆくのき学園大戸小学校児童来訪 | ゆくのき学園大戸小学校の児童らが授業の一環でボランティアセンターに来室 | 1名 |
| 6月27日 | 月 | 多摩ボランティアセンター長との意見交換会 | 多摩ボランティアセンター長と学生スタッフの意見交換会 | 14名 |
| 6月28日 | 火 | 八木重吉記念館清掃ボランティア | 八木重吉記念館周辺の清掃活動 | 3名 |
| 8月4日 | 木 | 第5回「学びの道」整備ボランティア | 学びの道プロジェクトの第5回 | 4名 |
| 8月6日-8月7日 | 土-日 | 八王子まつり山車曳きボランティア | 八王子まつりでの山車巡業 | 7名 |
| 8月7日 | 日 | ヴィラ町田夏祭りボランティア | ヴィラ町田夏祭りの運営補助 | 5名 |
| 8月13日-8月15日 | 土-月 | 宮城県被災地ボランティア<br>～気仙沼でつながらNIGHT～ | 復興支援ボランティア・スタディーツアー | 15名 |
| 8月27日-8月28日 | 土-日 | 熊本支援ボランティア第1次隊 | 熊本地震被災地域でのボランティア活動 | 3名 |
| 9月9日 | 金 | 第6回「学びの道」整備ボランティア | 学びの道プロジェクトの第6回 | 3名 |
| 9月10日-9月12日 | 土-月 | 熊本支援ボランティア第2次隊 | 熊本地震被災地域でのボランティア活動 | 6名 |
| 9月30日 | 金 | 夏の被災地ボランティア活動報告会 | 夏季休暇中に行った被災地支援についての報告会 | 7名 |
| 10月2日 | 日 | さがまちコンソーシアム<br>「相原エリア魅力づくりコンテスト」 | 「町田市相原エリアの魅力」を紹介するプレゼンテーション | 2名 |
| 10月8日 | 土 | 明星大学ボランティアセンターシンポジウム | 大学生ボランティアの活動報告会 | 2名 |
| 10月8日-10月9日 | 土-日 | ヴィラ町田運動会ボランティア | ヴィラ町田運動会の運営補助 | 12名 |
| 10月13日・10月20日 | 木・木 | 八木重吉記念館清掃ボランティア | 八木重吉記念館周辺の清掃活動 | 12名 |
| 10月16日 | 日 | 住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム 2016フォーラム | 住友商事助成金の中間報告会 | 2名 |
| 11月3日 | 木 | 八木重吉メモリアルコンサート | 町田市民文学館ことばらんどが開催する特別展に関連するライブイベント | 46名 |
| 12月4日 | 日 | 市民協働フェスティバル「まちカフェ！」 | 町田市で活動する団体の活動報告・交流会 | 8名 |
| 12月9日 | 金 | 学生ボランティア2016年度活動報告会 | 多摩キャンパス学生による活動報告会 | 26名 |
| 12月12日-12月14日 | 月-水 | 多摩キャンパスから気仙沼・益城町・楢葉町を応援するフェア | Slow World Caféにて被災地コラボメニューの販売 | 8名 |
| 12月13日 | 火 | 八王子市無料学習教室「はち☆スタ」説明会 | 多摩ボランティアセンター長による学習支援ボランティア説明会 | 5名 |
| 12月13日 | 火 | 第2回めじろ台ふれあいサロン傾聴活動 | めじろ台ふれあいサロンにて地域の方からお話を伺う | 2名 |
| 12月15日 | 木 | ベルマークをゆくのき学園に送ろうボランティア | 回収したベルマークなどの整理作業 | 14名 |
| 12月16日 | 金 | ヴィラ町田クリスマス☆ボランティア | 介護老人福祉施設ヴィラ町田でのクリスマスボランティア | 8名 |
| 12月26日 | 月 | 第7回「学びの道」整備ボランティア | 学びの道プロジェクトの第7回 | 4名 |
| 2月8日-2月12日 | 水-日 | 大学生ボランティア写真展＆イベント2017<br>～被災地と多摩地域の架け橋～ | イオンモール多摩平の森にて、他大学と合同でボランティア活動を報告、展示 | 8名 |
| 2月12日 | 日 | 学生活動報告会[ガクマチEXPO] | 「地域おこし」「まちおこし」をテーマに、町田・相模原で活動する大学学生団体の活動報告会 | 2名 |
| 2月19日-2月21日 | 日-火 | 熊本支援ボランティア第3次隊 | 熊本地震被災地域でのボランティア活動 | 4名 |
| 3月2日 | 木 | あいはら芋煮会＆SAMURAIコンサート | 相原地域の芋煮会に参加 | 16名 |

| 講師、協力先 | 備　考 |
|---|---|
| 町田市立ゆくのき学園 | 新入生、新学生スタッフとゆくのき学園を見学。本学学生が行っているボランティア活動について、ゆくのき学園のボランティアコーディネーターにお話をいただき、校内を見学した。 |
| 町田市生涯学習センター | 町田市生涯学習センターで開催された利用者交流会に本学サークルJazz Study Clubが参加。オープニングアクトを担当し、演奏を披露した。 |
| 中央大学・明星大学・日野市社会福祉協議会・イオンモール多摩平の森 | 中央大学・明星大学・日野市社会福祉協議会が企画したチャリティーイベントにて、本学学生が募金活動に参加した。 |
| 中央大学・明星大学・日野市社会福祉協議会 | 日野市で開催されたひの新選組まつりにて、熊本地震の街頭募金活動に協力した。 |
| 町田市立ゆくのき学園・大戸源流森の会 | ゆくのき学園と本学をつなぐ「学びの道」整備ボランティアの第3回を実施した。階段を設置し、およそ50段を完成させた。 |
| 町田市立ゆくのき学園 | ゆくのき学園と本学をつなぐ「学びの道」整備ボランティアの第4回を実施した。準硬式野球部の学生が、ゆくのき学園の生徒とともに、学びの道整備のために利用する材木を作業地点まで運搬した。 |
| | 学生スタッフ、法政大学体育会ラグビー部、サークルTeamTama Action Project合同で、キャンパス内にて熊本地震被災地支援募金活動を行った。 |
| 介護老人福祉施設ヴィラ町田 | 吹奏楽サークルVoice of Windsのメンバー21名による演奏会、学生ボランティア3名による傾聴ボランティアを行った。 |
| めじろ台安心ねっと | 多摩キャンパス周辺地域の方々とより良い関係を築き、相互理解を深めるための訪問活動。めじろ台駅近くの「めじろ台ふれあいサロン」を訪問し、傾聴活動を行った。 |
| 町田市立ゆくのき学園・Slow World Café | ゆくのき学園大戸小学校の児童ら8名が、「まちをたんけん　大はっけん」という授業の一環で法政大学に来訪。ボランティアセンターにて学生スタッフが概要説明を行い、Slow World Caféを見学した。 |
| | 宮城多摩ボランティアセンター長と学生スタッフが「災害とボランティアについて」をテーマに意見交換会を行った。 |
| 八木重吉記念館 | 相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。 |
| 町田市立ゆくのき学園 | ゆくのき学園と本学をつなぐ「学びの道」整備ボランティアの第5回を実施した。ゆくのき学園「環境部」の生徒とともに作業を行った。 |
| 八幡上町・コンソーシアム八王子 | 八幡上町町会の山車曳き子として、八王子駅周辺甲州街道を巡業した。 |
| 介護老人福祉施設ヴィラ町田 | ヴィラ町田夏祭りにて、出店の運営や利用者の方との交流等を行った。 |
| 宮城県気仙沼市 | 仮設住宅の訪問や大谷海岸花火まつりの運営補助、被災地スタディツアー等を行った。 |
| 熊本県上益城郡益城町・NPO法人子育て応援おおきな木 | 熊本地震被災地にて、NPO法人子育て応援おおきな木の指導を受け、子ども支援を行った。 |
| 町田市立ゆくのき学園・大戸源流森の会 | ゆくのき学園と本学をつなぐ「学びの道」整備ボランティアの第6回を実施した。 |
| 熊本県上益城郡益城町・公益財団法人熊本YMCA | 熊本地震被災地にて、公益財団法人熊本YMCAの指導のもと、避難所の清掃活動などを行った。 |
| | 被災地支援を行っている学生スタッフ「チーム気仙沼つながら騎士」「チームたまモン」が夏の被災地支援活動について報告し、意見交換を行った。 |
| さがまちコンソーシアム | さがまちコンソーシアム加盟大学5校の学生が、各々相原の資源を活用した企画を発表。学生スタッフ「チームあいはら魅ラクル」が参加し、「優秀賞・相原にぎわい創生プロジェクト賞」を受賞した。 |
| 明星大学 | 明星大学で開催されたボランティア報告会に、学生スタッフ「チームたまモン」が参加し、熊本地震の被災地支援ボランティア活動についての発表を行った。 |
| 介護老人福祉施設ヴィラ町田 | ヴィラ町田で開催された運動会にて、利用者の方とともに競技に参加し、傾聴活動を行った。 |
| 八木重吉記念館 | 相原出身の詩人、八木重吉さんの命日である10月26日を前に、生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。 |
| 住友商事株式会社 | 助成いただいた気仙沼ボランティアについて、「チーム気仙沼つながら騎士」が中間報告を行った。 |
| 町田市民文学館ことばらんど・町田市生涯学習センター | 町田市民文学館ことばらんど「八木重吉-さいわいの詩人-」展のイベントとしてライブを開催。本学学生が楽曲演奏や身体表現を用いたパフォーマンスや司会進行を行った。 |
| 町田市役所 | 市民協働フェスティバル「まちカフェ！」に、学生スタッフと国際ボランティア学生協会IVUSAが参加。活動をまとめたパネルを展示し、来場者や町田市内で活動するNPOや市民団体と交流した。 |
| | 多摩キャンパス学生が、この一年間の自分たちのボランティア活動について発表を行った。 |
| チーム・オレンジ・Slow World Café・一般社団法人ならはみらい | 被災地支援の一環として、気仙沼市・益城町・楢葉町の食材を使用したメニューを考案し、Slow World Caféにて販売を行った。 |
| | 宮城多摩ボランティアセンター長が、八王子市が来年度より設置する、無料学習教室と学習支援ボランティアのあり方について説明会を行った。 |
| めじろ台安心ねっと | 「めじろ台ふれあいサロン」を訪問し、傾聴活動を行った。 |
| 町田市立ゆくのき学園 | 多摩キャンパス内で回収したベルマークの切り取り・仕分け・計算を行い、ゆくのき学園に寄贈する。 |
| 介護老人福祉施設ヴィラ町田 | 参加学生が手作りのクリスマスカードを利用者の方一人一人に配り、各ユニットごとに「きよしこの夜」を歌った。 |
| 町田市立ゆくのき学園 | ゆくのき学園と本学をつなぐ「学びの道」整備ボランティアの第7回を実施し、道が開通した。 |
| イオンモール多摩平の森・多摩地区6大学・八王子社会福祉協議会・日野市社会福祉協議会・日野市役所 | 多摩地区の大学・行政とともに被災地ボランティアに関する活動パネル展、防災イベントに参加した。学生スタッフは宮城県気仙沼市・熊本県上益城郡益城町で行ったボランティアについて報告を行った。 |
| 町田市生涯学習センター・桜美林大学・玉川大学・さがまち学生Club | 「地域おこし」「まちおこし」をテーマに、町田・相模原で活動する大学学生団体が活動報告、ポスターブースセッションを行った。 |
| 熊本県上益城郡益城町・公益財団法人熊本YMCA | 熊本県上益城郡益城町の木山仮設団地地域支え合いセンターにて、公益財団法人熊本YMCAの指導のもと、子ども・高齢者支援を行った。 |
| あいはら住民福祉協議会・町田市社会福祉協議会・大地沢青少年センター | 「相原地区高齢者支援対策事業」として開催されている「あいはら芋煮会」に参加し、事前準備や受付業務を行った。 |

## 第４章　　小金井ボランティアセンターの活動の概要
## 小金井ボランティアセンター活動総括

小金井ボランティアセンター長
渡部　靖夫

小金井ボランティアセンターは、法政大学学生の精神的向上とピアサポートを基本にし、小金井キャンパス周辺の地域との連携も考えたボランティア活動を目的にしている。

活動目標としては、①ボランティア活動を行う学生スタッフの継続的募集、②当面行える社会的なボランティア活動の実施、③地域を中心とした（根ざした）具体的活動を検討することである。在学生に小金井ボランティアセンターの存在を知ってもらい、今後の活動に参加してもらうこと、そしてスタッフとなって経験を積んでもらうことをあげている。

小金井キャンパスでは、2011 年の東日本大震災に伴うボランティア活動が落ち着いた後、しばらく活動が限られたものになっていたが、2015 年度以降、小金井キャンパスの学生のスキルや特技を活かした、地域に対するボランティア活動実施等の検討に着手した。その結果、2016 年度における具体的活動としては、①11 月に「介助犬とのふれあいから障がい者にとっての優しい社会を考えよう！」と題して小金井キャンパス初の講座を開催した他、②同時期の小金井祭・工学展で、地元子供達を対象にした工作教室・紙飛行機教室・人工イクラ生成・「不思議な水」体験教室などを開催した。また、③地元に対する貢献として、「農業サークルあぐり」が小江戸東京野菜を育てる地元農家の支援なども行った。

今後とも学内外にボランティアセンターの情報発信を行うとともに、これらの活動を支援・発展・拡充させていきたい。

**事業名：ボランティア講座　介助犬とのふれあいから、障がい者にとっての優しい社会を考えよう！**

**プロジェクト：**ボランティア支援プロジェクト

**日　時：**2016 年 11 月 17 日（木）16：50〜18：20

**場　所：**小金井キャンパス　遠隔・視聴覚室（西館 1 階）

**概　要：**

１．内容

小金井ボランティアセンター主催のボランティア講座「介助犬とのふれあいから、障がい者にとっての優しい社会を考えよう！」を実施し、10 名が参加しました。

2016 年 4 月より障害者差別解消法が施行されました。障がい者の方々の社会参加と自立を促進するための法律です。このような社会の動きを背景に、本学学生の皆さんに障がい者に方にとっての優しい社会とは何か、私たちができることは何かを考えるきっかけつくりとして、本企画を実施しました。

当日は、社会福祉法人　日本介助犬協会の職員 2 名と介助犬 PR 犬 1 頭に本学に来校いただきました。日本介助犬協会職員の方より、介助犬を取り巻く法制度、介助犬が生まれてからリタイヤするまでの育成過程や、介助犬の訓練についてお話しいただきました。その後、介助犬 PR 犬による「床に落ちている硬貨を拾いあげる」「冷蔵庫からペットボトル飲料を持ってくる」「靴や靴下を脱がせる」「会場内に隠した携帯電話を探してもってくる」のデモンストレーションがありました。

介助犬を理解すると同時に、介助犬を訓練する訓練士の方々の「障がい者を支援したい」という熱意に触れることができ、大変有意義な講座でした。

協力：社会福祉法人　日本介助犬協会

２．参加者数

１０名

**期待する効果・狙い：**

**・本学学生に障がい者にとっての優しい社会とは何か、健常者ができることは何かを考えるきっかけ作りとして実施。**

法政大学


市ケ谷ボランティアセンター

市ケ谷キャンパス　外濠校舎1階

〒102−8160

東京都千代田区富士見2−17−1

電　話:03−3264−9516

F A X:03−3264−5728

E−mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

多摩ボランティアセンター

多摩キャンパス　EGG DOME 3階

〒194−0298

東京都町田市相原町4342

電　話:042−783−2072

F A X:042−783−2074

E−mail:tama-vc@hosei.ac.jp

小金井ボランティアセンター

小金井キャンパス
管理棟2階小金井学生生活課内

〒184−8584

東京都小金井市梶野町3−7−2

電　話:042−387−6041

F A X:042−387−6201

E−mail:kgakusei@hosei.ac.jp